

7. 調査研究の実際と処理

この調査研究の具体的な手順については、5.3. 調査構造とその手順（41頁参照）において、その具体的項目をあげてこれを示しておいたので、ここでは繰り返さない。また調査対象地域についても、4. モデルケース設定とその意義（24頁参照）において記述したので、それを参照してもらつてここでは省くことにする。ただ上記で説明されなかつた個々の細かい点について、羅列的ではあるが最初に触れて、7.1.~7.2. では調査研究の順にしたがつて具体的な資料も記載していくことにする。

① 調査対象の抽出

○第一次調査の地域人の生活の事実を洗うしごとでは、これが生活体制へ切り込むための問題決定をねらつたものであることは、今までの記述で明らかであるところである。したがつてここではその地域にある生活の事実や問題を網羅的に調べる必要がある。そして問題の所在を概観し予見しようと意図したのであるから、できるだけ広範囲に調査対象を選ぶことが大切である。そこで全部落の世帯調査票をつくり、その中から全部落民の三分の一を抽出（小学校児童は別に学校を通して調査することとして1才~12才までのものを省く）ことにした。この三分の一のものは(イ)職業、(ロ)職業の規模、(ハ)社会的地位、(ニ)性別(ホ)年齢によつて層化して、この分類の中から一定の比率(ホ)で無作為抽出をした。さらにその際

- ・各調査者が各世帯に行きわたること。
- ・病氣その他でいかなる方法でも調査に耐え得ないものは考慮すること。

などの条件から無作為抽出による該当者を、もう一度学校当局と検討し、各層内で客観性を失わない程度に、有意的に按配した。

なお年齢層については、いろいろの分類もあるが、^(註17)フレンケルやその他の分

(註17) フレンケルの分類：—

17 ~ 28	28 ~ 48
48 ~ 63	64 以上

類を参考として、これにさらに日本の戦争——敗戦——転換という現実社会の動き、田舎の実態からみた地域人の家庭・社会の地位等を按配して分類した。すなわち年令的な生活の差からくる人生観のずれをみて、そこから問題を捉えようとした。

(0才~5才)	戦争、敗戦の影響を直接的にはほとんど受けていない。物ごとの考えが全く未分化。
(6才~12才)	小学生——他人を多少意識するようになってきている。戦争・敗戦の影響を小さいながら受けている。
(13才~19才)	戦争または敗戦のどさくさを小学生として経験している。批判的にものごとを見るようになってきている。教育のブランク状態に直面した。
(20才~25才)	勤労働員の対象となつた。教育のブランク状態に直面して、現在青少年の中堅である。
(26才~30才)	入営徴で戦争を直接経験している。結婚生活にはいつた青年男女が大部分、分家問題でなやむ。
(31才~35才)	戦時中は応召・徴用の対象となる。政治的にも活動して、村では中堅的存在。
(36才~50才)	家計を掌握している。最も働きざがり……社会的・政治的・こどもが小・中学校にはいつている。
(51才~60才)	社会的・政治的にも円熟期にあり、部落の重立ちはこの層に多い。家庭的にも孫があり、一家の中心的存在。
(61才以上)	功なり名とげて社会的にも一歩後退の時期にあり、家庭的にも若いものにまかせているものが多い。

なお個人カードとしては次のようなものを作つて分類整理した。

第5表 個人カード

○	一 次 層	二 次 層	世帯 番号	氏 名			職 業	備 考
				続 柄	年 令	学 歴		

○第二次調査における対象の抽出は有意抽出であるが、これは第一次の調査から集約したその地域の問題を中心に、地域の人々の生活体制に切り込むための調査であるため、どうしても対象に面接してきき出すより方法がないわけである。そのために世帯を単位として訪問し、世帯を構成している個人個人にい

る質問してきき出そうとしたのである。そこで全世帯の約 $\frac{1}{4}$ を降らない数について訪問することにして有意抽出をした。^(註18)大原部落は 39/78 世帯 (A…12 B…16 C…11) 大夫浜部落は 40/147 世帯 (A…7 B…14 C…19) である。

○三次の環境実態については、第二次調査で問題になつた環境についてのみ確めの意味で行つたのであるが、これは質問紙の形式にして全世帯から記入してもらつたのである。

(2) 項目の決定

これについては、先に述べられた基本線より全員の検討の結果決定したが、5.3. 調査構造とその手順(41頁参照)で述べてあるものを見てもらいたい。ただ調査が第二次の生活体制にはいつてくると、その地域の実情が異なるために調査内容も異つてくる。したがつて項目についても基本的方向を同じくしつつも、相当のちがいがでてくるのは仕方のないことであつた。詳しくは具体的な資料のところへゆずつて、第一次の項目のみを重複するようではあるが、やや詳細に記載してみよう。

第一次地域社会調査表

お 願 ひ

みなさんの小学校の教育を、いつそよくするために、村のみなさんからいろいろご意見をいただきたいと思ひます。ごめんどうなおねがいとおそれ入りますが、次のことがらについて、ありのまま、お考えを記入してください。みなさんのご意見は他へはもらしません。

- 記入上の注意 (1) じぶんの考えを、じぶんでかいてください。
- (2) じぶんでかけない時でも、じぶんの考えをはつきり言つて、そのままかいてもらつてください。
- (3) かくまえに、ひととおりのおわりまで読んでください。
- (4) ご意見はいくつか書いてくださつてもけっこうです。

(註18) 大原部落と大夫浜部落で抽出数の比率のちがうのは、調査者の訪問可能な限度を考え合せて、40世帯を訪問可能な限度とした。したがつて $\frac{1}{4}$ を降らない限度になるべく40世帯に近づくように抽出したのである。

(5) 書くことがらはできるだけ広い範囲で考えてください。

例えば 保健衛生・しごとやくらし向きのこと・交通通信
交際(つきあいのこと) 慰安厚生・教育・政治・犯罪
や災害・文化教養・信仰…………

質問一 ろばたや寄合いや世間話などで、話のたねになつたことがらをかいてください。

性別(男・女) かぞえ年(才) 職業() 学生は学校名をかくこと

わかりやすくかいてください	
例 1	医者でなおいぬ病気が天理教にかかつたらなおつたそうた。
例 2	今年は稲がしくじつて不作だつたから、わり当は何とがまけてもらわなければならぬ。
例 3	あすこの次男坊(おじ)は予備隊(保安隊)に行つてきて、ばかに金まわりがいいということだ。
1	
2	

質問二 この村や部落またはあなたの家で、この二三年の間におきた主な事件をかいてください。

	いつごろ	どんなこと
例 一	おととし	村で村民総出で勤勞奉仕をして大きな貯水池をつくつた。
例 二	去 年	村では、ふとした不注意から「せぎり」がたいへんはやつて困つた。
例 三	せんだつて	何某の家の次男坊が東京へ家出した。
1		
2		

質問三 この村や部落またはあなたの家のことで、あなたが困つたことだと思ふことがあつたらかいてください。

例 一	冠婚葬祭では、たいへん金がかかつてこまる。
例 二	私は末にはどうして生活していつたらよいだろうか、全く途方にくれてしまう
1	
2	

質問四 私たちの生活はだんだん変ってきたと思われませんが、あなたの村や部落または家の生活の上で、とくに変わったと思われることがあつたら、それをかいてください。

例 一	部落に共同ぶろができた。
例 二	終戦后男女の交際が自由になり、目にあまるようなことが多くなつた。
例 三	村の道路がよくなつたので、バスがとおるようになり大変便利になつた。
1	
2	

質問五 この村や部落またはあなたの家にある、昔からのしきたりやいつたえなどを、次のことがらについてかいてください。(お産・結婚・そうしき・まつり・病氣・正月や盆・家のしごとなど)

	しきたり・いつたえ	こ と が ら
例 一	い い つ た え	〇〇地蔵の石でこするといぼがなおる。
例 二	嫁 入 り	嫁入りの時はしようじに穴をあけたり、雪や土くれなどをぶつける。
1		
2		

質問六 この村や部落またはあなたの家のことで、改めた方がよいとあなたが思っていることがらをかいてください。

例 一	結婚式やそうしきの費用を減らしたい。
例 二	機械・畜力などの方面に、もつと力を入れて収入の増加をはからねばならない。
例 三	かけてはいろいろのことを言うが、人の前では話をしないのは、改めなければならない。
1	
2	

(※ なお例一～例三のことがらには、こだわらないようにして、じぶんの考えでかいてください。

◎ 上の質問のおこたえで、かききれなかつた場合、その他必要なことがありましたら、下に記入してください。

記 入 欄

③ 調査の方法

○第一次は個人を対象として、抽出による質問紙法を中心に、面接・きき取り・記録による調査方法を加味してやつた。

・抽出された対象に対して質問紙による調査

・教師の側に対して

1. 地域慣習に対して
2. 地域の特目につく事実

} 生活のスコープ（前日のプリントによる）

3. 昔からの事件・沿革史——古文書・日誌・古老の話等をきいて記録する。
4. 児童についての観察や記録をみたりきいたりする。

（精神的・身体的な発達や特質・児童生徒の生活上の傾向性や事例・主なる事件・父兄の声）

（記録としては、児童観察要録・学級要録・学校日誌・通番日誌・養護記録や日記・会議録）

5. 児童の学力検査 国語・算数（研究所編）社会・理科（国研作成）……後日実施することにして説明のみする。
6. 性格行動評定記述尺度も説明のみ。
7. 生活の作文 2年～6年について家の問題・部落の問題・村の将来について一時間くらい、じっくり話し合いの時間をもち、その後でそんな内容の自由選題で作ってもらう。

・当日児童に対しては

1. 2年～6年まで、家で“ほめられたこと”“叱られたこと”について隔日に三日間詳しく作文形式・短文形式でかいてもらう。
2. “よいと思つたこと”“悪いと思つたこと”“こうしてもらいたいこと”について家・部落内・村内に分けて記述させる。
3. 生活作文をつくってもらう。
4. 児童の役員との懇談をする——児童に関する内外の事件・大人への要求・児童会日誌・その他記録（質問紙の項目をにらみ合せながら）
5. 知能検査 田中B式をする。

・地域人に対しての面接調査（各層の代表的なものに対して）

○内 容 質問紙の事柄について具体的にきく

○人 数 一所員 約三名として十二名

・第一次調査当日の日程案

- | | |
|---------------|----------------------|
| 9.00 — 9.50 | 学校職員との打合せ——部落有力者への挨拶 |
| 10.00 — 12.00 | 知能テストと生活内容テスト |

第一日	1.00 — 2.00	学校提供の記録の整理
	2.00 — 3.00	児童役員との面接
	3.30 — 5.00	学校職員との懇談
	6.00 — 10.00	村内各層の方との懇談——当日調査の整理と話し合い (調査対象へは第一日目の放課後 用紙を配布してもらい ……提出は十二月二十四日)
第二日	9.00 — 9.30	地方教委・村長に挨拶
	10.00 — 12.00	地域人に対し——・部落の空気や部落の生活を大づかみする て面接調査 ・質問紙の結果と対照する
	1.00 — 2.00	古文書・古老の話をきく
	3.00 — 4.30	中学校側教師と話合う

○第二次の調査は抽出のところでも述べたように面接調査をやつたが、その他に、特に

- ・青年団(男・女)との座談会をもつて、青年たちのものの考え方や態度を把握した。
- ・婦人団体との座談会をもつて、女の立場からの云い分や意識・態度を把握した。(これは共に非常に活潑で、家庭を訪問した際に戸主を前にして話してくれたものよりは相打ちがあつたものがでてきたし、それぞれの立場からの積極的な意見や不平不満もあり、彼女らが常に何を考え、どう割り切つているか、またそれが家庭や世間ではどうしていなければならないか、それがどうなつているかなど、貴重な資料が得られた。)
- ・児童については当研究所作成の性格行動記述尺度で行動評価をする。

○第三次は世帯を対象にしたの質問紙による悉皆調査をしたが、さらにそこから出てきた結果と、第二次の結果との食いちがひに対しては、特定の人や各種団体の長を訪問して確めの面接調査をした。

④ 処理の方法

これについては、両グループでそれぞれのものを集計し、その資料のもとに解釈した原簿を、全体会に持ち込んで、調査の全体的な基本的立場から比較検討していつた。そして両者の食いちがひを生じた場合は、徹底的な検討討議を重ね、或は部分的な補充調査をやつて処理の適正を期した。特に第二次以下の調査は、地域の質的な問題に深く食い入るために、調査の項目・内容・細部の方法が異つてきたため、全体会で慎重な検討が必要であつた。

処理の具体的なものは 7.1. ～ 7.2. において詳細に記述する。

⑤ 調査上の留意点として申合せたこと

㊶ 学校・地教委・村当局との連絡上のこと。

これは面接調査の内容が家庭・部落の内面的なものにまでふれていく必要があるため、単なる形式的な手続きに止らず、各当局のそれぞれの立場から、部落民に事前に了解を得てもらおうようにした。特に学校からは P・T・A の総会で趣旨を徹底してもらい、地教委・村会からは部落選出の委員・議員をとおして部落常会で内容の了解を得てもらった。

㊷ 学校に迷惑をかけない。

調査者の眼の統制をとるためにも、また小さい学校であるため、学校の事務の繁雑さを来さないためにも必要であった。

㊸ 地域人に対して圧迫感や警戒心をおこさせないように、また自尊心を傷けないようにあらゆる努力を払うこと。

㊹ 具体的なものから突いていく態度をとり、質問の仕方も「どうすべきか」「どう思うか」という心の動揺を来すような質問をさけること。すなわち事実をとらえるようにし、さらに話し合っている全体的雰囲気や態度から、その裏にあるものをつかみとるように努力した。この際に把えるものが主観的にならないようにするために、できるだけ判断の事実資料を記録して全体で検討するようにした。

㊺ 訪問の時間に対する考慮。

くつろいだ時にする。貧富の差からくる心の動揺を考慮して食事については特に考慮すること、相手の仕事のことなどを考慮する等、常に相手の立場に立つて物事を考えて調査するようにした。

㊻ 「学びとる、教えてもらう」という態度を調査者は堅持すること。

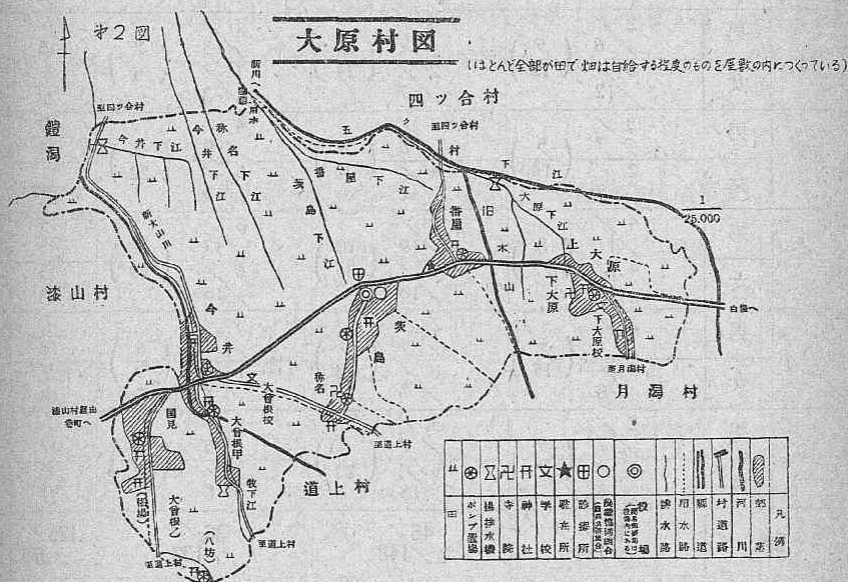
㊼ 質問事項の整理と事前の知識については十分注意を払うこと。

7.1. 純農村としての大原部落

7.1.1. 生活の事実を洗う（第一次調査）

地域社会の人々がいかなる生活の構え方をしているかを把握するためには、

先ずそうした生活の構えによつて具現される、その土地におけるさまざまの生活の事実を洗つてみるのが、もつともよいという考えで、この調査がはじめられた。そしてこの生活の事実を集計し処理することによつて、その地域社会における大方の傾向を考察し、その中から焦点となるべき問題的生活の事実を選択して、生活の構えに堀り下げるべき糸口を発見しようとするのである。



ところでこの生活の事実については、やがて実際にその土地の小学校における教育目標へまで発展させることを考慮の中に入れて(モデルケース選定にあつては小学校区を一つの単位基準として自然村の検討をしたことは前述のとおりである)、13才以上の地域人を対象としたものと、小学校児童を特に取り出して対象にしたものとの二つにわけて調査を進めたので、以下二つにわけて記述する。

7.1.1.1. — 13才以上の地域人を対象としたもの

(1) 抽出

これについては先述したように10割割合で層化抽出をしたのであるが、抽出後各世帯による片寄りや病気・社会的地位その他の面を考慮して、有意的に修正した。抽出結果は次のとおりである。

第6表

大原部落における個人抽出表

		(生活の程度)			計
		上の部(A)	中の部(B)	下の部(C)	
1	男	$\frac{6}{18} \left(\frac{15}{40} \right)$	$\frac{7}{23} \left(\frac{15}{47} \right)$	$\frac{5}{14} \left(\frac{8}{28} \right)$	$\frac{18}{55}$
	女	$\frac{9}{22}$	$\frac{8}{24}$	$\frac{3}{14}$	$\frac{27}{69}$
2	男	$\frac{2}{6} \left(\frac{5}{18} \right)$	$\frac{3}{7} \left(\frac{5}{14} \right)$	$\frac{1}{3} \left(\frac{2}{6} \right)$	$\frac{6}{16}$
	女	$\frac{3}{12}$	$\frac{2}{7}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{6}{22}$
3	男	$\frac{3}{7} \left(\frac{5}{14} \right)$	$\frac{3}{8} \left(\frac{7}{20} \right)$	$\frac{4}{9} \left(\frac{9}{22} \right)$	$\frac{10}{24}$
	女	$\frac{2}{7}$	$\frac{4}{12}$	$\frac{5}{13}$	$\frac{11}{32}$
4	男	$\frac{4}{11} \left(\frac{8}{22} \right)$	$\frac{7}{19} \left(\frac{10}{35} \right)$	$\frac{3}{13} \left(\frac{9}{29} \right)$	$\frac{14}{43}$
	女	$\frac{4}{11}$	$\frac{3}{16}$	$\frac{6}{16}$	$\frac{13}{43}$
5	男	$\frac{2}{7} \left(\frac{5}{15} \right)$	$\frac{2}{5} \left(\frac{3}{12} \right)$	$\frac{3}{6} \left(\frac{4}{9} \right)$	$\frac{7}{18}$
	女	$\frac{3}{8}$	$\frac{1}{7}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{5}{18}$
6	男	$\frac{2}{7} \left(\frac{5}{15} \right)$	$\frac{3}{7} \left(\frac{6}{21} \right)$	$\frac{2}{3} \left(\frac{4}{9} \right)$	$\frac{7}{17}$
	女	$\frac{3}{8}$	$\frac{3}{13}$	$\frac{2}{6}$	$\frac{8}{27}$
計		$\frac{43}{124}$	$\frac{46}{148}$	$\frac{36}{103}$	$\frac{125}{375}$

(2) 回 答 率

全調査対象数は男女合せて125名であつたが、回答をしたものが男-43名、女-43名、性別無記入のため不明のものが9名で、合計96名であつた。したがつて回答率は76.8%で高率とまではゆかなかつたが、一応部落における生活の事実を洗うには大きな誤差を生じないだろうということを認めた。この調査票は先にも掲載したとおり(56頁参照)性別・かぞえ年・職業のみを書き込んでもらつて他は無記名として配布したのであるが、年令的には20~25才の女子、25~30才までの男子、それに51~60才のものの回答が案外少なかつたのは遺憾であつた。しかしこれらの層は、第二次に至つて実施する青年団との座談会及び面接調査で十分補い得る見透しがあつたので、このまま処理した。それにしても、これらの層はこの地域社会における青年団の中軸、並に頭脳の中枢

部が、或はまた家長の座・主婦の座を占めている中核的な層であることを思えば、すでにこの回答率より部落の一面をうかがうことができるような気がするのである。生活程度や社会的階層については、被調査者がわからないようなマークを票の裏面の一角につけてこれを分類したが、この点では中層が最も回答率がよく、下層が最も悪かつた。しかし大きな差はなく、大体平均していたのである。この表は部落におけるいろいろの影響を考慮して掲載することを省畧させてもらうことにする。(尚回答者数の整理は7.2.1.1.の太夫浜部落で掲載した表の形式と同じ)

(3) 調査票の集計

第7表 社会的な階層で分けてみた場合の大原地域の生活事実

(生産)	A			B			C	
	男	女		男	女		男	女
稲作のできばえ	6	6	稲作のできばえ	15	5	稲作のできばえ	7	4
耕地整理	8	2	耕地整理	22	10	耕地整理	3	2
労働力軽減について	1	6	家畜	3	3	共同作業が必要	2	1
多角的経営	4	2	機械化畜力化	4	—	多角的経営	1	1
機械化畜力化	2	1	鮭がとれる(貧乏鮭)	2	1	鮭の話	1	1
稲作と肥料	2	—	稲作法がまずい	2	—	機械化畜力化	1	—
排水工事	2	—	出稼	—	2	増産に突貫せよ	1	—
出稼	1	2	供米	2	1	出稼	—	1
供米	1	—	多角的経営	1	1	供米	—	1
婦女子は生花等より農家事にせい出せ	1	—	稲作と肥料	1	—	耕地のない百姓はどうしたらよいか	1	—
害虫駆除	—	1	土地開放	1	—	稲作は役人の言うことをきいて不敗した。大根が枯れた	—	1
牛馬改良	1	—	鮭がとれない	1	—			
道路の電線が田圃に移された	1	—						
(消費・経済)								
生活が苦しく金がない	13	8	生活が苦しく金がない	14	9	生活が苦しく金がない	11	4
冠婚葬祭に金がかかる	12	2	冠婚葬祭に金がかかる	8	1	見栄に金がかかる	3	3
外装の見栄	3	3	無駄な飲食	5	2	冠婚葬祭に金がかかる	4	1
農家収入に対して諸物価の割高	3	2	税金を減らせ	5	1	祭・映画などに金がかかる	3	1

家畜の死や病氣	1	3	華美・浮薄・遊惰	6	1	家畜の死	2	1
華美・浮薄・遊惰	2	1	家畜	2	1	金がほしいといつてもくれぬ	1	1
二・三男分家	1	1	金がかかるようになった	1	1	中学は金がかかる	—	2
物が安くなつた	—	2	勤儉貯蓄思想	1	1	税金	—	1
寄附金募金の不満	1	1	父母は金をくれない	—	1	困つて屋敷の一部を売つた	1	—
貯蓄問題	—	1	金があるのにないという	—	1	家のために出稼したいが学校の生徒だから困る	1	—
米のねだん	1	—	病人がでて生活が苦しい	—	1	無駄な飲食	1	—
組合費がかかる	1	—	家畜が高い	—	1	生活に追われる	—	1
本を買つてもらいたい金が無い	1	1	分家	—	1	冬着る着物がない	—	1
飲み屋へ行かなくなつた	1	—	売春婦へ転落	1	—	子供の金使いが荒い	—	1
宴会を少くする	1	—	麦飯より白米へ	—	1	二・三男離村傾向	—	1
			中学は金がかかるから交通費がほしい	—	1	麦飯より白米へ	—	1
			合理的消費	1	—	農機具・牛馬資金への長期融資	1	—
			生活保護者を救え	1	—	物は買わねば安くなる	—	1
			疎閑者だが生活に困る	—	1	人はいろいろ言いながら大きい家をつくる	1	—
			家をつくる人が多い	—	1	おじいさんがしんで困る	—	1
			家が平均してよくなつた	1	—			
			商店ができた	—	1			

(人格)

約束を守る(時間公休日)	6	1	約束を守る(時間公休日)	6	—	時間を守らぬ	1	1
時間観念	1	2	封建的利己的	3	—	正直者に馬鹿を見せるな	1	1
我を張る	2	—	道徳心低下	2	1	貧乏だと人が馬鹿にする	—	2
利己的	1	1	蔭口	1	1	蔭口	—	2
自主性欠如	1	—	自分勝手な行動	1	—	人まね(見栄)をして困る	—	2
一年毎に封建的になる	—	1	綽名をやめる	1	—	利己的になる	—	1
家の階級性	—	1	家格と分相応	—	1	子供が他部落と仲が悪い	—	1
人前で話をするように	—	1	公金濫費を防ぐ	1	—			
			勤勞精神高揚	1	—			

正直者に馬鹿をみ ぎるな	1	-	大きい子供がいじ める	1	-	いこひいきあり	-	1
他人を羨やみ妬む	1	-				百姓は百姓でよい のだ	-	-
公共物を大切に	-	1	婦人たちのけんか	-	1	子供ははきはきと	1	1
						人の顔を変な顔で みない	-	1
						実行力なし	1	-
						疎開者の某氏は金 をごまかす	1	-
						他人のものを大切に	-	1

(結婚生活)

家風・家格の問題	-	1	結婚と家風	1	-	子供のある寡婦は 後口がなかろう	1	-
家出	-	1				嫁姑と件が悪い	1	1
結婚問題	1	2				嫁入りに雪土を授 ける	1	-
嫁姑の争い	-	1						

(教育)

学校問題	5	8	学校に関して	6	2	学校施設	1	3
新教育への不満	2	-	学校運動場及び施設	4	1	学校生徒の行動が 目に余る	2	-
家庭教育と婦人問題	-	2	中学校に関して	3	-	地方教委	-	-
新教育はよい	1	-	今までの学校でよい	1	-	学校の昼あがり を早く	-	1
教育への理解不足	-	1				地域に即した教育	1	-
家庭のしつけ	-	1						
教育重視	-	1						
学校の指導法の研究	1	-						

(政治・犯罪)

男女同権	2	2	男女同権	-	1	犯 罪	-	2
民主的会合	2	-	民主的会合	1	-	男女同権	-	1
家庭生活の民主化	-	1	衆院選挙	-	1	封鎖的で選挙の関 心も然り	1	-
選挙改善	1	-	選挙に村民一貫	1	-			
労闘反対	1	-	選挙ブローカー放逐	1	-			
共産党	-	1	議会の話	1	-			
犯 罪	1	-	犯 罪	1	-			
			子守がおけなくな った	-	1			

(保健・保全)	A			B			C	
	男	女		男	女		男	女
傷害保全の問題	4	8	同 左	9	3	同 左	4	4
診療所	1	2	同 左	4	—	病 気	3	1
身なりをきれいに	1	—	病人のため家人を 困らせた	—	1			
			下痢流行	1	—			
			病 気	—	1			
			赤痢を絶滅せよ	—	1			
(交 通)								
道路に関して	2	2	道路を大切に	1	2	冬季通学に困る	—	3
交 通	—	2	自転車が多くなった	1	1	道路がよくなった	—	1
交通便利	—	2	道路で遊ばぬ	1	—	電話がない	—	1
交通道徳	—	1	道 路	1	—			
村道を大切に	—	1	中ノ口に橋ができた	—	1			
(文化教養レク レーション)								
文化生活	3	3	同 左	5	2	同 左	—	3
レクリエーション	1	2	家の文化的改善	5	1	レクリエーション	—	1
生活改善	—	2	レクリエーション	1	1	婦人会活動	—	1
教養を身につけた い	—	2	婦人会活動	—	2	中学生にも遊び道 具を	—	1
青年団活動	1	—	正月や盆は村は面 白くない	—	1	盆踊りがなくなつ た	—	1
村民運動会	—	1	ラジオがきけない	1	—			
村道に電燈つく	—	1	言葉使い	1	1			
			みだらな歌	1	—			
(交 際)								
男女問題	4	1	同 左	3	1	男女の交際	—	2
女の夜遊び	1	—	男女の交際	1	—			
(宗 教)								
お光さま	2	2	迷 信	3	3	迷 信	2	1
迷 信	—	2	信 仰	1	—			
(国家・国際)								
保安隊	1	—	戦争反対	1	1	社会状況不安	1	—
国際問題	1	—	保安隊	1	—	保安隊	1	—

(その他)	A			B			C	
	男	女		男	女		男	女
共同募金	—	2	早婚を止めよ	1	—	今年は変事のある年だ	1	—
共同風呂	—	1	野犬多し	1	—	ガス井戸失敗	1	—
敬老会	—	1	押売商人	1	—	映画のとき囃子をとるのを止め	1	—
天気	—	1	ラジオ討論会	—	1			
その他	1	—						

第8表 年令別の層でみた生活事実(ろばたや寄合いで話の種となつたもの)……大原部落

スコ ープ	区 分	13~20		21~25		26~35		36~50		51~60		61以上		不 明	合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
(生 産)	稲作のできばえ	3	2	4	1	2	1	2	1	2	3	—	1	5	—	27
	稲作と肥料	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	2
	耕地整理	1	—	1	—	—	1	1	—	—	—	1	—	2	—	7
	出 稼	—	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	3
	二三男の分家	—	—	—	1	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	3
	供 米	—	—	—	—	1	1	1	—	—	1	—	—	—	—	4
	家 畜	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	2
	雪が多い	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	米 価	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	稲作技術	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	貧乏鮭の話	—	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	4
	生活保護者を救え	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	多角的経営	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
稲作は役人の言うことをきいて失敗した	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
(消費 経済)	生活が苦しく金がない	—	—	2	—	1	1	1	—	—	1	1	—	7	—	14
	募金寄附金への不満	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	2
	貯蓄問題	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	何か買ってほしいと父母は金があるのにないという	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	不作不作というが家に山程米俵がある	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	今の学校でたくさんだ	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	税金を減らしてほしい	—	—	1	—	2	1	—	—	—	—	1	—	—	—	5
	合理的な消費について	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1

スコープ	区 分	13~20		21~25		26~35		36~50		51~60		61以上		不 明		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
	物を買わねば安くなる 疎開の某氏は金をごま かす	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1
(保全)	保安隊	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	3	3
	傷害保全の問題	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	3	3
保健	診療所があつてよい	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	3	3
(教育)	自主性の欠如	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1
	新教育はよい	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	新教育は悪い	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	2
	大原校はよい学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
交際	男女問題	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	3	3
(文化)	結婚と家風家格の問題	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	2	2
	嫁と姑のけんか	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
	婦人会活動	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1
	子供のあるものは後家 口は困難	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
(政治)	労闘反対	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	国際問題	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	共産党のこと	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	衆院選挙	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	議会の話	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	電産スト是非論	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
(宗教)	迷信に関して	1	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	7	7
	信仰と宗教	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1
	お光さま	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4
(レクリエーション)	中学生にも遊び道具を 慰安会開催	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	合 計	11	13	13	5	11	8	15	3	9	8	4	2	26	1	129	129

第9表 年齢別の層でみた生活事実（自分が困っていること）……大原部落

ス コ ー プ	区 分	13~20		21~25		26~35		36~50		51~61		61以上		不 明	合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
(生産)	稲作のできばえ	2	—	1	—	—	—	—	2	—	—	2	—	2	1	10
	供米	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	家畜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
	耕地のない百姓はどんな仕事をしたらよいか	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	爺さんが死んでこまる	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
	大根が枯れた	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
(消費経済)	冠婚葬祭に金がかかって困る	2	—	2	—	—	—	2	—	1	1	—	—	4	1	13
	生活が苦しく金がない	2	3	—	—	2	3	8	5	2	1	1	2	6	4	39
	外装の見栄	—	1	—	—	—	—	—	1	2	1	—	—	1	—	6
	農家収入に対して諸物価の割高	1	—	—	—	—	—	2	—	—	2	—	—	—	—	5
	学校の本を買ってもらいたいが金がない	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	疎開者で生活に困る	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	押売行商人に困る	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	税金	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	華美・遊惰	—	1	—	—	2	—	1	—	1	—	—	—	1	—	4
	家畜が高い	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	病人があり生活に困る	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	2
	分家	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1
	家のために出稼に行きたいが学校がある	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
	何かすれば金がかかる	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	2	—	5
	祭・映画に金がかかる	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	無駄な飲食は困る	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	中学は金がかかる	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	人は何だかんだ言いながらも家をつくる	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	子供は金使いが荒い	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	生産に迫れて教育できぬ	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
冬着る着物がない	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	
(文)	婦女子は生花より農家事の修養をせよ	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	家庭教育と婦人の教養	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	2

スコープ	区 分	13~20		21~25		26~35		36~50		51~60		61以上		不 明		合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
化 教 養	道徳問題（正直者は馬鹿を見る）	—	1	—	—	2	1	—	—	1	1	—	—	—	—	6
	時間観念	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	2
	一年毎に封建的な生活に引き込まれる	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
	ラジオがきけない	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1
	蔭口をいう	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
（教 育）	教育への理解不足	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	教養を身につけたい	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	大きい子供が小さい子をいじめる	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	中学が遠い	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	3
	今の教育はだめだ 勉強したいができない	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	2
2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	3	
（交 通）	道路が悪い	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	2
	村道を大切にしない	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	冬通学に困る	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	電話がなくて不便	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
交際	男女問題	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2
（政 治）	封建的・利己的で政治意識が低い	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1	—	—	—	3
	日本の社会情勢不安	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
（レ ク リ ン）	村の正月や盆は面白くない	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	その他	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
合 計		22	17	5	5	12	7	15	12	8	6	7	3	21	8	148

年齢別にみた生活事実
(改めねばならないと思つている)……大原

スコープ	区 分	13~20		21~25		26~35		36~50		51~60		61以上		不明		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
生産	婦女子の勤労軽減	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1
	多角的経営	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	2	1	3
	機械化畜力化薬品利用による労働力軽減	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
	害虫駆除(稲作)	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	堆肥増産	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	牛馬手入法改良	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	勤労精神高揚	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	共同作業すべし	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	小学校の昼食時をもう少し早めてほしい	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2
	農機具牛馬資金の長期貸付	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	増産に突貫	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
消費 経済	冠婚葬祭に金をかけない	-	1	2	-	1	-	3	-	3	-	1	-	4	14	1	15	
	宴会を少くする	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
	生活程度を切り下げないと食つていけない	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2	-	-	-	3	1	4	
	見栄をやめる	-	-	-	-	-	1	2	-	-	1	-	1	1	3	3	6	
	迷信でいらぬ経費を使わない	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2	2	
	公共物を大切に	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	共同風呂	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	
	無駄な飲食をしな	2	-	-	-	1	1	1	-	-	1	1	-	-	5	2	7	
	中学生に交通補助させよ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	公金濫費を防げ	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
勤儉貯蓄の思想啓蒙	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	2		
政治	選挙は上できめないで自分の意志でやる	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
	家庭生活の民主化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	
	選挙ブローカーの放逐	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
	会議の民主的運営	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
	犯罪をやめよ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
生活	学校は指導法を研究せよ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	子供を教育して文化生活へ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	

スコ ープ	区 分	13~20	21~25	26~35	36~60	51~60	61 以上	不明		計			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
教育	子供は子供らしくはきはきと	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	子供をいこひいきするな	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	地域に即した教育を	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	
交通	交通道德	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
	道路で遊ばぬ	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
	道路を大切に	-	-	1	-	-	1	-	1	1	2	3	
文化 教養	かまど・寝室・生活改善	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	3	3
	井戸端会議を短かくする	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	2
	嫁・姑の争い	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	2	2
	約束を守る(時間・休日を守る)	4	-	3	1	-	5	-	1	-	13	1	14
	我を張るのをやめる	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2	-	2
	正直者に馬鹿をみせるな	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	人を羨み妬いたりすることをやめよ	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	家の階級差をなくする	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1
	女は人前で話をするようにすること	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1
	風紀肅正(ワイ歌・男女交際)	1	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2
	藤口いわぬ	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	2	3
	あだ名をやめよ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	自分勝手な行動	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	言葉づかい	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2
	早婚やめよ	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1
	家の格の分相心を守れ	-	-	1	-	-	-	-	1	-	1	1	2
	人の顔を変な顔をして見ない	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1
	人の真似するな	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	青年は人の家をいためるものを何とも思わない	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	嫁入りに雪・土を投げるな	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	1
映画の時帽子をとるのをやめる	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	
交際	貧乏だと人が馬鹿にする	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	2	2
	他部落の子供と仲よくする	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

スコ ープ	区 分	13~20		21~25		26~35		36~50		51~60		61以上		不明	計			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	計	
保全	戦争反対								1			1			1	1	2	
保健	身なりをきれいにする									1					1		1	
	赤痢をなくする												1			1	1	
合 計		15	14	10	1	7	3	22	9	6	3	8	5	9	4	77	47	124

(4) 面接調査の結果

これは先にも述べたように、調査票で地域人の生活の事実を把えたものの結果を、更にそのたしかめを兼ねて、同じ項目について12世帯を部分調査としての面接したものの結果である。この結果は主観的な処理を加えず、ほとんど速記するような心組みで整理記録したのであるが、これをみると既に地域の人々の生活の構えが露呈されているものもあり、第二次調査の方向を決定する上に非常に役立つたのである。

(生産面)

ろばた

- ① 増産の話 …… 減収に対して地力を増すにはどうするか …… 客土について
- ② 二毛作で麦をつくるようになって麦がらで屋根がふけるようになって都合よい。
- ③ 米の予想話 …… 作をよくするにはどうするか。

(老人) …… 若い者は稲をみて施肥しない。
 改良員のいうことをききすぎる。

(若い人) …… 経験だけではだめ …… 科学知識

↓
対立がある
↑

- ④ 単作栽培 …… 村の経済むつかしい。
- ⑤ 土地改良の問題
有力者間に話されているが地もと負担多し。
- ⑥ 土地改良 …… 耕地整理の話し合い。
- ⑦ 炉辺の話といつたつて取りとめもない話だ。主として仕事の話である。
- ⑧ 供米の問題

(割当の不公平・補正の手加減で一俵 1,000 円ちがう)

事 件

- ① 親子別れ …… 4反ばかりの田圃ではどうもならなので家出した。
- ② 年よりと若者との間における、仕事に対する意見のくいちがひ。
- ③ 交換分合に関するいざこざがある。
- ④ 最近裏作にとりかかつた。
- ⑤ ガス井戸を掘つて利用している。
- ⑥ 耕地整理を動機として上下部落合体の空気がおきてきた。
- ⑦ 主人が病気で廃人同様になつた。(五年前)

変つてきたこと

- ① 上下部落の水に対する利害よりの反目は、水利がよくなつて合併への和が醸成されてきた。
- ② ガス井戸が多くなつた。
終戦后増加して現在30戸以上(自噴4戸)
一本 4万円
圧搾 …… 電気月300円 油代2,000円
- ③ 縄製造が3年前頃より盛んになつた。
- ④ 戦時中、並にその後、モーター動力作業機が盛んになつた。
理由 { 油の欠乏……頼めない
・ひきちんの高価 } 五反百姓はない。作業機のないもの4戸
・好景気 (28:4)
- ⑤ 自動耕耘機が多くなつた。水利がよくなつたため共同使用形態で、数は多い方でない。
- ⑥ 春田が楽になつた。
理由 { 自動耕耘機
・牛馬耕
・除草器 24-D
- ⑦ 女の労働が軽減された。(別にどこへどう利用するというでないが)
- ⑧ 百姓はあまり閑口になつていない。若いものは別だ。
- ⑨ 楽でないが働き甲斐がでてきて、よく働くようになった。
- ⑩ 子供の手が使えるようになってうまくゆくようになった。
- ⑪ 耕地整理の必要感が起きてきた。
- ⑫ 二毛作の必要を感じずようになった。
- ⑬ 農事懇談会を上下部落共同でやるようになった。
- ⑭ 土地改良推進委員会ができた。
- ⑮ 農家の仕事がいへん変つてきて電気でやるようになった。

困ること
改めること

- ① 電力・ガスを利用して何か生産に役立つ仕事を起すべきだ。
単作を補うために現金収入の方途を講ずべきだ。
火力利用による農産加工。
- ② 村の商工会 ～～～ 鍛冶・大工・店との共存共栄をやるべきだ。
- ③ 飛躍的増産をはからねば単作の苦しみを脱せられない。
- ④ 村会での重点施策 ～～～ 勸業問題
- ⑤ 耕地整理をもつとどんどんやるべきだ。
- ⑥ 二・三男は分家できない。(土地なし)
卒業後隊いで町へ分家。
- ⑦ 私の家は木耕地整理田が約一町歩あるが、早く整理田になると仕事の面で大変たすかる。
- ⑧ 主人が五年前病気で廢人同様になつたのは困る。
- ⑨ 耕作地がないので困っているが、今の時勢では誰れも小作させてくれる人がいない。
- ⑩ 中学はよいが、家の仕事の忙しい時休ませられないので困る。～～～ たまに休んで手伝いさせる。
- ⑪ 毎日の生活に追われて考えてみたこともないが、ただ金をとるために一生懸命働いているだけだ。それが良いかどうかなど考えない。

(分配・消費面)

ろばた

- ① 嫁の荷物を飾るのをやめたいという話。
- ② 嫁にやりたいが金がかかつてやれない。
- ③ 何某の家で何普請をした。
- ④ 家のがらを装うことを気にし話し合う。
- ⑤ 若い女達は身なりや洋服の話でにぎわう。
- ⑥ 若い男達は密合・外出の服装を気にし話し合う。
- ⑦ 近頃の農家は暮しがつまってきた。
 - ・不 作
 - (原因) (・物価が米価に比較して上がった) しかし方策的なことは話し合われない。
 - ・やみ米ができなくなつた
- ⑧ 闇米ができなくなつて経済面が苦しくなつた。
- ⑨ 金がなくてこたえる。
(但し、食うに困るのでなくて、農機具や家の普請が思うようにできないことだ)

⑩ 嫁入り、婿入りのうわさ。

(家格・衣装・道具・かざり・料理・ひきもの)

(結婚式の晩は殆んどすべての家の女が見に行く)

事 件

① 金をくれるくれない等のことが一家のいざこざの原因となる。

(分家への財産分配・子供の見栄・ねだつた金のくれ方が少ない)

変つたこと

① 村民が見栄を張るようになった。

・水利がよくなり増収された

(理由) (・つましくも一生、はででも一生という考えだ

・交通関係から白根がちかくなつた

② 戦后結婚のかざりがひどくなり、競争するようになった。

③ 生活が一般に、はでになつてきた。例えば家の下男なども、外にでる時は洋服などきてどうかと思う。

困つたこと
改めること

① 文化的経費が以前よりよけいかかる。(見栄)

(映画館・和装・洋装・運動)

② 米価は今は統制で落ち着いているが、今後自由販売になると不安。

③ 村は一般に質素でつましいが、しかし嫁入りにはとても金を使う。

(他家とのつりあいを考える)

④ 5町・1町・5反百姓がみんな一しように張り合う。

⑤ 学校は小さいが、一世帯並に施設を備える必要があるので困る。

⑥ 交通費がかかつてこまる。→白根に高校がほしい。

⑦ とつた金はかざりに使つてしまう。……このあとで困る。

⑧ 土地改良で家がみんな平均されたので互に張り合う。

⑨ 嫁入りの仕度に費用がかかりすぎる。——申し合せは完全に守られない。

⑩ 分家して生活をたてる際、わずかの土地をもらつた程度では将来どうしていつたらよいか迷う。

零細化傾向。

(1町なけてやる家はない) → 1町なければ単作経済成立せず

⑪ 生活を楽にするには田圃をふやさなねばならない。

⑫ 最近結婚が昔にかえつて見栄を張るようになった。

そのため莫大な金がかかるようになった。自分も年頃の娘をもつているので常に悩みの種である。

- ⑬ 嫁にやるについてできるだけしてやりたいが（親の人情として）、今少しな
んとかならないか。
- ⑭ 嫁婿の調度品を飾るのもなんとかしたい。

(人格尊重面)

ろばた

- ① われわれは何もわからない、物のわかる人にきいてもらいたい。
我々の意見などはつまらないから。
- ② お産の時、お日様がでていると、笠をかぶつて出るのだが、私はでない。
- ③ 嫁はろばたの話には加わらない。世間話をきくことなく、大い野良か台所
である。
- ④ 家の嫁なんか何もわからない。台所で働いていけばよいのだ。
- ⑤ 嫁入りのようすについての話し合い。（家の格とか、釣り合いが関心のま
となる）
- ⑥ 相忌相愛に対しては家の格がちがう時に問題がおきて、ろばたの話となる。

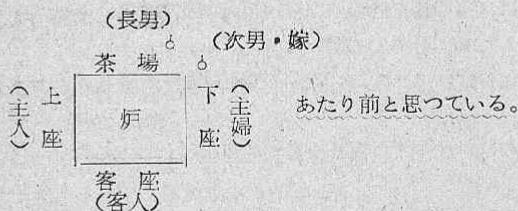
事 件

- ① 嫁と姑のいざこざ。
- ② 小姑が嫁に行く時に（家の格や両親の立場、自分の立場から）着物の一枚も
よけいつくつてやるために苦勞して働いた。
- ③ 長芋・ごぼうの悪いのは、すべてこれ自分の責任（嫁）である。→せつな
そうであつた。
- ④ 一家の亭主なるものは、すべての責任を負つて出なければならないので大変
だと思ふ。（嫁）
- ⑤ 言葉の言いまわしがわるくて感情を害して問題をおこす。（嫁-姑・老人-
若者）

困ること
改めること

- ① 姑の理解がたりない。
- ② 一家の主人夫婦が他所へ出た不在中は、特に粗末なものを食べ、家のものに
手をつけないようにしていなければならない。
- ③ 嫁入りについて、道具より、よく働いていける人であるべきだ。働くために
は身体が資本だ。（嫁）身体が丈夫ということは家のためである。したが
つて少しくらい身体の具合が悪くても働かねばならない。（主人）
- ④ 嫁入りの支度は派手になっている。道具は人に誇示しなければならない。
（主婦）

- ④ 親は“昔はこうだった”とすぐ言うが、今は時勢が變つて来ているので、私は昔のことにはめこむのは反対だ。
- ⑤ ボロ着で野良に出たくないが仕方なし。(嫁)
- ⑥ へそくり金は一家の主婦になつた時だ。嫁がそんなことすると、親の顔に泥を塗る。
- ⑦ 子供に何か買つてやりたいが、それが自由にできないでせつない。
- ⑧ 会合の時は青年は青年らしく堂々と意見をいうべきだ。
- ⑨ 今の青年団の役員は団員に言われてからやつと動く、尤も役員には仕方なしになつたのだから仕方なし。(辞退の理由……手間をかく)
- ⑩ 常会になると村民は前が弱くて何も言わない、しかしかげではいろいろ云つてゐる。これは永年の習性からだが、やめるようにしなければならない。
- ⑪ 改めていかねばならないこともあろうが、結局大きい流れに従つていくより仕方なし。
- ⑫ 団体役員は自分たちで金を出しあうのであろうけれど、温泉などに行くのは村民に余りよい感じを与えない。
- ⑬ 嫁は出産後一週間たてば、自分で汚れ物を洗濯し、自分の食物をつくるのが普通だ。一家の主婦ともなれば別だけれど(嫁)
- ⑭ 女は家事やあとじまいでどうしても男より仕事が多いがこれは仕方がない。
- ⑮ 座席はきまつている。(どの家もこれ)



- ⑯ 座敷の建増しをせまい屋敷内にしたが、一番適当な所に建てることを年寄りが反対した。
- (理由) ()
- ・田圃をつぶすなんて、世間ていが悪い
 - ・身分不相応だ
- ⑰ 暮しはだんだんつまつてきたが、別にどうしようということもない。
—まあ仕方がない。
- ⑱ 縁談は若い者の考えと老人とおりあわず、なかなかまとまらない。
- ⑲ 婦人会の活動が活発でないのは“女のくせにとびまわつてゐる”と評判され、講習会など出たいが出られない。

(交 通 面)

- ① バスが頻繁になつて白根が近くなつた。
- ② 白根が近いので大原校区は進歩している。
- ③ 巻——新津間の電車をひきたい。

(保 健 面)

- ① 国民保健ができて金がかからない。
- ② トラホームが多い。(もらい湯で手拭共用、これは仕方なし)
- ③ 防犯的なものには手をつけていない。
- ④ 保健娯楽は大たいうまくいつている。(青年文庫等)
- ⑤ 売薬をつかつている。

(保 全 面)

- ① 馬が腹をふくらまして死んだ。
- ② 犯罪問題は殆んどない。
- ③ 和がうまくいつて平和な部落だ。
- ④ うらみから来た放火が一件あつた。
(風紀 ~~~ 男女問題 ~~~ 家格)
- ⑤ 漆山で自警団をつくつたので泥棒を捕えた。それで自分らも特別必要ないが防犯に役立つので自警団をつくつた。
- ⑥ 他部落の青年が夜やつてきて、女に合わせないと集団的に乱暴を働くことあり。

(文 化 教 養 面)

- ① 農鍛治をやつているが、三条あたりに弟子入りしてみると、頭が働かないので結局だめだ。そこで教育の大切なことを痛感するが金がない。
- ② 二・三男の出稼・分家で、教育の程度が低いため世の中がこげない。
- ③ 教養の不足はその時その時の頭の切り変えができないで融通がきかない。
- ④ よい百姓をするには教育が必要であり、実地についた科学的な思考が必要だ。
- ⑤ 教育など金がかかりすぎる。
- ⑥ 百姓は教育すると土地に居つかない。
- ⑦ 学校の時間が規則的でない。
- ⑧ 会合の時間がいつも一時間くらいおくれる。
- ⑨ 高校を白根にほしい。
- ⑩ 高校に進学させるという進歩的積極性なし。
- ⑪ ろばたでは、役場からの書類の内容がわからないといつて、いろいろきいたり話し合つたりする。
- ⑫ 白根中学に子供をやつていてよい。(町から用事を足してくれる。学校も進んでいる)
- ⑬ 女は教育しても家庭をもてばだめだ。

- ⑭ 教育はさせなければいけない。 (111)
⑮ ラジオは飾りのようなもの。

(レクリエーション面)

- ① 学校の運動会・学芸会が女にとっては唯一のたのしみ。
② 若い者は映画に行く。
③ 戦争直後流行した演芸はこのどろあまり流行しない。(風紀問題がやかましい)
④ 寄合いという酒盛りになり、宴会が多いのは改めねばならない。
⑤ 嫁にとっては講習会に出席せられ、家から開放されることがレクリエーションの機会だ。(おびの講習はよかつた)
⑥ 夏は野球・庭球、冬は弁論が青年のたのしみ。
⑦ 若い女には生花 ~~~(これはもつと他の生活に密着するものがあればその方がよい)
⑧ 金でもできたら温泉旅行か湯治に行きたい。
⑨ 農繁期に一日くらい休みをとつて、集つて夕飯を食べるのがたのしみ。
⑩ 青年が願ひ出て公休日をとる ~~~ みんなにふれる。
公休日(1・15日)・ 臨時公休日・ おいあげ・ 無常休み
⑪ 公民館・婦人会・青年団などで農閑期に映画をする。
⑫ 若いものは白根・新潟に映画をみに出かける。

(政 治 面)

- ① 選挙は党より人を選ぶ → 村の利害関係から割り出す。
② 党派的な区別なし。
③ 選挙の時は部落の重立ちがきめておしつける。(部落民の一人一人に自主性なし、全村一致の行動をとる → 不平もある)
④ 大原部落は部落根性が強いと言われるが、協力しているのだ → それは学校を中心にまとまつている。(だから青年団競技なども圧倒的だ)
⑤ 上・下部落で村の生活のことを(仕事・まつり・病氣・虫等)分担してきめをつくり、互に他部落はそのきめを無条件できく。
⑥ D・D・T等のことはよく守るが、犬などのことは守らない。即ち直接生活の利害に関係してくればよく守る。
⑦ 民政・政友の派系はむかしからない。
⑧ 今まで上大原の水は下大原にはさげられないことになつていた。 → 水利がよくなり、地条件がよくなつて交換分合もやれるようになったのでこれがなくなつた。 → 若いものは下大原、上大原の合併を望んでくるようになった。(経済的理由)
⑨ 税金に対しては、そんなに困ると思つていない。不平を言わない。

- ⑩ 中学校問題……部落が一段とかたまる。
- ⑪ 共産党……村には5~6名いるが、信念的なものでなく生活のための便乗主義。
- ⑫ 朝鮮事変・保安隊には関心なし。
- ⑬ 内閣の問題。

(5) 教師が見た部落の生活事実

部落の生活事実を多少なりとも、第三者的立場から見ていると思われる小学校教師に面接し質問の矢をむけてみた。これは部落の人々から得たものを、さらに裏付ける上に意味があると思つたのである。小学校教師としては部落民に対して多少の配慮もあつたかも知れないが、次のようなことを語つてくれた。

教 師 と の 面 接

(生 産 面)

- ① 子どもは農繁期に手伝いや留守居・子守りの程度。
- ② 子どもの縄ないが盛んである。(冬期) ~~~ グループをつくつて → 左官が使う。
- ③ 農機具に金を出すことを惜まない。むしろ出し過ぎるくらい。
- ④ 裏作が奨励され麦・なたねを作る。その場所を自動耕耘機で耕やすが、十分生かして使つているとは言えぬ。
- ⑤ 糞は大体原料のまま売る。
- ⑥ 運搬のための舟がすたれて(土地改良のため)、リヤカー・牛馬車をつかう。
- ⑦ 低湿地で他村の悪水が集つて来るのを防ぐために水路を作り、耕地整理をしてきた。→ これは引き続いてやることが、望まれている。
- ⑧ 機具のある割合に裏作は少い。~~~ 一般に機具は高度に活用されていない。
- ⑨ 耕地整理の必要感が高まつてきたのは、労力を省くという点に大きな理由あり。
- ⑩ (子供) ……農繁期の手伝いとして縄ないが自治会で決定されたが、方法については決めない → 先生の指示で図書購入と結びつけた。
- ⑪ 耕地整理は金かけてまでやる必要なしというのが、最近は積極的にやるようになってきた。
- ⑫ 村の人は百姓の仕事にだけ一生懸命に働くというようすがよく見える。

〈消 費 面〉

- ① 中学生の買食いが白根中の P・T・A の議題にのぼつたが、小学校に集めて注意したらすぐなおつた。
- ② 青年の服装は他とくらべると質素である。
- ③ 何かというと飲む宴会が多すぎるようだ。
- ④ 家の中の調度・用具などに見栄をはり、競争して出費している。
- ⑤ 冠婚葬祭なども相当派手にやり、節約する約束をしているが実行されていない。
- ⑥ 村は大まかな経済計画はあるかもしれないが、科学的な計画はたてていないのでないか。どうもそう思う。

〈保 健 面〉

- ① トラホームは児童の半数 ～～～ トラホーム町村指定。
- ② 貰い湯をする ～～～ 手拭は共同に使う。
- ③ 水が不便で川水で顔を洗う。
- ④ 井戸の水質悪い ～～～ 飲料水に適しない。ほとんどこして飲む。……掘り放し井戸。
- ⑤ 鍋釜等川で洗う家がだいぶある。
- ⑥ 塵芥場は家の空地にすてて堆積する。D・D・Tはここにはまかない。
- ⑦ 便所には手洗水をおかない。
- ⑧ 万年床はなくなつた。

〈慰安・厚生・娯楽面〉

- ① 学校の運動会や学芸会は、村のレクリエーションの機会である。終ると慰勞に P・T・A 負担で子供に鉛筆、あめなど買ってやる。
- ② 寺お講は神社の祭より賑やかで、親類をまねぎ、嫁はいちげんのように立派に、して親が連れていく。まるまげを結つてるので、それを見に来る人が多い。
- ③ 単調である。(映画写・浪花節)
- ④ 男は酒をのむが、主婦の慰安は余りないし、婦人会も積極的でない。

〈文 化 教 養 面〉

- ① P・T・A は学校に対して全面的に協力し、特別学校に対する要望なし。会長が一度、学年末の賞に対して、できるだけ多く賞揚してほしいといつたのみ。
- ② 公民館の補助を得て、婦人会主催の文化講習が時々開かれる。おび結び講習・洗濯・料理・農家経済などの講習が年に6～7回あり、冬講習会には70～80名の参加。
- ③ 生花の講習が多い。(外に適当な教養機関や機会がないから生花を習う)
- ④ 青年団は村青年団の季刊雑誌を発刊協力。

- ⑤ 先生を講師として冬季青年学級が開かれる。
- ⑥ 特別目立つた文化教養活動はないようだ。
- ⑦ 政治については積極的な活動事実はあまりない。村民全般にははなはだ低調だと思ふ。

(交 通 面)

- ① 雪による交通阻止。
- ② 稲の運搬は舟よりリヤカーに変わってきた。
- ③ バスが通つて交通が便利になった。そのため商人もよく入るし、村人も出かける。女子は派手になつてきた。
- ④ 自転車は各戸に一台は必ずある。

(人格・教育面)

- ① 村の人は純朴である。
- ② 人前では一般にあまりはつきり物が言えない。
- ③ 教育は学校の存廃問題に関する限りは実に積極的である。そのために学校を守らうという空気が強い。
- ④ 余り他部落とけんかしない。(児童は大曾根番屋の子どもがいじめるといふ
~~~~ チンチクリンと言われてだまつて逃げてくる)
- ⑤ 大曾根校への併合をおそれ、大原校存続には非常に強固な執着をもつ。
- ⑥ 中学依託問題 → いろいろあつたが、白根にした。
- ⑦ 中学とのP・T・Aはダブらない。
- ⑧ 小学校の児童は風紀問題をおこしたことなし。
- ⑨ 部落の中はよくまとまつている。和やかな生活ぶりで犯罪事件もない。
- ⑩ 部落のきまりはよく守つている。~~~~ 村八分などはないが昔はあつたよう  
だ、今は青年が休みをもらう(部落幹部から)とそれをふれてまわつて、そ  
のとおりにしたがう、たとえ従わないものがあつても注意する程度だ。
- ⑪ 人前をかんがえてよく見栄をはる。

以上の他に風俗慣習についてきき出して見たが、これは第二次で計画している生活の構えに直接関係してくるので、第一次の問題的生活事実の決定の他に第二次の処理のときにもこれを参考にした。なお第一次の調査内容としては、夜部落民から学校に集まつてもらつて、顔つなぎ・今後の調査依頼を兼ねて懇談をした。この懇談の内容からも調査事実を裏付ける有力な資料を得たのである。

## 風俗習慣

- ① 邪教迷信におちいるくせがある。
- ② 昔からこうしてきたのだ → 伝統的な考えが強い。
- ③ その時その時の頭の切り替えができない。
- ④ まわりの人・世間体ということが生活を拘束する。
- ⑤ 病氣に対する恐怖がある。
- ⑥ 部落の一角くらいはいなり様や地藏様をおがむ。
- ⑦ 井戸を掘る時は塩花をまく。  
ガス井戸はこんじんのおほらいをする。(でないと困る。けがを防ぐ)
- ⑧ 産婦は火をもやしたり、鳥居をくぐらない。
- ⑨ 百姓は教育はいらない。 → 離村傾向。
- ⑩ お光様は迷信と思うが、現に医者でなおらぬ病者がなおっているので信じないわけにいかぬ。
- ⑪ 主として健康上の問題で迷信を信じている。(保全もしかり)  
(寺尾の地藏尊・みこの告げ・お光様)
- ⑫ “〇〇寺年始!..”のかけ声で村中をまわり、各家は住職にぬかづく。
- ⑬ 寝室の戸はなかなかあけない。
- ⑭ 組や字内でかどある時は互に手伝いに行く。
- ⑮ 嫁のやりとりは家柄が問題になる。
- ⑯ 二・三男は嫁を貰つても、親といしよに大家族として当分過し、労力を提供し、その間に分家の構えをとる。
- ⑰ 見栄をはる。
- ⑱ 嫁の荷物は飾る、着替えをし、引物を大きさにする。これは常に世間話の話題となり、婦人会の申し合せは守られない。
- ⑲ 葬式があると部落は休日になる。(無常休み)
- ⑳ お産のけがれを忌む。
- ㉑ 大安とか、何とか日を選ぶ。
- ㉒ 上大原では新年に全部各戸を廻り、門口で挨拶。
- ㉓ 分家や出入りの者は本家へ必ず顔出しする。
- ㉔ 結婚は部落内でするものが多い。
- ㉕ 宗教心が強い。

風俗慣習(迷信・いつたえを含む)は、細かいものはまだあるが、あとは大ていどこの農村、山村等の田舎社会にもあることで特記するまでもないので省畧したい。



### 7.1.1.2 児童調査

(註19)

児童生徒の問題的な生活の構えを把えるため、先ず児童生徒の現実の生活事実を明かにしようとした。このため全児童生徒を調査対象とした。

第11表 調査数

| 種別    | 学年 |    | 性別 |   |   |    |   |   |   |   | 計  |     |
|-------|----|----|----|---|---|----|---|---|---|---|----|-----|
|       | 9  | 8  | 7  | 6 | 5 | 4  | 3 | 2 | 1 |   |    |     |
| 調査対象数 | 男  | 9  | 6  | 8 | 9 | 10 | 9 | 7 | 5 | 2 | 65 | 123 |
|       | 女  | 12 | 11 | 9 | 1 | 5  | 8 | 4 | 5 | 3 | 58 |     |
| 調査数   | 男  | 8  | 5  | 7 | 9 | 10 | 9 | 7 | 3 | 1 | 59 | 109 |
|       | 女  | 11 | 5  | 6 | 1 | 4  | 8 | 4 | 4 | 3 | 50 |     |

※ 7.8.9. 年の中学生は中蒲原郡白根町中学校に依託通学している。

#### (1) 家庭における家事の手伝い

第12表

##### (1 農閑期)

| 年 学           | 9 |    | 8 |   | 7 |   | 6 |   | 5 |   | 4 |   | 3 |   | 2 |   | 1 |   | 計  |    |    |
|---------------|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
|               | 男 | 女  | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男  | 女  |    |
| 子 守 り         | 1 | 6  | — | 2 | 1 | 4 | 1 | 1 | 2 | 3 | 4 | 4 | 1 | 1 | — | 2 | — | 1 | 4  | 23 |    |
| 掃除(ふきそ<br>うじ) | — | 6  | 2 | 3 | — | — | 5 | — | 1 | — | 3 | 4 | — | — | 2 | 2 | 1 | — | 14 | 15 |    |
| 水くみ・風呂<br>の仕度 | — | 6  | — | 1 | 1 | — | 3 | — | — | — | 1 | — | — | — | — | — | — | — | —  | 5  | 7  |
| 食事の仕度・<br>準備  | — | 10 | — | 5 | — | 2 | 3 | — | — | — | — | 1 | — | — | — | — | — | — | —  | 4  | 17 |
| 食後の始末         | — | 10 | — | 5 | — | 3 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | —  | 0  | 18 |
| 留 守 居         | — | —  | — | — | — | — | — | — | — | — | 3 | — | — | — | — | — | — | — | —  | 3  | 0  |
| お使い・買い<br>物   | — | —  | — | — | — | — | — | — | — | — | 3 | 8 | 3 | 3 | — | 1 | — | — | —  | 6  | 12 |
| つぎ物・あみ<br>物   | — | 1  | — | 2 | — | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | —  | 0  | 4  |
| 縄ない(手・<br>機械) | 8 | —  | 5 | — | 3 | 1 | — | — | 4 | — | — | — | — | — | 1 | 1 | — | — | —  | 21 | 2  |
| 他             | 1 | —  | 1 | — | — | — | 1 | — | 6 | — | — | — | — | — | 1 | — | — | — | —  | 10 | 0  |

(註19)

7.1.1.1 で述べた教育目標への発展を考へて焦点を小学校児童に据えながらも、できる範囲内で参考的に中学校生徒まで含めるようにした。

(2 農 繁 期)

| 学 年             | 9  |    | 8  |    | 7 |   | 6 |   | 5 |   | 4 |   | 3 |   | 2 |   | 1 |   | 計  |    |   |
|-----------------|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|---|
|                 | 男  | 女  | 男  | 女  | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男  | 女  |   |
| 子 守 り           | -  | -  | -  | -  | 1 | 2 | 3 | - | 4 | 2 | 4 | 6 | 2 | 1 | - | 2 | - | 2 | 14 | 13 |   |
| 掃除・水くみ          | -  | -  | -  | -  | - | - | - | - | - | - | 1 | 2 | 1 | 1 | - | - | - | - | 1  | 3  | 3 |
| 食事の仕度・<br>後始末   | -  | 4  | -  | 2  | - | 1 | - | - | - | 1 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | 2  | 7  |   |
| 留 守 居           | -  | -  | -  | -  | - | - | - | - | - | - | 1 | 7 | 3 | 4 | - | - | - | - | 4  | 11 |   |
| 田植え・苗とり         | 10 | 17 | 10 | 11 | 4 | 6 | 5 | 1 | 4 | 4 | 3 | 0 | - | 1 | 1 | - | - | - | 37 | 40 |   |
| 苗 は こ び         | 2  | -  | 3  | 1  | 2 | 1 | - | - | 5 | - | 1 | 2 | 2 | - | - | - | - | - | 15 | 4  |   |
| 稲 刈 り           | 6  | 9  | 4  | 4  | 3 | 1 | 1 | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 15 | 14 |   |
| 稲かけ(はざ<br>かけ)   | 3  | 7  | 2  | 7  | 2 | 4 | 6 | 1 | 5 | 4 | - | 1 | - | - | 2 | - | - | - | 20 | 24 |   |
| はざおろし・<br>稲はこび  | 1  | 2  | 2  | 1  | 2 | - | 4 | - | 4 | 1 | 1 | 1 | - | - | - | - | - | 1 | 14 | 5  |   |
| リヤーカー押<br>し、舟引き | 3  | 1  | 4  | 3  | - | 1 | 2 | - | 2 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 11 | 6  |   |
| 他               | -  | 3  | -  | 1  | 1 | 1 | 3 | - | 1 | - | 2 | - | 1 | 1 | - | 2 | - | - | 8  | 8  |   |

農閑期は高学年男児は縄ない、女子は炊事風呂の仕度などが主なる仕事であり、低学年は子守り、お使いが多いが、一度農繁期になると、ほとんど大部分のが、放課後から夜の8時頃まで、日曜は終日働いている。農家では子供も有力な生産生活の担い手という役割を果たしている。

(2) どんなことでほめられ、叱られるか

第13表

| ほめられたこと |    |    |    |    |    |     | 叱られたこと        |    |   |    |    |    |    |
|---------|----|----|----|----|----|-----|---------------|----|---|----|----|----|----|
| 学年      | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 計   | 学年            | 2  | 3 | 4  | 5  | 6  | 計  |
| 手伝をして   | 28 | 34 | 50 | 83 | 39 | 234 | 手伝をしない        | 10 | 6 | 13 | 30 | 10 | 69 |
| 勉強をして   | 1  | 10 | 14 | -  | 1  | 26  | 勉強しない         | -  | 8 | 10 | 2  | 3  | 23 |
| その他     | -  | 1  | 1  | 3  | 4  | 9   | 悪いたづら         | -  | - | 5  | 4  | 7  | 16 |
|         |    |    |    |    |    |     | いいつけを<br>守らない | 5  | 7 | 2  | -  | 2  | 16 |
|         |    |    |    |    |    |     | 着物をきた<br>なくして | 5  | - | -  | 3  | 2  | 10 |
|         |    |    |    |    |    |     | けんか           | 2  | 1 | -  | 2  | 3  | 8  |
|         |    |    |    |    |    |     | その他           | 3  | 5 | 14 | 15 | 4  | 41 |

※ 数字は回数を示す

父兄からどんなときに“ほめられ”また“叱られる”かを第13表の調査資料によつて見ると

- ・仕事に関することが圧倒的に多い。
- ・勉強に関することは高等年になるにしたがつて少なくなっている。
- ・“けんか”して叱られた数値が案外に少ない。

これはまた父兄から子供に何を要求しているかを知る資料ともなるであろう。

### (3) 強く感じているできごと

第14表

#### (1 おうちのできごと)

| よいと思つたこと・うれしいと思つたこと |   |   |   |   |   |    | わるいと思つたこと・いやだと思つたこと |   |   |    |   |   |    |
|---------------------|---|---|---|---|---|----|---------------------|---|---|----|---|---|----|
| 学年                  | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計  | 学年                  | 2 | 3 | 4  | 5 | 6 | 計  |
| 物を買つてもらつて           | 6 | — | 1 | 3 | — | 10 | 仕事をしなければならぬ         | — | 1 | 10 | 3 | 2 | 16 |
| 食物(間食)をもらつて         | 4 | 3 | 4 | 1 | 2 | 14 | 稲のできが悪くて            | — | — | —  | 3 | 7 | 10 |
| お金をもらつて             | 1 | 4 | 6 | 1 | 3 | 15 | 叱られて                | 2 | — | 2  | 4 | 2 | 10 |
| 旅行をして               | — | — | — | 4 | 2 | 6  | 物を買つてもらえなくて         | — | — | —  | 3 | 1 | 4  |
| 天候や農事               | — | — | — | 5 | 6 | 11 | 停電と農事の関係            | — | 1 | —  | 2 | 4 | 7  |
| その他                 | 1 | 2 | — | 1 | 3 | 7  | その他                 | 2 | — | 2  | 1 | — | 5  |

#### (2 学校のできごと)

| よいと思つたこと・うれしいと思つたこと |   |   |   |    |   |    | わるいと思つたこと・いやだと思つたこと |   |   |   |   |   |    |
|---------------------|---|---|---|----|---|----|---------------------|---|---|---|---|---|----|
| 学年                  | 2 | 3 | 4 | 5  | 6 | 計  | 学年                  | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計  |
| 遊び道具ができて            | 3 | 2 | — | 10 | 7 | 22 | 秋遠足がなかつた            | 1 | — | 4 | 5 | 8 | 18 |
| 屋内運動場の新築            | 3 | 2 | 4 | 6  | 5 | 20 | 展覧会が延期になつた          | — | 2 | 4 | 5 | 6 | 17 |
| 放送文庫の設備ができて         | 1 | 1 | 4 | 6  | 6 | 18 | その他                 | 1 | 3 | 3 | 4 | 4 | 15 |
| 運動会があつて             | 1 | — | 1 | 6  | 5 | 13 |                     |   |   |   |   |   |    |
| その他                 | 2 | 3 | 8 | 2  | 1 | 16 |                     |   |   |   |   |   |    |

(3 村のできごと)

| よいと思つたこと・うれしいと思つたこと |   |   |   |   |   |    | わるいと思つたこと・いやだと思つたこと |   |   |   |   |   |    |
|---------------------|---|---|---|---|---|----|---------------------|---|---|---|---|---|----|
| 学年                  | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計  | 学年                  | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計  |
| 火事になかつた             | 2 | 2 | 2 | 9 | 8 | 23 | 道路が悪るい              | 1 | — | 6 | 2 | 1 | 10 |
| 祭・報恩講               | — | 2 | 2 | 4 | 1 | 9  | 稲のできが悪い             | — | — | — | 2 | 2 | 4  |
| 天候                  | — | — | — | 3 | 4 | 7  | 天候                  | — | 1 | 2 | 4 | 1 | 8  |
| その他                 | — | 4 | 3 | — | — | 7  | その他                 | — | — | 2 | 3 | — | 5  |

これは子供が殊に強く感じている“できごと”についての調査であるが、この調査で子供は“よいこと”“わるいこと”は価値的なものでなく、多分に情緒的なものとしての“よいこと”“うれしいこと”と同一的に考えているようである。

高学年児童のなかで、作柄や作柄に影響を与える天候に異常な関心を示している。この頃の子供の発達段階から注目すべきことであろう。この部落が蒲原の低湿地帯として、水害による不作のため悲惨な歴史に色彩されてきたことを思えば首肯できることではあるまいか。

村のできごとのうち“火事になかつたこと”が大きな数を示している。これは“火の用心”の部落廻りを子供の手で行っている関係上、深い関心を示している表われと見ることができよう。

お祭・寺の報恩講、学校の運動会は、子供の唯一の楽しみであり、新しい運動場ができ、いろいろな施設のできたことが、単調な生活のなかに閉ざされている彼等にとって大きなよろこびであることが察せられる。

おうちのできごとのなかでいやなこととして“仕事をしなければならぬ”が16を示しているが、その内容を見ると雨降りのはざかけ、寒い日の掃除がいやなので、働くことを余儀なくされながらも、それをすでに当り前のことと思ひ込んでいる子供であるが、肉体的に悪条件下におかれれば、彼等の基本的欲求との間に大人以上のアンバランスを生じ、こうした不平となる。これは当然のことで、大人にもあり得ることである。ただこうした悪条件下でも、忙しいとなると労働を余儀なくされる農村の子供の生活実態に注目しなければならないと思う。

(4) 要求や希望

第15表 家人・村や部落・先生に対する希望や要求

| 学 年      |               | 9 |   | 8 |   | 7 |   | 6 |   | 5 |   | 4 |   | 3 |   | 2 |   | 1 |   | 計  |    |   |   |
|----------|---------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|---|---|
| 性 別      |               | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男  | 女  |   |   |
| 家人       | 記入なし          | 6 | 8 | 4 | 7 | 5 | 5 | 5 | 1 | 6 | 3 | 5 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 1 | 3 | 39 | 39 |   |   |
| 村や<br>部落 | 記入なし          | 6 | 5 | 1 | 5 | 6 | 3 | 4 | — | 7 | 1 | — | 1 | 3 | 1 | 2 | 4 | — | 3 | 28 | 23 |   |   |
|          | 道の修繕街路燈       | — | 1 | — | — | — | 2 | 2 | 1 | 2 | 3 | 9 | 7 | 4 | 3 | — | — | — | — | —  | —  |   |   |
|          | 村に中学を         | 1 | 2 | 1 | 4 | — | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | —  | —  |   |   |
|          | グランドの拡張を      | 3 | 3 | 5 | — | 1 | — | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | —  | —  |   |   |
|          | 他             | 3 | — | — | — | — | — | 3 | — | 2 | — | — | — | — | — | — | 1 | — | 1 | —  | 10 | 1 |   |
| 先生       | 記入なし          | 2 | 9 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 7 | 4 | 5 | 4 | 5 | 3 | 3 | 4 | 1 | 3 | 32 | 34 |   |   |
|          | 校舎校具の自由<br>使用 | 6 | 1 | 1 | — | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | —  | 8  | 1 |   |
|          | 退校時刻を早く       | — | 1 | 1 | 7 | 3 | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | —  | 4  | 9 |   |
|          | 宿題をやめて        | — | — | — | 7 | — | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | —  | —  | 0 | 8 |
|          | 他             | — | — | 2 | — | 1 | — | 4 | — | 3 | — | 4 | 4 | 2 | 1 | — | — | — | — | —  | 16 | 5 |   |

特に目立つ要求・希望がない。子供が比較的問題をもたず、現実の生活をそ  
ういうものと思い込んでいるせいではなかろうか。ただ中学生の中に「退校時刻  
を早く」「宿題を止めて」というのが目立つが、これは(1)の家庭の仕事と関連  
させて考えると、怠けようとする要求でなくて、家にかえつての家事労働が多  
く、そのために出る子供の環境からるく真実の叫びのように受けとれる。

(5) 作 文

自由選題によつて作文を綴つてもらつたものを見ると、

- ・二 年 …… 動物、物をもらつてうれしかつたこと
- ・三・四年 …… おうちの人にほめられたこと  
叱られたこと
- ・五・六年 …… 秋の取り入れの忙しさ  
仕事の手伝

などが主なる取材となつている。生活経験がせまく、現象面をとらえている  
ものが多く内省的なものが乏しい。これにはいろいろの要因も考えられようが

今はふれない。ただこれから、文章は素朴であるが如何によく働き、また働かされているかがうかがわれる。

(例)

いそがしい秋

六年 A

秋はいそがしい。ぼくはまいにち学校がおわると田んぼのてつたいをします。くらくなつてから、はこんできたいねをかけます。はざかけをしまつて家にかえると、もうよるの八時ころになります。おかさんは秋はいそがしいというのに、日がみじかくてこまると、まい年いつていられます。ぼくは秋が夏のように日がながかつたら、しごとがはかどつてよいと思つています。秋はしごとが多くありますが、植物が実るのでうれしいです。

#### (6) 児童会役員との面接

われわれはできるだけ子供の生活感情のなかにとけこんで、くつろいだ雰囲気なかで自由な話し合いをして、子供の底にある心性を把握することに努めた。

- ・男児は活潑に発言するが、女児は余り発言しない。
- ・考え方が大ざつぱで思いつきの発言が多い、したがつて前後に矛盾が見られる。
- ・“小さい学校”と云う劣等感が強く、それが諦観的になつている。
- ・現実的な問題は把握するが、それを内省しようとする態度が見えない。
- ・児童会などでも、自分らで問題を発見して解決しようとしていない。教師から提示された問題についてのみ話し合つている。
- ・またその解決策も皮相的である。よくいろいろのことは言うが、それが問題の中心に焦点を据えて掘り下げる討議にならないでいる。
- ・面接した感じからは、人なつこい素朴さがあり好感がもてた。
- ・女児は特に従順だという感を強く受けた。
- ・仕事をいとうような発言はなく、それは当然だといつている。よく働いているようである。

## (7) 児童の学力と知能

## (4) 被検者数と使用したテスト

第16表 1. 被検査者数

| 項   | 学年 |   | 1  |   | 2  |   | 3  |   | 4  |   | 5  |   | 6  |    | 計 |   |
|-----|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|----|---|---|
|     | 男  | 女 | 男  | 女 | 男  | 女 | 男  | 女 | 男  | 女 | 男  | 女 | 男  | 女  | 男 | 女 |
| 児童数 | 2  | 3 | 5  | 5 | 7  | 4 | 9  | 8 | 10 | 5 | 9  | 1 | 42 | 26 |   |   |
|     | 5  |   | 10 |   | 11 |   | 17 |   | 15 |   | 10 |   | 68 |    |   |   |

第17表 2. 使用した検査

| 国語 | 使用テスト                           | 実施学年                                        | 実施年月日        |
|----|---------------------------------|---------------------------------------------|--------------|
| 国語 | 新潟県教育研究所編<br>文章読解力検査            | 2年 …… 2年用<br>3.4年 …… 3.4年用<br>5.6年 …… 5.6年用 | 昭27<br>11.29 |
| 社会 | 東京教育大学 全国標準化<br>教科別総合標準学力検査(社会) | 6年                                          | 昭27<br>11.29 |
| 算数 | 新潟県教育研究所編<br>算数学力検査(4.5.6.共通)   | 4. 5. 6年                                    | 昭27<br>11.29 |
| 理科 | 東京教育大学 全国標準化<br>教科別総合標準学力検査(理科) | 6年                                          | 昭27<br>11.29 |
| 知能 | 新制田中B式 知能検査                     | 1.2.3年…低学年用<br>4.5.6年…第一形式                  | 昭27<br>11.29 |

## (四) 検査の結果について

## a. 計算

全県における村部平均と5%有意水準で各学年とも有意の差は認められない。

## b. 理応用解

全県における村部平均と5%有意水準で一部の学年を除いて有意の差が見られる。したがって、計算より理解応用が劣つていると考えられよう。

## c. 文章読解力

全県平均と5%有意水準で一部の学年の他は有意の差は認められない。

## d. 社会科

偏差値平均を全国平均と比較すると、5%有意水準で有意の差は認められない。

e. 理 科

偏差値平均は全国平均よりやや優れているが、5%有意水準で有意の差は認められない。

f. 知能について

各学年の知能段階は次のようになる。

第18表

| 段 階   | 最 劣  | 劣     | 中の下   | 中の中     | 中の上   | 優     | 最 優  |
|-------|------|-------|-------|---------|-------|-------|------|
| 偏 差 値 | 24以下 | 25~34 | 35~44 | 45~54   | 55~64 | 65~74 | 75以上 |
| 該当学年  | —    | —     | 4.5年  | 1.2.36年 | —     | —     | —    |

全校児童の偏差値平均は46.3で“中の”段階に位置している。

平均的にみて、知能から期待される学力との関係を成就値平均によつてみると、次のようになっている。

第19表 成 就 値 平 均 標 準 偏 差

| $r-\delta$ |           |      | $a-\delta$ |           |      | $\beta-\delta$ |           |     | $\varepsilon-\delta$ |           |     | $\zeta-\delta$ |           |     |
|------------|-----------|------|------------|-----------|------|----------------|-----------|-----|----------------------|-----------|-----|----------------|-----------|-----|
| $n$        | $\bar{x}$ | $s$  | $n$        | $\bar{x}$ | $s$  | $n$            | $\bar{x}$ | $s$ | $n$                  | $\bar{x}$ | $s$ | $n$            | $\bar{x}$ | $s$ |
| 10         | 2.3       | 9.3  | —          | —         | —    | —              | —         | —   | —                    | —         | —   | —              | —         | —   |
| 11         | -7.5      | 12.1 | —          | —         | —    | —              | —         | —   | —                    | —         | —   | —              | —         | —   |
| 17         | 3.1       | 9.3  | 17         | 0.6       | 7.9  | 17             | 2.5       | 9.0 | —                    | —         | —   | —              | —         | —   |
| 15         | 3.8       | 7.3  | 15         | -5.2      | 13.1 | 15             | -0.1      | 7.0 | —                    | —         | —   | —              | —         | —   |
| 10         | 0.3       | 9.0  | 10         | 0.4       | 7.0  | 10             | 0.4       | 5.5 | 10                   | 0.4       | 4.5 | 10             | 7.8       | 5.8 |

$r$ ……文読  $a$ ……計算  $\beta$ ……理解応用  $\delta$ ……知能  $\varepsilon$ ……社会  $\zeta$ ……理科

各学年の各教科の成就値平均は余り大きくない。いま成就値平均の絶対値の大きいところについて、母集団成就値が0であるという仮説を検定すると、5%有意水準で有意とは認められない。したがって、以上の資料からは学力が、知能から期待される以上に、あるいは以下にすれているとは見られない。

g. 家庭の教育に関する関心度と学力との相関

家庭の教育に関する関心度と学力検定との相関を5.6年についてみると、

|          |          |              |
|----------|----------|--------------|
| 国 語 0.19 | 計 算 0.62 | 理 解 応 用 0.42 |
| 社 会 0.11 | 理 科 0.55 | 知 能 0.65     |



国語と社会は著しく低くなっている。それに比して計算との相関は高い。

以上の調査の結果を要約すれば、検査児童が少ないので、一部を除くほかは有意とは認められないが、知能・学力とも一般に多少劣っているのではあるまいか。

### 7.1.1.3. ま と め

以上地域社会の人々の生活の事実を、13才以上の者に対する調査と児童を中心とした調査の二つに分けて扱ったのであるが、これらをまとめて整理し、生活の構えを把握するための問題的生活事実をしぼった。

(1) 大人の生活をみて先ず気付くことの第一は、この部落は争いごとというものが表面に表われていないということである。これは質問紙をとおしても、面接やきき取りをとおしても村人が誇らしげに語つたところである。なるほど犯罪ということもないらしく、ここ数年の間事件らしきものといえは、

- ・牛に突かれて死んだ人がいた。
- ・火事があつたが原因が不明であり、どうも男女問題からの放火事件らしい。

と言つた具合である。

それならば全く平和な民主的な部落なのだろうか。これを近代的な民主的な和という観点からみると、いろいろ問題となる生活事実が存在するようである。例えば、

- ・水害や学校問題で部落は一致団結してきた事実。
- ・嫁とのいざこざが家によつてはある。その他嫁に関するいろいろの事実や声。
- ・会合の時は青年は青年らしく堂々と意見をいうべきだという声。
- ・家庭の座席が定つていて、主人がいると他のものは発言しない事実。
- ・婦人会の活動が活潑でないのは、「女のくせにとび廻つている」と評判され、講習会など出にくいという声。その他男尊女卑的な事実。
- ・寺お講は嫁の唯一の慰安の機会であるという事実。
- ・選挙は部落の利害関係から割り出す。
- ・本・分家の関係。
- ・大原は部落根性が強いと言われるが、そうでなくて協力しているのだという反撥。

・葬式には全部落民は無常休みという休みをとる。

・人前では余りしやべらない。……等々

また幾多の生活事実が存在するが、こうしてみると、この「和」という事実は、内部に部落民の問題的な社会的生活行動のあり方や考え方を内包する有力な生活事実ということができ、更には生産的・文化的な生活行動にも関連をもつて見られる。

子供たちの側からみると、この「和」の問題は、直ちにここの子供の特徴と見られるところの争いごとを好まず、学校内部でもけんかが少ない事実、隣り部落の子供にいじめられても“負けるが勝ち”と考えて逃げ帰る事実につながり、また問題を持たず、従順であるという生活行動にも関係をもっているのである。

(2) 次に生産面について水田一本に頼む単作栽培という事実である。これまたこの部落の生産生活の全面を被うものであつて、調査の結果からも稲作のでき栄え・土地改良・機械化・増産・分家と土地分壊の問題等がその大部分である。「単作栽培の生活を安定させ生活を楽にするにはどうすればよいか」ということが、現在この部落民の当面している切実な生活問題であり、この解決に日夜浮き身をやつし、これが生活全面に深い根をはつて、彼等の生活行動は律せられているとみて差し支えない。一切の生活をこれにかけているといつてよかろう。このことは7.1.1.1の調査結果をみても如実に現われているので、ここでは省略する。また米の生産に関連した古い慣習もたくさんある。

さらにこれを子供の面からみても、彼等の作文は家の稲作を心配し、自分のことごとく関心をもっている。農繁期の労働状態や日常生活内容をみても、おなじく米の生産に関連している面が多いのである。家にかえれば親は米作りで忙しいので、家事労働は彼等の仕事として賦課され、それを当然と思つてよく働く。働かねば食つていけないことを子供らはよく知っている。したがつて家で親に叱られることも、ほめられることも、都会の子供ならば勉強に関してか、悪戯・お使いに関してであるのに反して、ほとんど家の仕事に関してである点も注目しなければならない。

すなわちこの部落の生産的生活行動としては水田耕作一本で、これに対する部落民の構え方が、他の生活に対する構え方を規制していると見てよい。またこの生活を突いていくことによつて他の生活内容にもふれられ、広くいろいろの「構え」をここから探求することができるのである。

- (3) 次に問題となるのは、水田耕作と直結している問題なのであるが、「生活が苦しい」という事実である。これについては率直に「金がなくて苦しい事実」をあげているものも多いが、中には「冠婚葬祭に金がかかる」とか、「見栄をはるので困る」、「つきあいが大変だ」とか、「生産費がかかる」、「生活の程度が向上した」という事実をとおして、「金のない生活の苦しさ」を訴えているのである。

とにかく「自分の家の生活を楽にするにはどうすればよいか」が米の増収と直結して最大の関心事ということが出来る。自分の家の生活に直結した面で他のすべての生活を眺め、その生活の利害からそれに対する処理を割り出そうとしている。であるから時に自分の家の刈り入れに是非必要とあれば、雨降りて農道をいためて、人が迷惑することがわかつて牛車をひくことになる。

また子供の教育や女の人の慰安も考えないわけでもないが、あとまわしにしてしまう。そしてその反面自分の家が「貧乏だ」と思われるのを嫌つて、外面の見栄を飾り、他人に負けまいとして濫費している面も相当あるようである。(階級的差別感が残存しているのでないか。表面的でないとしても意識のどこかに残滓としてまだ残つていないか。) 冠婚葬祭など、まさにこれである。

また一面「貧乏感」というものが潜在的にあつて、それに自ら陥つてあがいているような感じがする。これはわれわれとして特に重視しなければならない問題である。すなわち

- ・相当な生産を挙げているので村は昔からみると、ずつと豊かになつた楽という事実がある。
- ・機械力・科学力も入れる余裕ができて相当はいつている。仕事の面もになつたという事実もある。
- ・困る困るといながら、家の普請もするし調度品も立派なものがある。

・山村などに較べれば家も堂々としているし、生活ぶりに焦りも感じられない。

等を考えると、部落民の貧乏感はいわゆる「食うに困る」貧乏とはちがつていようである。こうしてみると、この部落の「生活の苦しさ」はなんとかなる苦しさであるように思うのである。経済生活はもつと合理的に経営することによつて解決ができるのでなかるうか。この点に対して果してどんな構え方をしているのであろうか。これは文化生活全面にまで影響する問題である。貧乏感の除去と生活の建て直しは文化生活面にもつと近代的ないぶきをおくことができるように思うのであるが、部落民はどう考えているのであろうか。

子供に目を転ずれば学力も知能も多少の見劣りがするし、生活も単調で祭りや運動会にしか楽しみを見出せ得ないでいる。これらも大人の抜け切れない貧乏感や経済生活の非合理性——さらにそれからくる文化生活の低調さのかげではあるまいか。

こうしてわれわれはまだいくつか考えられる問題的な生活事実を以上の三つの生活事実に集約して、この三点から部落民の生活の構えに切り込むことにした。また子供についてもさらに彼等の性格行動に突込んで、子供なりの生活の構えを把え、両者のつき合せで大原部落の統合的な問題的生活体制をあきらかにしようと計画したのである。

第二次調査の調査観点はここから生れたものである。

### 7.1.2. 部落民の生活の構えを把える（第二次調査）

この調査の目的は既に述べたように、第一次調査（生活事実）から焦点づけられたその部落としての問題的な生活行動事実を、さらにその部落民の生活意識にまで掘り下げて、部落民が「どのような考えで、どのような問題的な行動や態度をとっているのか」、つまりわれわれの基本的立場からして問題となる「生活の構え」<sup>(註20)</sup>方を把えることである。そしてここからその部落人が課題として解決を迫られる教育上の問題を決定しようとするのである。

#### 7.1.2.1 13才以上の部落民に対して

## (1) 調査の方法

- ・調査は主として面接により、世帯を単位として行つた。
- ・調査対象は78世帯の中から職業・家族構成状況・暮しの程度・社会的地位等を考慮して有意抽出をした。
- ・抽出された世帯数は調査者の訪問可能限度や全世帯に対する確率等から約39世帯である。
- ・そして対象になつた世帯へは予め連絡をとり、訪問時間を打合せたのである。
- ・また訪問の際はなるべく全家族員より集つてもらつて交々話してもらうように配慮した。
- ・しかし第一次の調査をとおして主婦やその他の家族員の発言は戸主の前では相当制限されることを予知したので、別に婦人会・青年団の懇談会をもつように学校・部落に懇請して特別の機会と場を用意した。

## (2) 調査項目

7.1.1.3 に記述した整理に基づいて、次のような調査項目並に質問に対する具体例を用意し、具体例はこれを参考基準としながら、その場の雰囲気や質問の内容を臨機に変更することにした。これは調査者が四人で、それぞれ10～9世帯を支持つたため、その間における調査項目、及び質問内容のずれを防ぎ、調査眼の統一をはかるためである。なお各訪問世帯毎に記入用紙を用いて、応答内容を細大洩らさず記入し、あとで四人が検討しつつ整理するようにした。

### (註20) 生活の構え方把握について：—

われわれはこの生活の構えを把握するに当り、この方法で部落民の意識構造の全体を完全に把握できると思つていない。また現在のところ、この研究部門でその方法が確立されたということもきいていない。むしろいろいろ問題があると思つている。(後述9.3参照)われわれはわれわれに許され且つできる範囲内において、最も効果的だと思われる方法で、すなわちわれわれが見たりきいたりして把えた問題の行動・態度を通して、部落民の意識構造に迫り、その意識構造を「こうでもあろうか」と類推しているのに過ぎないと自覚している。(もちろんこの類推はできる限りの客観的資料によつてなされるものであり、そう誤つてはいないという自信を持ち続けながら……)。したがつてこうして決定される教育課題についてはこのようなわれわれが類推した意識構造の上に立つて決定したものであるという一つの前提条件の存在を銘記すべきであり、その意味において最後に部落民に報告し、その承認に立つてこれを公表するものである。

| 問題となる生活 | 大項目                   | 小項目                                                                                                                                  |
|---------|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一 和の生活  | a 彼等のいう和とは如何なる生活であるか? | イ 家の中において、家長・主婦・嫁他<br><br>ロ 隣近所など……交換分合・寄附・農事・風呂・その他<br><br><br>ハ 部落……寄合・選挙・レクリエーション・その他<br><br>ニ 対村……学校問題・土地改良その他<br>ホ 対組合……水利組合・農協 |
|         | b この和はどこから生れてきたか。     | イ 歴史的変遷……一致団結を余儀なくされた<br><br>ロ 家の生活……農家の性格・伝統・慣習等<br><br>ハ 部落のしきたり……家格・ホス・その他の慣習等<br><br>ニ 生活的な貧困……無知・その他                            |
|         | c 生活と如何なる関係があるか?      | イ 和を破つた場合の制裁……破約と村八分                                                                                                                 |

おける村民の生活で特に共通的な問題と思われる、次の三つの生活事実に対する構えをとるか。(農村グループ …… 大原部落)

質 問 の 具 体 例

- ・一家のできごとは主にどうして解決されるか。・若い者や婦人が反対した場合は？ その時の態度は？
- ・嫁さんはどうしていることが、一番よいのか。それに対してどう思っているか。
- ・交換分合で利害相反する時どうするか。和を誇りとする。当村ではこんな時でもいざこざはできないか。
- ・仲たがいということは全然ないか。あるとすればどんな時で、その時はどうするか、そしてどうなるか？
- ・共同の手拭はどう思うか。自分だけ別の手拭を使おうと思わないか、使うと悪いことがあるか。
- ・部落の審会で相談される事柄は？ どうして決められるか。発言はどうか。むつかしい問題の時どうするか。
- ・選挙における村内一致の態勢はどのようにしてつくられるか。部落の変人扱いはどんな性格の人か。
- ・他部落との係争はあるか。どんな時か。どうするか。部落の和は村の圧力を受けないか。・何故学校問題がやかましいのか。
- ・組合の仕事と個人の生業が食いちがうことはないか。
- ・組合に対してあなた又は部落ではどうしているか。
- ・組合費は負担にならないか。どうしているか。
- ・昔はやはり和ということがうまくいつていたのか。どうしてここに和の必要が生れたのか。
- ・部落内がばらばらで自分の家のことにだけ一生けんめいであつたら、農家としては結局損か。その理由。
- ・家の仕事はだれの考えが中心か。なぜそうなのか。
- ・家庭の民主化はどういうようにしたらよいか。自由平等は農家の仕事にどんな時困るか。
- ・部落のきめごとは前からあるものか。
- ・家の格がきまつていて、格の下のもは発言が封ぜられることはないか。
- ・顔役とかおもだち衆というのは、どうしてきめられるか。その人のする仕事・役割は？
- ・部落のきめや相談で反対するとあとで困ることはないか。
- ・自分らはわからないから従うという気持は。
- ・和ということは特にどんな時役立つか。それは何故か。
- ・村ぎめを破つたり、意見に反対したりしたら、その人はどうなるか。

| 問題となる生活    | 大項目               | 小項目                                                                                                                                              |
|------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ロ 生産生活</li> <li>ハ 消費生活</li> <li>ニ 厚生慰安・交際面</li> <li>ホ 教育その他</li> </ul>                                    |
|            | d この和に対しての構え方     | <ul style="list-style-type: none"> <li>イ どんな姿でのぞんでいるか</li> <li>ロ 不利・不平・不満とその時の態度</li> </ul>                                                      |
| 二 消費生活の合理化 | a 生活程度は果して貧乏か?    | 耕作反別と収穫・身なり・調度・構え                                                                                                                                |
|            | b 生活を苦しめているものは何か? | <ul style="list-style-type: none"> <li>イ 多い出費……冠婚葬祭・組合費・見栄・飲食・生活改善費等</li> <li>ロ 子供の小使いと親の態度</li> </ul>                                           |
|            | c 何故そうしなければならぬか?  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ハ 不作と生産費</li> <li>イ 生産のためか? そうでないとしたら何か?</li> <li>ロ 家格か因習か?</li> <li>ハ 生活の単調さか?</li> <li>ニ その他</li> </ul> |
|            | d 貧乏感はどこから生れてきたか? | イ 何故そう思うか?                                                                                                                                       |



問 題 の 具 体 例

- 人にさきがけてぬげがけの仕事をしたり、人の気づかぬことをしたりしたら、村民はどうするか。
- 嫁はその家にくるものか、その人にくるものか。
- 部落の人から仲間はずれにされて、早乙女などをことわられることがあるか。
- 交換分合で不利をまねくことは？
- 税金や組合費を割高に課されるような場合はないか。
- 和を破ると必需品を都合してくれないようなことがあるか。
- 和を破るとつきあいからはずされることはないか。
- その他自分の意見をまげても（自分の生活を犠牲にしても）大勢のものと一緒に行動しないと具合のわるいことはないか。
- あなたは村の特性としての和をどう思っているか。
- 自分や部落のためにはよいと思うか。
- 自分の利害とうまくあわぬ時もあると思うが、その時はどうするか。

（その家を訪ねた時観察する。反別・収量は……一町以上反当り五俵以上なら生計は立つとみたい）

- どんな事柄に金がかかつて生活を苦しめているか。
- 子供はどんなところに小遣いを使おうとするか。自由にくれるか。小言をいわないか。子供に不平があるが、その理由をどう思うか？
- 学校の経費は多くかかると思わぬか。どんな経費か。だまつてやるか。
- 生産費に多くかかるか、それと収量との関係はどうか。
- 不作が生活に大きくひびくと思うが、米さえあれば生活は楽になるか。不作の時は生活はどうするか。
- 生産のためにばかばかしい出費をしていることがあるか。それは仕方がないと思うか。
- 金がなくて一番困るのは何か。借金してもやらなければならない事柄はどんなことか。
- 冠婚葬祭に莫大な金を投じなければならないわけは？
- むだな飲食は何故つつしまられないか。
- 宴会は百姓にとってなくてはならないレクリエーションと思うか。女子供はどうするか。
- 調度品をととのえるとか、服装をはるのは何か理由があるのではないか。
- 生活が困るほど金を使うのは最近かどうか、どうしてそうなったか。
- 生活はそんなに苦しくないと思うか、何にくらべて貧乏だとあなたは思うか。ただそう思うだけでないか。

| 問題となる生活                 | 大 項 目                                                                   | 小 項 目                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                         | <p>e 生活を楽にするために考えていることは何か</p>                                           | <p>ロ ねらっているもの</p> <p>イ 生活改善運動とその成果</p> <p>ロ どうすることがよいか出稼その他</p> <p>ハ 二・三男対策について</p>                                                                                                                          |
| <p>三 水田単作<br/>栽培の生活</p> | <p>a 水田耕作はどうされているか?</p> <p>b 生活安定への努力とその成果</p> <p>c 水田耕作から余儀なくされる生活</p> | <p>イ 単作栽培</p> <p>ロ 農繁期</p> <p>ハ 科学化・畜力化</p> <p>ニ 農閑期</p> <p>ホ 歴史的変遷</p> <p>イ 増産のための仕事……機械化・改良・労働力・共同作業・教育</p> <p>ロ 収入増への仕事……副業・二毛作出稼・節約</p> <p>イ 生活時程・嫁入り・部落内結婚観</p> <p>ロ 食物・衣服・教育・レクリエーション</p> <p>ハ その他</p> |

## 質 問 の 具 体 例

- ・貧乏を防ぐにはどうしたらよいか。貧乏でなくなるのはどんな時か。
  - ・貧乏でないという人はどんな人か。それは金持ちか田地持ちか。
  - ・普通にたべていけたらよいのでないか。上はのぞむときりがないと思うが、あなたはどうか。
  - ・生活にむだがないか。どんなところか。どうしたらよいか。こうしたことに対する運動はどうか?
  - ・生活改善の立場であなたがやっていること。そうするとどうか。
  - ・婦人会・青年団活動のねらいは? 活動はどのようであるか。……どう思うか?
  - ・生活を楽にする方法は? 出稼はあるか。
  - ・農村疲弊を防ぐ対策とこの部落の態度及び問題は?
  - ・二・三男に対してあなたが考えていること、実際どうしているか。この点で部落が目ざめなければならないとはどういう点からそう考えるか?
- 
- ・家ではどんなものをつくっているか。米だけか? 耕作方法はどのようにしているか。
  - ・農繁期は一家総出か?
  - ・どんな仕事の振り割りをするか。
  - ・最近耕作法でかわつてきていることはないか。どんな方法か。
  - ・そのためにどんな益があるか。
  - ・益をどのように生かしているか。
  - ・何をしてくらすか。その理由は?
  - ・水田単作栽培で昔一番困つたのは何か。
  - ・どんな移り変りを経て今日に至つたか。
  - ・水田単作の点で考えねばならぬことでありながら、あとまわしになつている事柄は何か。
  - ・水田耕作で生活の安定をはかるにはどうすることかその理由は?
  - ・子供はどうなることが一番よいと思うか? 子供に仕事をさせるか? どんな仕事か?
  - ・百姓も金もうけのためだと考えているか。そうだとすれば百姓の金もうけとして考えられることは、あなたはどのようにしているか。
  - ・若い衆と公休日の実権との関係。
  - ・就寝起床の時間は?
  - ・百姓であなたがいやだと思ふことは何か。その理由は?
  - ・百姓の楽しみは何か?
  - ・教育をすることと百姓仕事とは両立するか。
  - ・農家の食物衣服は町の人とくらべると粗末だというのが実際そうか。それは何故か。食う着る楽しみは人間として一番大切なことでないか?
  - ・機械の共同使用。

| 問題となる生活 | 大 項 目     | 小 項 目                                    |
|---------|-----------|------------------------------------------|
|         | d 百姓への構え方 | イ 土地か金か教育か<br><br>ロ 貧乏との闘争<br><br>ハ 生き甲斐 |

### (3) 調 査 結 果

#### (1) 訪問による面接調査

- (a) 学校や部落区長から予め了解を得てもらっていたので、はじめ予期したようなぎごちなさはなく、正直な話をしてくれた人が多かつた。こうした調査においては事前連絡において、調査上の「しこり」となるようなものをときほぐしておくことが大切である。
- (b) 面接に際しては世間話的な具体的な生活内容を話し合い、被調査者の応答の裏にあるものをその場の雰囲気などから読みとることに努力したが、これは調査者の主観が強く入るおそれがあるので、その時の場景を記録して話し合うことによりこの解決をくださうにした。
- (c) 事前連絡にもかかわらず、仕事の都合で不在の家が二・三軒あつたが、これは部落区長や学校と相談して抽出の基本線に狂いを生じないよ

## 質 問 の 具 体 例

- 高校入学が少ない理由は？
- 農家は時間の観念が比較的ないが、それは仕方がないのか。あなたはどう思うか。
- 百姓で一番大切なものは田地か金か教育か。その理由は？
- 祖先からの田地に対して家財産に対して、今あなたがいつも心がけていることは？ 子供に対しては？
- 百姓は貧乏だというのがあなたもそう思うか。
- 貧乏な割の悪い百姓に何故たずさわっているのか。
- 百姓が貧乏でなくなるためにはあなたはどのようにしているか。
- 百姓は土にまみれ、強い労働を必要とする苦しい生活だと思うが、それでもこうして明るくくらししているのは、何か生き甲斐を感じておられると思うが、どんなことか。……（余暇の善用と再生産的活動について具体的にきく）
- 百姓は天気と一年間自分の生活をかける大ばくちだという人があるが、そうか。そうすると運できるのか。
- 篤農家といわれる人に対してあなたはどう思うか。村でのうわさは？
- 経験や伝統が大切か、学問の力が必要か。
- 自分の稲作の増収をはかるためには、農道をいためるとか多少人に迷惑をかけても仕方がないと思うか。百姓に必要なものは何だろうか？
- 百姓と町人と役人とあなたはどちらをえらぶか、土地をすてて役人になれるか、理由はどうか。

うに変更した。

- (d) 応答するものは主として一家の長たる主人が大部分で、嫁や二・三男等はどうしても遠慮勝ちであつた。中には主人の不在中はいろいろ話していたのが、主人の帰宅と共に座をはずすなどの光景もあつた。こんなところに残存する封建遺制の姿を見ることができた。
- (e) 家の構造はほとんどどの家も同じようである。天然ガスがこの村は豊富でガス使用の家庭が非常に多いが、生活程度の低い家庭にはやはりこれを見ることができなかつた。
- (f) 台所や便所の改造はまだ進んでいない。
- (g) 生産の生活に追われている姿がよくみられた。あい歴（一月おくれ）の正月四日～五日というのに仕事をしている姿が多くみられた。  
特に男の人たちが正月を楽しんでいるのに、女の人たちは衣服の繕い

にせわしそうであつた。

(h) 面接調査の内容については、これを全部記載することは紙面の都合上どうしてもできないので、代表的な二・三の事例を記載するに止める。調査した39世帯について、以上のような整理をした。所見欄は調査者四人で検討して記入したもので、問題的態度として注意しなければならないものである。

(四) 婦人会をとおしての婦人層との懇談

- (a) 二月十日の休日を利用し、学校に集つてもらつたが、主婦層が多く30名前後の参会者を得た。
- (b) 所員が多く参加すると、圧力を生じて発言が少なくなるのを考慮して小島・日浦の両所員のみ出席した。そしてできるだけ膝を交えて気軽に話のできる態勢を細心に注意した。
- (c) 家庭における時とは打つて變つて、実に活潑な発言があり、予定した時間を超過する位であつた。
- (d) この話し合いで得た内容の中、主なるものを記せば次のようである。

- ・婦人会の集会は主婦が多く、嫁は家にいる。
- ・嫁は家の嫁で、何も亭主だけのものではない。
- ・嫁は昔に較べると今は楽になつた。
- ・女は要するに引込んでいけばよいので、それによつて家の和が保たれる。
- ・家にきた嫁に対してそうだというのでないが、娘を嫁にやる時は「白いものでも、その家の人が黒いと言つたら黒だと思つておれ」と言つてやる。
- ・亭主は絶対権利をもっている。それでよい。
- ・暮しくくいということはきくが、財布は主人がおさえているので具体的にはわからない。百姓の生計は女ではだめだ。私らに財布をまかせられたらとてもやつていけない。(「衣・食関係の経済だけでもまかせられた方が主婦としてやりよいのでないか」と反問したが、「そんなこと言つたつて……」とか「いやいや、そんなめんどうなことはで

| (大項目)<br>和の生活<br>被調査者                                  | (a) 村民のいう和とは如何なる生活か                                                                                                                                                                                                                                                                  | (b) この和はどこから生れたか                                                                                                                                                                                                                                      | (c) 生活といかなる関係にあるか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | (d) この和に対しての構え方                                                                                                                                                                                                                          | 所見<br>態 度                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (AⓑCクラス)<br><br>氏名 N. I.<br><br>職業 /<br><br>応答者 (主人・作) | <ul style="list-style-type: none"> <li>家長中心…嫁は言いたいことも風波をたてぬためにがまんする。</li> <li>部落民・役員は皆寄つて選挙のややこしきなくしきたりできめる。</li> <li>村議…対村的な気持ちと村の圧迫に対抗できる人。</li> <li>寄合い…大勢できめる…しかしそれに関係ある職についている人の意見が大きく働く、とにかくぶつからぬようにしたい。</li> </ul> (適當のところ引込んで妥協する)<br>・一家の支柱は主人で、生活は主人が中心になされる。財布も主人がにぎっている。 | 「大原農人するか、なで頭をするか。不作で小作の農民は苦しめられたので本能的にまとまろうとする。<br>・縁組は自然に村内で行われ、一門的な血筋で互に変なことはいわれぬ。<br>・少しの感情も持てない。<br>・伝統的な風習<br>・ <b>対抗意識強い</b> ←しきり的、生活的貧困                                                                                                        | 特別村入分などないが、生産生活には近所だと気まずい思いをする。<br>・血筋的なつながりがあるので、何かとよろしくない。<br>・部落でまとまっているから、よくたすけあえる。<br>・寄合で反対したりすると要人あつかいされるようになるので、あとでよいことをいつてもとりあげられない。<br>・貧弱部落は他からの圧迫が強い。それが他に対して団結する。                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>団結していなければ、村からすべて圧迫され苦しい思いをさせられるので、多少のことはしのんでも和を保たうとしている。</li> <li>大原は無視されると大変だ。</li> <li>部落のものが団結しないと他字に対抗できない。</li> <li>とにかくこれでよいと思う。私らは不平はない。</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>封鎖的…血縁的</li> <li>排他的</li> <li>保守的・伝統的な意識が強い。</li> <li>部落共同体意識がみえる。</li> <li>現状に不満をもたないで、その中に埋没している。</li> </ul>                                                                                                 |
| (大項目)<br>消費生活<br>被調査者                                  | (a) 生活を苦しめているものは何か                                                                                                                                                                                                                                                                   | (b) 何故そうしなければならぬか                                                                                                                                                                                                                                     | (c) 貧乏感はどこから生れたか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | (d) 生活を楽にするための考え                                                                                                                                                                                                                         | 所見<br>(品性・態度…)                                                                                                                                                                                                                                        |
| (④BCクラス)<br><br>氏名 T. O.<br><br>職業 /<br><br>応答者 (主人)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>家格がならされたので、服装がはでになつたためだ。(針ならえの子供の例)</li> <li>冠婚葬祭に金をかける。人に負けないため。</li> <li>家のかざりに金をかける。</li> <li>「さかさの木登りもつきあいならやらせる」の態度。</li> <li>子供が学校に行きたくも親は「ぜにがない」といつてはねつける。<br/>→手間と金</li> </ul>                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>土地開放後の平等観からの競争。</li> <li>1. 税金 さえ払えば</li> <li>2. 公租公課 &gt; あとは自分のもの…</li> <li>3. 肥料代 金に余裕ができた</li> <li>青年男女が服装その他に金をかけすぎる。…生活費にむだ使い多し。</li> <li>人がすれば自分もやるという(理性のない模倣…「逆さの木登りでもつきあいならやる」)<br/>→非文化性</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>嫁のときになると貧乏など度外視だ、そして金をかけて足りないという感をもつ。</li> <li>人のつきあいができないと貧乏感をもつ。</li> <li>昔からの貧乏感</li> <li>子供が進学したくても「金がないからだめだ」という。これが貧乏感を植付け。</li> <li>しかし金でなく実は教育に関心なく、また手間と目先の利得(下男一人五万以上)のためである。</li> </ul>                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>合理的・意欲的なものなく、何百年来の地主からの開放、不作からの開放(土地改良)に有頂天である。</li> <li>遠い将来の計画なし「学校はやる必要なし、年とれば二一夭作の五で何とかなる」という目先の利害のみ動かされて対策なし。</li> <li>したがって二・三男対策なども困るというがほつておく、何とかなるという考え方</li> <li>教育などする必要なし。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>理性のない模倣</li> <li>合理的な経済計画はたてない。また → ため得ない。</li> <li>なんとかなるの運命観</li> <li>目先の利得に動かされる。</li> <li>長年の貧乏が開放された喜びには盲目的なものがある。</li> <li>貧乏感が強い。</li> <li>文化生活などは考えていない。</li> </ul>                                    |
| (大項目)<br>水田耕作<br>被調査者                                  | (a) 水田耕作はどうされているか                                                                                                                                                                                                                                                                    | (b) 生活安定への努力と効果                                                                                                                                                                                                                                       | (c) 水田耕作から余儀なくされる生活                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | (d) 百姓への構え方                                                                                                                                                                                                                              | 所見<br>態 度                                                                                                                                                                                                                                             |
| (AⓑCクラス)<br><br>氏名 G. T.<br><br>職業 /<br><br>応答者 (主婦)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>みんな忙しい。若い主人が一番頭を使う。</li> <li>女も忙しいが仕方なし。忙しい時は子供の小言も多くなる。</li> <li>レクリエーションはない。ただよい収穫をあげることである。</li> <li>学力の軽減はなんてことなしにすぎてしまう。</li> <li>生産費やその他の計画は主人だけがしっている。他のものは働けばよい。…意見もいうことがあるけれど、</li> </ul>                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>節約を考えてやればよいのだが、それもない。</li> <li>そして金の余裕なく教育もできない。</li> <li>兄より弟を教育したいが手が足りぬので家のぎせいとなる。しかしこれもどうすることもできない。</li> <li>何しろ百姓は「天を相手」の仕事だ。</li> <li>寝て明日の力を養うのだ。</li> </ul>                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>「ああもしたい、こうもしたい」と思うが、他のことはあとまわしになる。</li> <li>たのしみなし…米がとればよいのだ。これにまさる楽しみはない。</li> <li>いくら働いてもきりがなくらい忙しいので子供を上の学校にやつているのは良いと思うても家で使う方が先に立つ。これは仕方がない。上の学校にやれば年に5万円はかかるし、その上若い衆をたのめば5万円て都合10万円の引にみになつてしまう</li> <li>家の中をかまっておられないがこれも仕方ない。</li> <li>忙しくて他のことなど手もでないし、それも米をとるためには仕方ない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>食うものは働けば困らない。</li> <li>みんな手伝いができるし、町の人は一兆事あれば路頭に迷う。</li> <li>百姓は先祖からの仕事で、これから離れるなど考えられない。</li> <li>他の商売など私たちにやれるものではない。学問もないから……。</li> </ul>                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>文化生活はあとまわしである。…考える余裕なし。</li> <li>女も労働力の提供者である。</li> <li>苦しいけれども百姓は結局食うに困らぬ。…現実妥協的である。</li> <li>生きる苦勞を感じないので、今のままに満足している。</li> <li>自己劣等感がある…「百姓は教育のないものだ」。<br/>↓<br/>保守的で建設的でない。<br/>満足感とあきらめ…近視眼的態度</li> </ul> |

きない」と大部分が否定した。)

- ・金に困れば主人がどこかから心配してくるから世話がやけないでよい。
- ・生活を苦しめるのは、折角の金も農機具に使つてしまうと嘆く。
- ・税金にも悩んでいる。とても生活改善などに手がまわらない。

#### ~~~~ 赤字財政

- ・女は財布をにぎらないから、言いたいことも言えない。
- ・冠婚葬祭にも金をかけすぎると思うがどうにもならない。婦人会で節約をきめても人がやればやらないわけにいかない。~~~~ 競争とまねだ。これは上下の区別がなくなつたからだ。  
節約はされるが、男の方や娘どもがきかないのだ。(主人たちは女に積極性がないと言う。)
- ・百姓の家は広くてこれにも金がかかる。節約すればよいのだが……。
- ・食物・台所・衣服に計画性がないという印象を所員は強く受けた。
- ・合理的出費と節約に対する心構えはまずないようである……「どういうのだろうか?」とあたかも他人事のようなのである。
- ・二三男対策に対しては「困る」と言うだけ。二・三男の教育に積極的に賛成の者は一人だけ。他は「教育して職を持たせようとせば家に使えない」とか、「親が早く楽したいので子を使うこともある」とか、「人がやらないのに自分ばかりやるのは損のようなおつくうのような気がする」と言う。
- ・長男の教育は新制中学を終えて夜学でも出しておけばよいという。
- ・子供の小遣いは母が父に頼つてもらつてやるが、父は叱る場合が多いという。
- ・仕事は楽になつた。殊に春田が楽になつた。しかし、軽減された労力と時間は無意識的に消費している。「女は忙しいから……」と簡単に片付けている。
- ・女は農繁期は起きてから眠るまで働く。
- ・近頃早婚になつた。家の労働力がほしいのと、親が早く楽したいから



- だという。また恋愛結婚は罪悪視している。……家格がからむ。
- ・嫁は部落内からもらつた方がよい。互によくわかつているから……。
  - ・ラジオはやかましい。早起きの合図にかける位のものだ。
  - ・風呂の共同手拭は便利だと言っている。石鹸など余り使わないで風呂の中で洗う。
  - ・夫婦一しよにいる機会は少ない。これが当たり前だという。
  - ・百姓はいいとも思うし、悪いとも思う。年寄ると百姓はよいと思う。それは若いものから食わしてもらつて苦労がない。
  - ・祖先からの田地を少しでも守りたい。それが嫁の責任だ。
  - ・女なんて男と較べてそりや馬鹿々々しいと思うが、それがあたり前なのだ。女の張り合いは、米を多くとることと子供の成人だ。
  - ・百姓は難儀だが、食うに困らないから一番よい。
  - ・村のことなんか何も知らないし、知らされもしない。

(イ) 青年層との話し合い

- (a) 正月の休日を利用して、学校に集つてもらつた。青年団員は中学卒業から30才位まで、結婚すると退団する者が多い。当日の参会者は男子18名、女子13名の計31名であつたが、止むを得ないものを除いて幹部・中堅級が集つたとのことであつた。
- (b) 青年団活動は家の仕事と両立しないので積極性がない。殊に団長などは家の者の反対もあり、なかなか引き受ける者がいない。部落組合の幹部から中に入つてもらわなければならないような状態だという。
- (c) 以上のような簡単な話し合いの後、面接調査の項目についてきいてみたのであるが、その内容のあらましは次のようなものであつた。
- ・大原部落は村全体の端にあつて、中央からはずれているので、部落が団結していないと負けてしまう。だから対抗意識は強くなつている。対抗競技などになると仕事を休んでもやるし、家の主人もこの時は許してくれる。
  - ・部落は言い争うなどということなく、話し合つているうちに自然にまとまる。この部落内の和やかさは昔からそうで、不作で食われないの

で部落が団結したんだときいているし、そうだと思う。

・機械化・土地改良について

「田の等級が昇れば税金も高くなるから借金してまでやる必要なし。」  
また「土地改良で“分のび”の土地がなくなるから悪い」「良い土地は改良してもしないでもよい」という消極論が多い。しかし一方「税金よりも増収される。」「労力の軽減・裏作可能を考えると金があつたらやつた方がよい」という積極論もあつた。

これに対して女の発言なく、「そんなこと考えてみたことなし」という。

・また機械化は「早く楽になる」という点と「早場米で奨励金がもらえる」という目先の利得から、やれたらやつたがよいと考えている。二毛作による多角経営ということに余剰労力を使うことは考えていないようだ。

・青年団活動として生産面の研究は取り上げていない。

・農業手形を借りることは当たり前で、秋になつたら返せるのだと思つている。

・生活を苦しめるのは生産費と税金だから、これはどうしようもないことだという。

・百姓は金がなくても食える。だから一家の主婦になれば金などなくてもよいと女子は言つている。

・冠婚葬祭は金がかかりすぎると思うが、人がやるのに自分ばかり相場を崩すことは損だし、それはできないことだ。「やつぱりいい着物はきたい」と言う。

・二・三男問題と教育について

・二・三男は田地もないし、教育もない。まことにつまらないと思うが仕方ない。

・働かせられていると教育はいやになる。

・親は家の都合で教育より労働を強いるが、今親に反対してみても親から見離されたらだめだ。他所へ出ても教育がないから、せいぜい土

方・人夫なんだ。それよりやはり親の言うことをきいて働いた方がいい。親から家をつくつてもらふのだ。

- ・教育は労働の面を考えると不可能だ。
- ・生活を楽にするのは教育でない。それは増産だ —— (教育という資本は考えていない)
- ・学歴がないことに対して、強い不満をもらすものもいた。
- ・二・三男のはりあいは、一生懸命家の仕事をして、後で兄から面倒をみてもらうことだ。
- ・長男は親の譲つた土地を守つていけばよい。
- ・洋裁・和裁をならいたいのがひまがない。
- ・「ミシンは時間が経済だ」とする者の他に、「人がやれば自分もやりたい」とする者もあつた。
- ・料理の講習はたまにあるが、役に立たない。料理の工夫など考えない。腹一杯食べれば百姓は働けると言つている。
- ・大人は青年の見栄えを目の上にあげているがと問いかけたのに対して、「かすりが洋服に変つたのに対する百姓的な浅はかな考えだ」と否定する。「男女交際のエチケットだ」(男)  
「親の考えは古くてそれでは世間とはおらないのだ。無理してもつくつてもらふ。そのかわり一生懸命働いて労力で返済する」(男女共)  
「つきあいだから仕方がない」(男女共)
- ・財布は一家の主人がにぎっているのに対しては——「仕方がない」と言つている。

- (d) 青年団との話し合いは、一般に男子の発言が多かつた。しかし女子に關することに關しては女子の発言も活潑だつた。
- (e) 全般的に「現状に対してはわれわれの力ではどうにもならないのだ」という空気が強かつた。中には「悪いところがあつても自然に若い者の時代がくればなおるだろう。」と漠然と樂觀論をはく者もいた。

### 7.1.2.2. 性格行動調査（第二次児童調査）

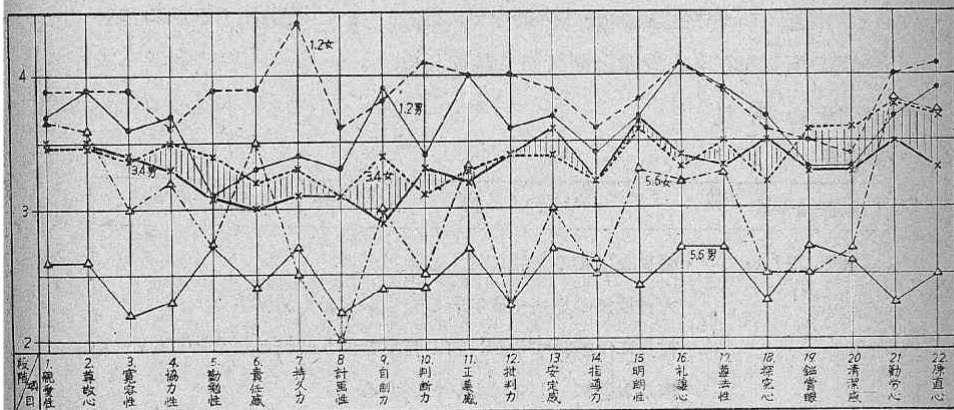
第一次調査の質問紙法，作文，面接，記録などから把握した子供の行動様式が，彼等の性格行動の上にとどのように現れているかを客観的に見るため，本教育研究所作成の性格行動記述評定尺度を用いて，五段階評定を試みた。

第22表 評定児童数

| 学 年  | 男  | 女  |
|------|----|----|
| 1. 2 | 7  | 8  |
| 3. 4 | 16 | 12 |
| 5. 6 | 19 | 6  |

評定児童数が少いので，同一教師により，同一記述尺度を用いて評定し，学年毎にまとめて，低・中・高学年毎に全体としての傾向をみようとした。その結果をプロフィールで示すと，第23表のようになる。（各学年五段階分布の範囲は大部分の項目では三段階におさまっている。）

第23表 児童行動評価一覧表（低・中・高学年平均プロフィール）



この調査から

- ・低・中・高と学年が進むにつれて，県基準に比べて評定点が下がっているが，評定児童数がきわめて少ないので，有意の差があるとはいきること

はできない。

・全体的に男より女がすぐれている傾向は県基準の傾向と一致している。

・各学年とも、男女そろってよくない項目

8. 計画性 14. 指導力 18. 探究心 20. 清潔感

・各学年とも、男女そろって比較的よい項目

16. 礼讓心 17. 尊法性 13. 安定感 11. 正義感

・各学年とも、特に女の方がよいと見られる項目

6. 責任感 21. 勤労心 22. 廉直心

・高学年で特に女の方がよいと見られる項目

1. 親愛性 2. 尊敬心 3. 寛容性 4. 協力性 6. 責任感 9. 自制心

11. 正義感 15. 明朗性 17. 遵法性 16. 礼讓心 21. 勤労心 22. 廉直心

・高学年で男児がややよいか、また女児に近いと思われる項目

7. 持久力 8. 計画性 12. 批判力 14. 指導力 19. 鑑賞眼

・高学年で男女そろって特によくない項目

12. 批判力

を指摘することができる。

第一次調査及び性格行動調査の結果を更に確め、また疑問とする点について、教師の所見を正し、児童と面接して調査した。

### (1) 教師の所見

第24表

| 行動要録項目         | 教師の所見                                                                                         |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 16. 礼儀が正しい     | ・朝夕廊下での先生に対する挨拶がよい<br>・大曾根校の先生や研究所の先生にもよく挨拶する<br>・村長には挨拶するが、村の言葉を使う助役とならない<br>・家のお客に対してはだいたする |
| 17. きまりを理解して守る | ・学校のきまりはよく守る<br>・先生や親のいうことをよくきく<br>・自分たちがきめたことはあまり守らぬ                                         |

| 行動要録項目      | 教師の所見                                                                                                                                          |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 21. 勤労を喜ぶ   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文句をいわないで仕事をする</li> <li>・女兒は映画会の後掃除など自発的にやる</li> </ul>                                                  |
| 11. 正義感がある  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・けんかの時、第三者が先生にすぐ告げる</li> <li>・他人の悪をきかせる</li> </ul>                                                      |
| 13. 安定感がある  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活が単調で日常に抵抗やおそれを感じる機会がない</li> <li>・先生との間が家庭的である</li> <li>・女はおとなしく、“人の前”ということ強く意識する</li> </ul>          |
| 18. 計画工夫する  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわれなければ、ほとんどしない</li> </ul>                                                                             |
| 19. 探究心がある  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女兒はほとんど疑問を持たない、男児にも少ない</li> <li>・関心や興味を誘発する刺激が少ない</li> </ul>                                           |
| 20. 衛生に注意する | <ul style="list-style-type: none"> <li>・服装がきたない——洗濯を余りしない</li> <li>・父兄の家・やしきがきたない</li> <li>・小さい子はわがままである</li> <li>・少人数で指導力を練る機会が少ない</li> </ul> |

## (2) 児童との面接

中・高学年別に面接・聞きとりをした結果を要約すると

- ・他人の意見をきく態度ができていない。
- ・一日の生活時程を考えて計画的な家庭学習をしようとは考えていない。
- ・自己の責任の自覚や、積極的な生活設計が見られない。
- ・働くことが習慣化されて、いやとは思っていない。
- ・問題をもっていない。
- ・争いを好まない。……（負けるは勝ち）
- ・小さい学校の子供と云うことに劣等感を持っている（他の校区の子供に対して）

要する子供たちは、よく働き、長上の人の云うことは素直に受入れる従順さを持つているが自主性、計画性の欠陥が強く目立つ。

### 7.1.2.3. 大原部落民の生活体制

7.1.2.1.と7.1.2.2.を整理して、両方に現われている問題的な行動・態度をつき合せてみると、地域人のもつ一般的傾向としての行動・態度——生活体制を築く心的傾向はやはり小学校の児童へは児童なりに「社会のかげ」のように現われていることがよくわかった。例えば性格行動記述尺度による評価をとおして児童に見られる一般的欠陥は計画性・指導力・探究心・清潔感の欠如であるが、これはそのまま地域人の現状維持で改新を警戒する生産的行動面や非合理的経済生活、非科学的な文化的遅滞性をもつ文化的行動面、さらにまた封鎖的・没主体的な或は部落共同体的な社会的行動面に通ずるものであり、児童の長所として現われた礼讓心・遵法性・安定感・正義感、地域人の前述の生活行動を裏返えすと、この美点が現われてくるのである。また女子に特に長所としてみられた責任感や勤労心は、嫁や主婦或はまた村における女の立場を振り返つてみると、はつきり首肯できるのである。家伝来の田地を売るような破目になるのは嫁の責任であると自覚して、身を粉にして黙々と働く嫁の姿を思い浮べる時、われわれは今更の如く、これを強く感ぜずにはいられない。

さてこうして整理した地域人の生活体制を次のように表現してみた。（ここでは5.の全体構造で述べた生産的生活行動・社会的生活行動・文化的生活行動の三スコープに整理しなかつた。）

## Ⅱ 大原部落民の生活体制（第一次、第二次調査結果）

### 概 括

全般的には、全く現実の中に埋没し切つていて、脱脚することができないでいる。争いを好まず、温和実直で勤労をいとわずよく働くが、知性の低い文化的後進性が見受けられる。一言にしていえば、伝統的・保守的な家族主義的人間観に立つて共同体意識が強く、「なんとかなる」という消極的・現実妥協的な没主体性性格をもつている。

## （一）和の生活

### ① 地縁血縁的共同体意識が強く、封鎖的・没主体的な行動・態度が見られる

- ・長い間の水利問題にいためつけられた貧乏から開放されようという共通の欲求が和への動機。
- ・年貢米で苦しめられ、抵抗する力を持たない弱小な小作農としての物心両面の困結。
- ・弱小部落として絶えず他部落の圧迫に苦しんできたため。
- ・一村一門的なつながり……「大原農人にするか、なたで頭をするか」……部落内結婚
- ・永年の水に対する共同闘争からの親近感。
- ・部落内に強大な地主がなく、みな同じような境涯におかれておつた。
- ・昔から大原は独立していた。
- ・寄合では自然にまとまるように自説を固持しない。
- ・争いを好まず、長いものや多勢の向うところに従う……大勢に順応する。
- ・「逆さの木登りでも、つきあいならやらせねばならぬ」という考えをもっている。
- ・学校問題等の部落根性。
- ・部落内に党派的のものなく、派閥争いが無い……役につく人も均等化をはかる。
- ・共同手拭や進学についても、「おれのところばかりそうしては悪い」と遠慮する。
- ・無理を言わず「長」にまかせて、そのかげで安心している。  
(おれにはできない。人間である以上、長い間に少しはまずいこともある……がまんする)
- ・村がまとまっていくなかには、少くも不満があつても、みんなだまつて有力者の意見にまとまるようにする。
- ・選挙は部落の利害という事を、第一条件として全村で候補者をきめて他部落と争う。
- ・内熟知的関係……知りあつている仲間であつてもつきあいはできない、互にがまんし合う。
- ・利害を共通に持つ村が一つにならねば生きていけぬ事情、他村とのかけ引きなど、及び部落内の争いに困つてまとまるようになった。……（以上は①を裏付ける例である。以下・印の記述は全部その項における例である。）

### ② 家庭内の封建性が強い

- ・家長権が絶対的で家長が財布をにぎり、他の構成員には家の財政を知らせず、労働を強いる。
- ・主人たちの中には、やや民主的な生活の場が与えられるが、他の家族員は井戸の中の蛙でとり残されている。
- ・嫁は家の嫁で、家のために働けばよい。
- ・家の中はおやじ中心でうまくいくから、まかせておけばよい。
- ・嫁は家長の前では夫にも遠慮する、云いたいことも云わないでいるのが、家に風波を立てぬ最もよい方法である。



- ・家長以外は対外的な意見発表の機会が与えられぬ。特に嫁はひどい。
- ・主人は冬は楽をするが、女や若い者は春の準備で正月三カ日終ると働きだす。
- ・家族は（二、三男も含めて）家のためには、自分を犠牲にして労働力を提供する。
- ・個を生かした真の和への希求は意識の中に求められがたい。
- ・年老いれば子供に頼る、子はそれを当然とする。嫁はいつまでも実家のすねをかじる。
- ・主婦や嫁には“かくせつ”のようなものはない。
- ・嫁は“婚家がおいてくれるのをありがたく思わねばならぬ、そのためにも一生懸命働く”という。
- ・男尊女卑的な意識が強く、あたり前と思っている。
- ・村にいるうちは分家はいつまでも分家で、本家に仕えねばならぬ。

### ③ 現実妥協的な行動・態度が強い

- ・長いものには巻かれている方が身のためだ。（功利性）
- ・無理するな、このままの調子でまともまつていつて欲しいものだ。
- ・多勢の意見はその時おかしいと思つても、長い目でみれば結局よいのだ。
- ・理くつは正しくとも損をするから、今までどおりが一番無難でよい。
- ・指導者に追随していればまちがいなし。
- ・われわれ無能のものは（劣等感）重立ちの話をよくきけばよい。
- ・時の状況に支配され流されていけばよいのだとあきらめている。
- ・年輩者は経験も豊富だということで指導者におす。
- ・家の中はおやし中心でうまくいくからまかせておけばよい。
- ・風呂の共同手拭なども衛生上よくないと思つても人のしないことはしない。
- ・先に行つてどう変るかわからないが、その時はその時の状態にしたがえばよい。
- ・多少の不平不満も仕方がない、がまんした方が身のため。（功利性）
- ・伝統的慣習の中に諦めた和とでもいうか。……と或人は笑つていた。
- ・若いものが役についても、結局先例に従う行動をとる。（せざるを得ない伝統的保守性）
- ・よいと思うことでも、あとが心配だから無理をしないようにつとめる。
- ・選挙なども意見があつても仕方なしとあきらめ、常に挙村一致の行動をとる。（共同体意識）
- ・ぬるま湯のような事なかれ主義が村人の意識に強い。

### ④ 伝統的保守的な態度である

- ・永い間のしきたりは、昔の人がいろいろ考えてやつたのだから守つた方がよい。
- ・保守的・封鎖的・温存的な和——この和に対してそれがどこから来たかを意識していない。

- ・新しいものを考えても結局損をすることが多い。
- ・大きな流れの中にじつとしておればよい。さかろうことは身の破滅だ。
- ・家族主義的人間観を固守する。
- ・若い人が役員になつても、やつぱり先例にしたがつてやるようになる。
- ・村の現在の和はこれでよいと考え、もう一皮の近代的脱皮は誰も考えない。
- ・昔のやり方を無理にこわす必要はない、自然に目に見えない力でよくなつていくものだ。焦るとかえつていけない。
- ・伝統的な風習はそのままつづけようとする。
- ・このままでよい。村中がまとまつていれば、良いも悪いもあるまい。
- ・重立ち・家長は殆んど老年者で、家長権など七十才以上になつても放さない、上大原では五十才代で家長権をもつものが比較的多いといつて異様な口振りである。こうした体制は必然的といつてよいくらいに考え方や態度を保守的にしている。
- ・昔の家柄や財産による権威はまだのこつている。

⑤ 温和な性格が見受けられる

- ・昔すぐれた指導者がいてこの習性をつくつた。
- ・多少の不平はあつても全体のためにがまんする。
- ・わがままをおさえる自制心が強い。
- ・弱小農として外部に対する畏怖の念が、争いを好まず、おとなしくしている構えをつくつた。
- ・長老を尊重する精神が強い。
- ・弱小農としての劣等感情……退いて守る構え方。
- ・和という伝統を肯定して守ろうと努力している態度が見られる。
- ・ぬけがけの功名というような個人主義はみとめられない。
- ・不利不作の土地の百姓でありながら、思想的にも悪化しなかつた。
- ・派閥的な争いが全くない。
- ・犯罪も全くといつていいほどない。
- ・争いごとは全く好まない。
- ・小作農組合もできたが、他村のように発達せず終つた。
- ・漸進主義的な穏やかさがある。

(二) 経済生活

① 知性を欠いた非合理的・非科学的態度が強い

- ・主婦をはじめ女の人たちには、全然年間的な消費の見通しが無い。「財布をあずけられるとよくない、主人がにぎつているのが気が楽だ」という。
- ・消費経済に計画性なし。

- ・「生活は苦しい、これは稲作の上作を待つしかない」とあきらめて待つている態度が見える。
- ・再生産的な消費が考えられず、また考えてもこうした消費は甚だ目の上にあげるが、還元されない消費に金を使いすぎる。(子弟の教育、使用人、栄養、休養……)
- ・つまらぬ競争意識を自制し、思い切つて節約している人(一人いる)は金に余裕をつくつている。しかし村人はこの人を変人扱いにしている。
- ・生活費と生産費のアンバランス(家づくりや調度品、その他外装的な見栄)
- ・料理の工夫、教育、一家の団らんのものに金をかけない。(ラジオも時報か浪花節程度。)
- ・出稼などやればやれるのだが、変人扱いされるからやらない。(虚栄)
- ・学理を実地に生かす工夫をしない、学理をそのまま鵜呑みにして失敗し、学理を否定して経験のみに頼ろうとする。……したがつて至つて保守的・伝統的となる。
- ・貧乏感が強い……「昔から大原は貧乏だ」と思いこんでる。——これが農地開放や治水工事の進捗で金にゆとりがでてきたことによつて、人並みになりたいという欲求をかりたて、見栄や修理に計画性のない金の使い方をさせている。
- ・節約の申し合せは、観念的・公式的で実生活に即して工夫されない。……「本当にやる腹がないからだめた」、「どうせ言つたとてだめだよ。」
- ・二毛作や副業に対する建設的意欲や研究的な進取性がみとめられない。したがつて生産を高めて収入をはかることについては、全く米一本に頼るか、節約の他にないと思つている。また節約することは直に貧乏に通ずるような錯覚ももつている。
- ・「百姓は貧乏だ、それでも食つていけるからまだよい」と現状に満足して反省しない。
- ・田からの収入の限界と生産費との関係や副業との関係が割合考えられていない。
- ・貧乏でなくなるには働くことと節約することだ。……(観念的で他の方法を考慮しない)
- ・つきあいとか、流行的なものには盲目的に走る。
- ・赤字財政(すでに農協より反当500円ずつ借金)でやり、収入から純益をのこす工夫が足りない。
- ・「人がするなら自分もやらねば……」と青年は衣服を親にねたり、「そのかわり働いて米を多くとろう」と考える。
- ・でき秋に米がとればなんとかなるという、勘定のできない先のことをあてにする無計画性。
- ・二、三男対策も目先の利得のみから判断され、将来への見透しなし……“二五が十”或は“二一天作の五”という。家で仕事をしていればなんとかなる、旅にでるより分家した方がよい。
- ・文化的な教養に対する関心がうすい。——「忙しいからだめた、ひまがつぶれる」
- ・生活が単調のために生活に問題をもたず、つきつめて考えることをしない。

- ・だんな貧乏。豊作貧乏。

目先の功利性が行動に現われている

- ・耕地整理……上田はやる必要なしとの考えで、耕地整理がなかなか完了しない（労働力、二毛作への考えが、目先のかかりのためにいつも妨げられる……米の収穫に直接かかわりがわからないから金をかけたくない）
- ・目先の利害にのみ動かされて先の見透しなし（見栄やつきあい、家族労働と教育等）
- ・学校へ出す金もないが、それより早く家の仕事に使う方が得だ。
- ・親は早く楽をしたい。……親は若い時難儀したから早く楽をし、その分を若い者が働くのは当然。
- ・「仲は早く学校をおろして、早く嫁をもらうことが家のためによい」と考えている。
- ・教育しても百姓の仕事は上達しないし、収穫も増さぬ。
- ・高校以上の教育は百姓には役に立たない。実地に百姓を勉強するのがよい。
- ・早場米と農繁期の早期切上げ……無条件に労働力を要求する。
- ・二、三男に職をもたせようとすれば家で使えない。
- ・自分の仕事を先にして、集合の時間などがなかなか守れない。（大原時間という）
- ・仕事が間に合わない時など「少しくらいよいだろう」とか、「自分一人くらい大したことはないだろう」というので、強引に牛車で田んぼ道を通り、道路をいためることがある。
- ・二、三男もかわいいが、土地を分ければ祖先の家も土地もだめになる。仕方がないので鍛冶で一人前にたつようにさせる。
- ・「百姓に勉強などいらぬ、身体が丈夫ならよいのだ」……（文化的な知性の否定）

② 封鎖的態度が強い

- ・教育的関心もなく、視野が開かれていない。
- ・ラジオ等による観念の開放が少ない。
- ・青年は働いてそのかわり親から面倒を見てもらうのだときめて、先の希望が近視眼的で開けていない。
- ・他村に咬べて村の実態をつかみ、その発展に努力する意欲なく、むしろ共同体意識「ゲマインシャフトとしての」や部落対抗的意識から内に閉じこもり、旧套を朴守しようとする。
- ・自力でやつてどうやら間に合つても「貧乏だ」といつていた方が得でよい。（功利性）
- ・対抗競技などの熱意強く、仕事も或程度犠牲にして省りみぬ。……部落の団結を誇示して排他的。
- ・親に反対すれば自分は食つていけない。家からあとあとまで面倒をみてもらうのがよい。

- ・二、三男の発展や出稼等が考えられないので（分家を希望する）外界との接触、つながりが乏しい。
- ・村や部落の役につくと仕事もできないし、金もかかるから、家にだまつているのがよい。（功利性）
- ・対外的な交渉や販路を他に求めようとしない。（副業の不振につながる）
- ・部落内の和を誇り，“おらが村”の感じが強い。
- ・村の慣習はやつぱり守つた方がよい。そのためには金がかかっても仕方がない。
- ・耕地整理に金をかけても、やつと楽になり美田になつたと思つた時には、田を人手に渡すようなはめになる。

#### ④ 近代化への芽生えも見受けられる

- ・機械化、畜力化を考えている。
- ・養鶏や手間をかせぐのがよいのだと考えている人も相当いる。
- ・作業場を主家より分離することを考えているが、見栄からの動機が強く、深い根柢のないのは残念。
- ・篤農家や学識ある一部の人は適正農家の経営等に意欲を示しているが、自分で家にとじこもり勝ち（村民に呼びかけが足りない。村民もまたなかなか新しいことは警戒的で目もくれぬ）
- ・芽生えはとにかく見えるが、保守性・伝統性が大きなブレーキになつている。青年などに進歩的な空気が余りない。（有能な指導者や高い知性がほしい）

### ③ 水田単作栽培の生活

#### ① 伝統的・保守的な行動・態度をとる

- ・労働は尊重しても労働力は軽視し、その適正な配分が考えられていない。
- ・青年団等もただ働けばよいという考え方である。
- ・教育は百姓に大してプラスしない。手間の面では損だ。
- ・経験こそ百姓の身上である～年寄りが羽振りをかかず。
- ・「百姓はある程度運である、経験によつてやるのが最善だ」→新農法など失敗のもとだ（非科学性）と強く感じている。中には農業改良員の存在を敵視しているものもいる……女に多い。
- ・裏作、副業を否定する空気が強い。……収量もあがらず、しごともおくれて損だ。
- ・労働力を非常に重視して人や物の有効な活用を考えない非合理性が顕著だ。
- ・現状維持的な慣習的な農法が中軸で近代農法に対して警戒的……知性的な態度が少ない。
- ・地は万代の宝として土地にのみ執着する。
- ・嫁は祖先の土地を失わぬようにただ働けばよい。

現状維持的農法で家族労働力に頼る。しかも労働力の評価が全然考えられていない。親は無条件的に子女に労働を要求し、子女はまた家のために労働力を提供して、親のふところにするがつてなすことなし。

生産面の工夫はしない。人がやればまねするが、新しいことは、どうせやつても失敗するという。とにかく、人がやつて成功したのをみたら、だんだんやろうという構え方。……石橋でもたたいて渡ればまちがいが無い。(消極性)

貧乏よりの開放で、ただ喜び有頂天の状態にあり、それを今後どう改良し発展させるかについては考えていない。下手するとまた昔の貧乏に逆戻りするかもしらんという警戒心が強い。

田一本に生産をかけてかえりみない。

#### 消極的な他律性が強く見受けられる

どうにか食つていける。食う心配がないのだから、好き好んで危い橋は渡らんでもよい。

食つていければそれでよい。そのうちになんとかなる。→人が考えてくれる。

人がやつてよかつたら自分もする。(消極性)

百姓は営々とただ働けばよいのだという考え方。

田圃のことは主人が知っている、女は知らないし、知ろうともしない。

困ればなんとかなるし、(主人、婦人)、またなんとかしてくれるだろう。(青年)

百姓はどんなに悪くても食つてだけはいける、もう少し土地があればそれでよい——知性の貧困。

嫁は家の人の言うとおりにしていればよいと考えている。

「危い橋は渡らないにこしたことはない。先走つてよいことはないのだ」とする態度。

二、三男は結局分家するときは親に頼るのだから、自分のことは親にまかしておけばよいと考えている。

#### 没主体的態度が強い

苦しいけれどあきらめている。

女は男に較べて馬鹿らしいと思うが、それが当たり前だ。女がいばつては百姓はできない。

営々としてただ労働するのが身上だと女は考えている。

女の張り合いは、ただ働いて作を余計とることと、子供の成人だけであるという。

二、三男も親に反対しては後で身の損になるといつている。

現実には埋没し切つて“仕方がない”ですべてを割切つている。

「嫁は家のことについて白いものでも黒いと言われたら黒いと思つておれ」……嫁に対する母のはなむけの言葉である。

生活が単調で楽しみもない。しかし働かねば米がとれない、ぎりぎりに追いつめら

れて生じた人生観。

- ・夫婦が語り合う機会は無視されている場合が多く、親のいる家では仕方なしと考  
ている。
- ・没主体的態度は流れ田をもち、強大部落の抑圧下で苦しめられたこの部落民に対  
して、習性的な生活の構えとして生じた必然的な性格だ。……或る部落民は考を深  
こう言った。
- ・言いたいことがあつても言わない方がよい……それが家のためだ。
- ・親の言うことをきいて働いていればよい。余計なことを言わない方が得だ。
- ・文句を言ったとはじまらない。結局身のためにならない（二、三男）。だまつて  
まんするのが大局的によい（嫁、大人もそうだ）。
- ・嫁は姑が白いものでも黒いと言えば、黒だと思つて目をつむるのが腑口だ。
- ・夫婦のたのしみは百姓としての家族生活のために犠牲にされても仕方なし（多くは  
自覚しない）。

④ 封建的体制をとつている ……家族主義的……

- ・水田耕作に対して家長は絶対権をもち、家族はそのもとで労働する。
- ・農繁期は家族はもちろん分家やまきの者が手伝う。……労働力提供者として。
- ・結婚は親がきめてやるのがよい（自由結婚に対しては家格やつりあいではなかなか成  
成しない）
- ・親のいうことをきいて働いて、あとで親から面倒をみてもらう。
- ・年寄れば百姓はよい……若い者から食わしてもらつて苦勞なし……これが当り前
- ・夫婦で語る時間などない。親の前では夫にたのみたいこともたのめない。
- ・嫁は家族内労働力を増すための存在……部落内が互に事情がわかつてよい（部落  
結婚観）。
- ・水田耕作の計画は全部一家の主人にまかせて、他の家族はただ働けばよいと考えて  
いる。
- ・先祖の土地を守りぬく……嫁の責任感。
- ・女は家事や裁縫より田の仕事を先にする。→女が酷使されている。畑も女がする
- ・女は言いたいことも言わず引込んでいのが家の和のため。
- ・主人は年間作業計画、経済面、対外的交渉等の頭腦的・政治的な仕事をして、女  
子供が細々した肉体労働に奉仕する形態をとる。
- ・財布は主人がにぎり、他のものは何もわからぬ。
- ・二、三男は家で働いて、あと田を反と家をつくつてもらえばよい。
- ・大家族的な色彩が強く、70才位になつても男の生きているうちは家長権は長男に属  
さない。
- ・親や兄のいうことをきいて働いていればまちがいない。
- ・分家はその村にいる限りいつまでも分家的取扱い。

- ・女は家事・育児・畑作の他に田の肉体労働に従事し、後始末などもするので労働時間が非常に多くなっている。
- ・主人はなんぎするから酒をのんでも休んでも、遊んでも当たり前。
- ・女なんか家にもぐつていればよい。

⑥ 知性を欠いた非合理的・非科学的態度が強い

- ・百姓の生き甲斐は、特にいいこともないが、極端に悪いこともないのでよい。
- ・機械力・畜力・科学の力（2.4 D）が入って労働力は軽減され、秋も早く仕事が終わるようになったのに、有効に使用としない。
- ・「副業・裏作は損だからやらない方がよい。米を増産することだ」と労力を無計画的に水田に投資する態度。
- ・百姓するに教育はいらない、教育することは大まちがいだ。口ばかり達者になつてさつぱり田のためにならない。
- ・篤農家は人の前を遠慮しながらやつている。……“新しいことを考えるなんて失敗のもとだ”と否定する空気が強いため。
- ・百姓は経験が大切だ、手が足りないのに学校に出すなど馬鹿げたことだ。
- ・労働力を重視しながら人の労働することを軽視して目茶苦茶に使いすぎる態度。
- ・早婚は金がかからないで手を増すことと、子ができれば一層手が増して親が楽になれることのためによいと思う。
- ・百姓は半分以上運だ……天気を相手の仕事だから……。
- ・米作りで家のことは第二にまわされている……衛生・教育・慰安・栄養等々。

⑥ 実直で勤労をいとわぬ

- ・生活の単調さの中がまんして、ただこつこつと働く。
- ・働くことに不平なし。
- ・争うことを好まず、天地と組んで働くことを百姓の天賦と考える。
- ・田をみまわり、作のできるのを百姓の生甲斐と感じ、無上の喜びとする。

### 7.1.3. 生活の場（環境実態）からたしかめる（第三次調査）

先に生活の構えを把えたが、この時既に被調査者の応答の中に、被調査者に関する限りの環境実態にはふれて、両者の照し合せの上に被調査者の考え方や態度を把えようと努力した。しかしこの環境実態はあくまでも被調査者に関する個人的なものである。したがつてたとえ調査対象を全体の二分の一抽出（38/78）したにせよ、この第二次調査から得た考え方や態度を部落民全体の



一般的傾向と断定するためには、ここから得た環境実態が果して全体的にも言い得るのかどうかをたしかめる必要がある。中には異口同音に言っていることもあるが、また同じ考え方や態度を、別々の環境実態から説明しているものもあつたわけで、これらを調査に当つて絶えず一世帯ずつ整理し比較対照して、次の被調査者に対する余裕がなかつた。そのためAの家で言われた環境実態をB・C・D……の家でも聴きただして見るわけにいかなかつたのである（その場その場の雰囲気に合わせて質問していくので、その場の雰囲気からかけ離れた質問をすることは、被調査者の心証も考慮して困難である）。

以上のようなことから、第二次の結果を生活体制として纏め、ここから問題的生活行動・態度(生活体制)を抜き出すにあたり、これを客観化するために、どうしても必要に迫られた環境実態についてのみ、たしかめのために悉皆調査をしたのである。したがつてこの環境実態調査の内容項目は大原部落と太夫浜部落では異つてくるのは当然であり、今後他の地域社会でやる場合も異なつてくる筈である。われわれは環境実態の調査は基礎的なものはさておいても、基本的にはその地域社会の人々の生活の構え方を客観化するために、必要な範囲内のものをすればよいと信じている、最初から社会構造・社会機能によつて全体的に環境実態を把握しようとする、視点がぼけてしまうこと、調査項目が広がり過ぎて収集がつかなくなること、問題のはつきりしないうちにやるために調査項目をどの辺で切り捨てるべきかの目度がおさえられないこと（地域社会の環境実態は地域社会が有機的な統一体であることからすれば無数に考えられる）等から技術的に非常に困難に陥ると思つている。もちろん、われわれは後者のような地域社会調査の方法を、全面的に否定しているのではなくて、技術的にも未熟なわれわれでは困難だといふのである。

#### 7.1.3.1 調査票

この調査票は(+)及(=)を全世界に、(≡)は各種団体の幹部に配布した。これは田舎の正月休みを利用し、春の田仕事に忙しくならないうちをねらつた。しかし悉皆調査であり、全部に徹底することが大切なので、部落区長や班長の協力を得てやつた。すなわち区長・班長によく説明して、記入については区長・班長に責任をもつてもらつたのである。そこで区毎に各戸から一名ずつ区長宅に集





合してもらいよく説明し、あとは班長が督促したり、記入上の質問に応じたりして回収に努力することにした。しかしこんなにしても、回収率は78世帯中54世帯で69.23%にしか過ぎなかつた。中には面接調査の際、全部話したから書く必要なしと早合点したのもも相当あつたし、記入しておいたが、紛失してしまつたというもの、子供が破損したというものも相当あつたのである。(社会調査票(一)及び(二)は24頁のさし込みの表である)

### 社 会 調 査 票 (二)

あなたの活躍しているその団体では、どんな組織でどんなしごとをしていますか。またその成果と部落に対しての力はどうか。

団 体 名 ( ) 記 入 者 ( )

| 会長や幹事などの役の種類や、役員及びその役のしごと(組織) | どんな事業を計画し、実行していますか | 主指<br>な導<br>る者 | 会員す<br>合のる<br>へ出事<br>会席 | そのしごととの成果 | 備 考 |
|-------------------------------|--------------------|----------------|-------------------------|-----------|-----|
|                               |                    |                |                         |           |     |

この団体の村(上, 下大原)に対しての発言力はどうか。

(例えば、部落会の村ぎめは全部落の一年間の約束をきめるとか、青年団の公休日は村のどんな人でも守らねばならぬとか、婦人会のきめごとは男だけできめても守られぬとか、P・T・Aの幹事は部落会にも強い発言権をもつ等)

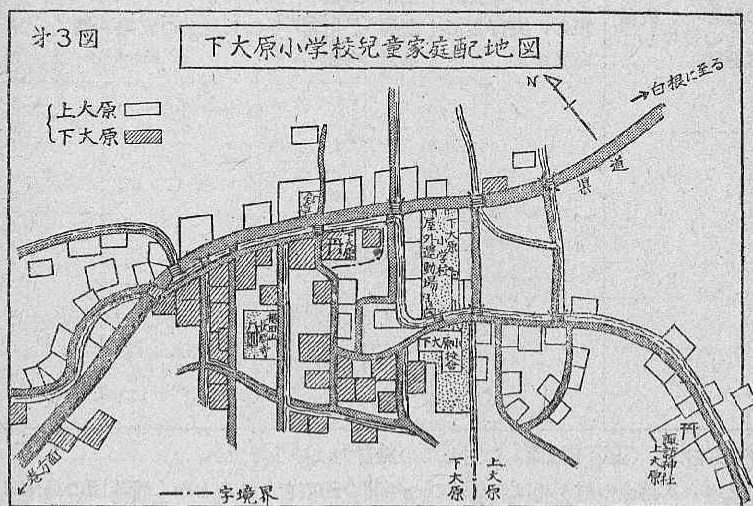
- 農協指導者や改良普及員の指導回数とその参加状況はどうか。村民の関心やこの指導の影響力はどうか。
- 部落の伝染病に対する対策や、大清掃などの衛生上の行事はどうか。
- 耕地整理に要するおよその反当費用、整理後のおよその増収実績、耕地整理による地価の値上りのようすについてわかる範囲におきかせください。

### 7.1.3.2 調査結果 (資料一覽)

この項の最初に、第一次調査をはじめに当つて把えた基礎調査資料をのせる。この基礎調査もどこまでやるべきかはいろいろ論のわかれるところであるが、われわれとしてはこの部落については全くの白紙であつたわけで、部落の全体的概観をして凡その概念を得たいと思つたのである。それにしても生活の構えを把える時、或はたしかめる時にやつた方が効果的と思われるものについてはこれを省略し、単に口答できいておく程度にしたのである（口答できいた程度のもは資料としてここには記載しない）

#### (1) 基礎資料

##### ㊦ 上下大原部落の略図



##### ㊧ 大原村の自然的位置

東経138度58分・北緯37度45分に位し、東は月潟村、西は漆山村、南は道上村、北は四ツ合村に接続している。河川は西部は新木山川が流れて鑑潟に入り、東部は旧木山川が流れて五カ村下江に入っている。

地勢は平坦であつて鑑潟が近いため、低地が多く、したがつて排水が悪く機械排水でなければ完全な農業が困難である。(最高海拔3.4米、最低2.3米) ——大原村図(61頁)参照。

㊦ 上下大原部落の沿革

上大原村は創始は不詳であるが、寛永7年（紀元2290年109代明正天皇の御時代徳川家光の頃）原野を開発し木滑村の一部となつていたが、慶安3年（2310年110代後光明天皇徳川家光の頃）11月同村と分離して上大原村となる。下大原村は上大原村と同時代開発される。現在の下大原村は開発当時針ヶ曾根組に属しておつたが、木滑村と分離して上大原村のできた五年後の明暦元年（2315年）、これも前者の如く針ヶ曾根組と分離し下大原村と称せり。番屋村は年紀不詳ではあるが、井随村より分離して明暦3年（紀元2317年111代後西天皇御代）に至り番屋村と称す。茨島村は延宝3年（2335年112代霊元天皇の御代）の7月創始年代不詳である。往古茨島新田と称しておつたが、茨島村となつて独立した。茨島村を除く上大原、下大原番屋の3カ村は享保2年（2377年114代中御門天皇將軍吉宗の頃）村上領の4万石を高崎村上の2藩に分領するに当り、本村は茨曾根組に変わり、明治12年西蒲原郡に属し、明治22年町村制施行の際、茨島村と合併して共和村と称し、明治34年更に瀧前村と合併して大原村となる。

以上の如く明治34年11月1日共和村・瀧前村合併して大原村と称し、役場を茨島に置き中山久太郎氏村長に選任され小村貫一郎氏、樋口鹿蔵氏、西村信吾氏の4代を経現樋口村長は5代目に当り今日に及んでいる。

㊧ 人 口

(a) 部落別世帯及び人口 (27.5.1日現在)

第26表

| 部 落 名 | 戸 数 | 世帯数 | 人 口 | 部 落 名   | 戸 数 | 世帯数 | 人 口   |
|-------|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-------|
| 上 大 原 | 45  | 46  | 326 | 今 井     | 76  | 69  | 456   |
| 下 大 原 | 31  | 32  | 210 | 国 見     | 40  | 40  | 257   |
| 番 屋   | 57  | 57  | 406 | 大 曾 根 甲 | 42  | 44  | 270   |
| 茨 島   | 78  | 78  | 516 | 大 曾 根 乙 | 10  | 10  | 83    |
| 称 名   | 32  | 33  | 231 | 合 計     | 402 | 409 | 2,755 |

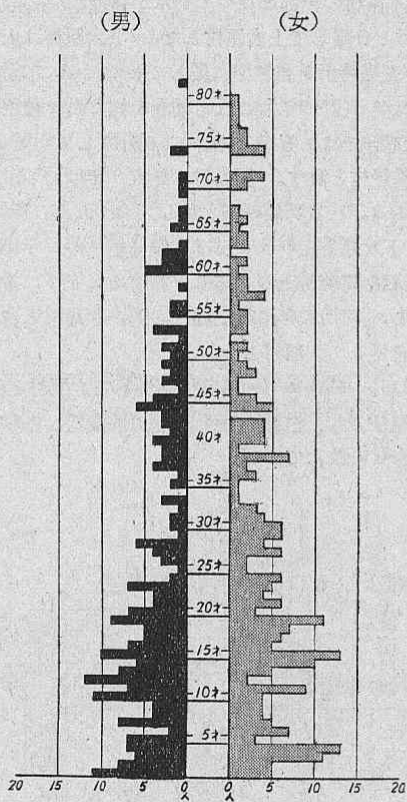
(b) 年齢別人口構成 (昭28.1月現在)

第27表

|   | 1<br>~<br>5 | 6<br>~<br>10 | 11<br>~<br>15 | 16<br>~<br>20 | 21<br>~<br>25 | 26<br>~<br>30 | 31<br>~<br>35 | 36<br>~<br>40 | 41<br>~<br>45 | 46<br>~<br>50 | 51<br>~<br>55 | 56<br>~<br>60 | 61<br>~<br>65 | 66<br>~<br>70 | 71<br>~<br>75 | 76<br>~<br>80 | 81<br>~<br>85 | 86<br>~<br>90 | 合計  |
|---|-------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----|
| 男 | 40          | 30           | 42            | 32            | 18            | 17            | 8             | 14            | 18            | 10            | 10            | 8             | 9             | 4             | 4             | —             | 1             | —             | 265 |
| 女 | 36          | 24           | 39            | 33            | 24            | 23            | 9             | 18            | 15            | 10            | 10            | 8             | 7             | 5             | 9             | 6             | —             | —             | 276 |

(c) 人口構成図

第4図



(d) 人口動態

第28表

|       | 全 村   |       |       | 上 大 原 |     |     | 下 大 原 |    |     |
|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|----|-----|
|       | 男     | 女     | 計     | 男     | 女   | 計   | 男     | 女  | 計   |
| 昭和15年 | 1,220 | 1,224 | 2,444 | 143   | 146 | 289 | 100   | 89 | 189 |
| 〃 23  | 1,337 | 1,391 | 2,728 | 153   | 169 | 322 | 98    | 96 | 194 |
| 〃 27  | —     | —     | 2,755 | —     | —   | 326 | —     | —  | 210 |

㊦ 地 積

第29表

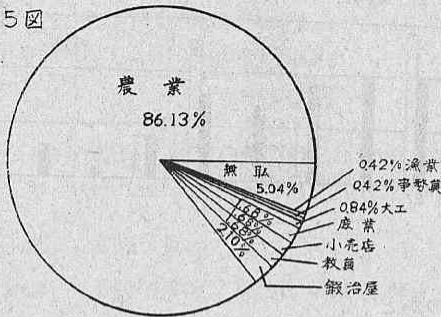
| 土 地 (有租地) 27.4.1日現在 |   | 田     | 畑   | 宅 地 | 雑 地 | 合 計   |
|---------------------|---|-------|-----|-----|-----|-------|
| 全 村                 | 反 | 5,625 | 351 | 273 | 34  | 6,283 |
| 上 大 原               | 反 | 639   | 33  | 27  | 8   | 707   |
| 下 大 原               | 反 | 417   | 25  | 22  | 13  | 477   |

㊧ 職業従事者の職業別構成

第30表

|       | 農     | かじ   | 漁    | 大工   | 小売店  | 事務   | 教員   | 庶    | 無職   | 計   |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 上 大 原 | 115   | 5    | 1    | 2    | 3    | —    | 3    | 3    | 5    | 137 |
| 下 上 原 | 90    | —    | —    | —    | 1    | 1    | 1    | 1    | 7    | 101 |
| 計     | 205   | 5    | 1    | 2    | 4    | 1    | 4    | 4    | 4    | 238 |
| %     | 86.13 | 2.10 | 0.42 | 0.84 | 1.68 | 0.42 | 1.68 | 1.68 | 5.04 | —   |

才5図



(2) 生産的活動に関する面

(1) 定住年数

第31表

|     | 5年未満 | 10年未満 | 10年以上 | 20年〃 | 30年〃 | 40年〃 | 50年〃 | 80年〃 | 100年〃 | 150年〃 | 200年〃 | 不明 |
|-----|------|-------|-------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|----|
| 上大原 | 2    | —     | 1     | 1    | —    | 1    | 1    | —    | 3     | —     | 3     | 13 |
| 下大原 | 1    | —     | —     | —    | 1    | 3    | 3    | —    | 2     | 1     | 6     | 7  |



(四) 定住世代

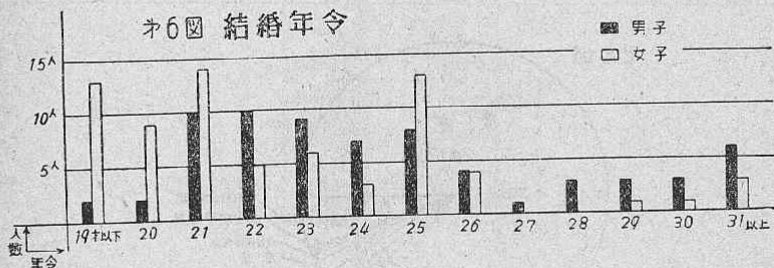
第32表

|     | 1代目  | 2代 | 3代 | 4代 | 5代 | 6代 | 7代 | 8代 | 9代 | 10代 | 10代以上 | 不明 |
|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-------|----|
| 上大原 | 2(7) | 2  | 3  | 3  | 5  | 3  | —  | —  | —  | 1   | 4     | 7  |
| 下大原 | 7(8) | 3  | 1  | 2  | 3  | 2  | 1  | 1  | —  | —   | 2     | 2  |

(五) 結婚年齢

第33表

|     | 19以下 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31以上 | 計 |    |
|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|---|----|
| 上大原 | 男    | —  | 2  | 8  | 7  | 2  | 3  | 4  | 3  | 1  | 2  | 3  | 1    | 3 | 39 |
|     | 女    | 11 | 6  | 7  | 4  | 2  | 2  | 4  | 3  | —  | —  | —  | 1    | 1 | 41 |
| 下大原 | 男    | 2  | —  | 2  | 3  | 7  | 4  | 4  | 1  | —  | 1  | —  | 2    | 3 | 29 |
|     | 女    | 2  | 3  | 7  | 1  | 4  | 1  | 9  | 1  | —  | —  | 1  | —    | 2 | 31 |



(二) 水との戦いのあと

第34表

| 年代   | 摘 要                                                                                                                                                                                           |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 明治以前 | 嵐堰を中心とした水争いが絶え間なし。(四合村大字熊谷, 山口, 水沢はその上手の大原村番屋耕地の地続きの所の嵐郷地内に嵐郷(一名三法堰という用水溜を作つた。これは大原村の諸悪水を溜めて, 前記三カ字の用水としたり, 流下を防いで調節しようとした。このため大原, 番屋の耕地(嵐郷)は湛水で困じ果てた。しかし片や村上領に対し, 片や天領であるため水利の交渉は常に不利に終つていた。 |

|         |                                                                                |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 明治18~21 | 山鳥堰設置（2カ村組合を設置したが、その組合費の全額の半分は上下大原二カ村で負担した）。                                   |
| 明治38    | 大洪水による百年來の大凶作、上下大原の水田は皆無に近し。                                                   |
| 明治42    | 水害による水廢地租特免交渉……一部成功。                                                           |
| 明治43    | 大洪水……稲作の6割湛水——米価高騰東京の価格に近くなる。地租特免の申請をなす。小作人は納米の一カ年延期を請求、排水器設置交渉を關係字にしたが不調。     |
| 明治44    | 水害——村民繰出により徹宵の防水をつづけたが被害甚大。前年1石15円34銭の米価は八、九月には21円に高騰した。                       |
| 明治45    | 湛水——水流下降せず田堰切断、下流部落と交渉せるも吐口開放は成功せず。部落民焚出晩食にて徹夜で努力したが功少なし。地主（不在地主）協議して耕地整理に着手す。 |
| 大正 5    | 排水機運転開始。<br>湛水——水害地租特免申請す。                                                     |
| (註)     | 明治42~大正6年までの間、北海道へ土地放棄して移住した主なるものが17世帯にのぼる。                                    |
| 大正11    | 雹害特免強要。<br>湛水——村民繰出で防水するも被害あり免租を願い出る。小作組合を組織したが成功せず。                           |
| 大正12    | 両大原小作農組合成立す。                                                                   |
| 大正15    | 大水害をうける。                                                                       |
| 昭和以後    | 五カ村下江、大原下江が完成するに及んで水害は絶えた。<br>(これ以降特記する事件も記録もなし)                               |

## 兩 年 貢 米

大原部落はほとんどが水原町佐藤友右衛門氏の小作で“軒米制”をとつていた。

1 軒 米 2町7反

またがしの場合は 2町で2町7反分の年貢をおさめる→このような小作が多かつた。

反当は当時で4~5俵で年貢米は「一軒米53俵」であつたが、毎年立見をして実収の上できめる。大原は“下り”で水害を常にうけたので、大てい43俵位だつた。

そうすると一軒米小作で四分六分がよい方であり、またがりの小作は五分五分か、六分四分等の場合もあり、非常に苦しかつた。大正十五年頃までつづいた。

昭和7~11年にわたり、玉井潤次氏の努力で佐藤友右衛門氏より田地を買い

とり、自作農になつたものが多くなつた。

第35表

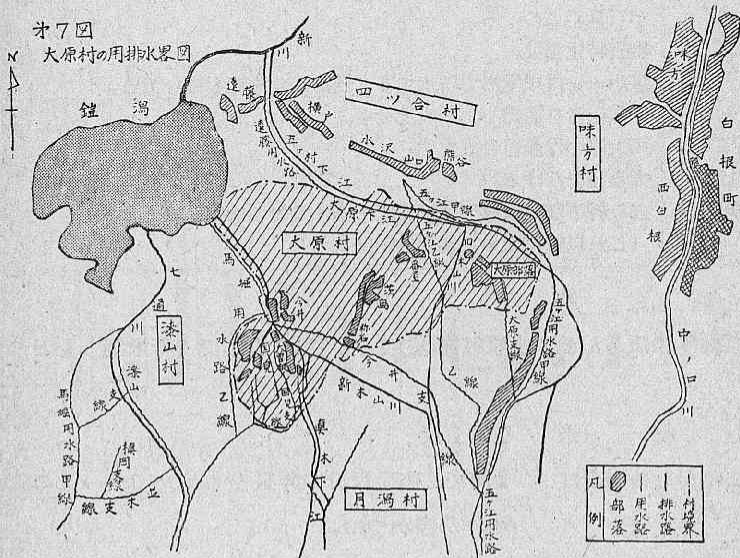
| 土地開放前の自作小 | 自作のみ | 小作のみ | 自作兼小作 | 自作兼地主 | 無 答 |
|-----------|------|------|-------|-------|-----|
| 数         | 14   | 4    | 13    | 5     | 4   |

なお終戦前の年貢米は小作の立場が向上し、反当7俵(28斗)に対し7~8斗であつた。

(ノ) 耕地整理完了地

大原地内 35町7反3畝 } 全耕地の2/5  
 月潟耕地 15町~16町 }

(ト) 村の用排水路図



(チ) 五ヶ村下江

四ツ合村大字熊谷, 山口, 水沢は, その上手の大原村番屋耕地の地続きの所の嵐郷地内に「嵐堰」(一名三法堰)という用水溜を作つた。これは大原村の諸悪水を溜めて, 前記三カ字の用水としたり, 流下を防いで調節しようとした。このため大原, 番屋の耕地(嵐郷)は湛水で困じ果てた。しかし片や村上

領に対して片や天領であるため、水利の交渉は常に不利に終つていた。明治・大正・昭和とこの争いは宿命的なものとなつて続き、五カ村下江、大原下江の完成で終止符をうった。

(註:-大原部落が水の問題で常に逆境におかれていたことがわかる。五カ村下江は大原部落にとって廻天的事業で、この完成は大原部落を水の害より救つたのである。)

(ウ) 耕作反別

第36表

| 種別 | 反別 | 2町以上         | 1町以上         | 5反以上         | 1反以上         | 1反以下         | 0            | 計             |
|----|----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|
| 田  |    | 25<br>(37.1) | 24<br>(30.8) | 10<br>(12.8) | 9<br>(11.5)  | 1<br>(1.3)   | 9<br>(11.5)  | 78<br>(100.0) |
| 畑  |    | —            | —            | —            | 60<br>(10.3) | 60<br>(76.9) | 10<br>(12.8) | 78<br>(100.0) |

以上の中、1町未満の純農は18.7%。兼農家(漁、大工、日雇)3戸。非農家は13戸。

(商1, 教員2, 寺1, 神職1, 無職2, 代書1, 日雇1, 事務1, 大工1, 工夫1, 銀治1)

(註:-土地利用の94%が水田耕作……しかも上表より水田単作栽培農村であることがわかる。湿田が多く、排水水路の造成維持および堤防、橋梁の修繕等が農民の生活維持の上から、きわめて重要不可欠となつている。)

(ヌ) 部落耕地面積及び一戸当り面積

第37表

|         | 水田総面積   | 水田一戸当反別 | 畑作総面積  | 畑作一戸当 |
|---------|---------|---------|--------|-------|
| 上大原(42) | 63町5反8畝 | 1町5反2畝  | 2町9反3畝 | 7畝    |
| 下大原(28) | 42町1反   | 1町5反    | 1町3反9畝 | 5畝    |

(ヘ) 米の生産累年統計

第38表

|       | 上大原部落      |            |           | 下大原部落      |          |           |
|-------|------------|------------|-----------|------------|----------|-----------|
|       | 作付面積       | 実収高        | 反収        | 作付面積       | 実収高      | 反収        |
| 昭和21年 | 反<br>654.1 | 石<br>1,405 | 石<br>2.15 | 反<br>449.2 | 石<br>799 | 石<br>1.78 |
| 22    | 595.2      | 1,470      | 2.47      | 452.2      | 861      | 1.90      |
| 23    | 648.6      | 2,062      | 3.18      | 425.7      | 1,223    | 2.87      |

|       |       |       |      |       |       |      |
|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|
| 昭和24年 | 663.7 | 1,788 | 2.69 | 433.7 | 1,068 | 2.46 |
| 25    | 655.2 | 1,413 | 2.16 | 428.2 | 812   | 1.90 |
| 26    | 637.0 | 1,766 | 2.77 | 421.7 | 1,106 | 2.77 |
| 27    | 635.9 | 1,777 | 2.79 | 421.0 | 1,108 | 2.63 |

(註：面接調査より、部落平均反収 2石9斗位  
最高反収 3石2斗(部落民は目標を3石2斗とする))

(7) 二毛作及び副業について

・種 類

第39表

| 種 類 | 二 毛 作 |   |    |       | 副 業 |     |     |     |     |
|-----|-------|---|----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
|     | なし    | 麦 | 菜種 | じゃがいも | 鎌かじ | 製 繩 | 煙草売 | 大 工 | 日 雇 |
| 数   | 39    | 8 | 4  | 1     | 1   | 2   | 1   | 1   | 2   |

・年 間 収 入

第40表

| 3,000~<br>5,000円 | 5,000~<br>8,000円 | 8,000~<br>10,000円 | 10,000~<br>12,000円 | 12,000~<br>15,000円 | 15,000~<br>18,000円 | 18,000~<br>20,000円 | 20,000~<br>25,000円 | 25,000円<br>以上 | 50,000<br>円以上 |
|------------------|------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------|---------------|
| 1                | 1                | —                 | 3                  | 1                  | 2                  | —                  | 3                  | 1             | 2             |

(註：補正調査で更にこの真实性をたしかめたが、税金の関係で票に書き出した数字) は二割位内輪であるということがわかった。

(7) 農機具について 54世帯

第41表

| 有無      | 使用日数 | 牛  | 馬  | 豚  | にわとり | 耕耘機 | 脱穀機 | 精米機 | リヤカー | 自転車 | 舟  | 荷車 |
|---------|------|----|----|----|------|-----|-----|-----|------|-----|----|----|
|         |      | 有  | 26 | 7  | 3    | 36  | 11  | 45  | 38   | 48  | 50 | 38 |
| 無       | 28   | 47 | 51 | 18 | 43   | 11  | 16  | 11  | 4    | 16  | 43 |    |
| 無 答     | 7    | 2  | —  | —  | 2    | 13  | 13  | 16  | 14   | 19  | 3  |    |
| 年 中     | 1    | —  | —  | —  | —    | —   | —   | 5   | 29   | —   | —  |    |
| 100日 以上 | 5    | —  | —  | —  | —    | 1   | —   | 15  | 6    | 1   | 2  |    |
| 50日 〳   | 11   | 2  | —  | —  | 1    | 5   | —   | 7   | —    | 1   | 1  |    |
| 30~50〳  | 1    | 3  | —  | —  | —    | 6   | —   | 3   | —    | 4   | 2  |    |
| 30日 以下  | —    | —  | —  | —  | 2    | 6   | —   | 1   | —    | 1   | 1  |    |
| 20日 以下  | —    | —  | —  | —  | —    | 6   | 3   | —   | —    | 3   | —  |    |
| 10日 以下  | 1    | —  | —  | —  | 7    | 5   | 22  | 1   | 1    | 10  | 1  |    |

|    |    |    |    |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 数  | 無  | 答  | 1  | — | — | —  | —  | 1  | —  | 1  | 1  | 1  | 1  |
|    | 1  |    | 26 | 7 | 1 | —  | 11 | 42 | 38 | 39 | 35 | 19 | 10 |
|    | 2  |    | —  | — | 2 | 4  | —  | —  | —  | 8  | 13 | 16 | —  |
|    | 3  | 以上 | —  | — | — | 8  | —  | —  | —  | —  | 1  | 4  | —  |
|    | 5  | 〃  | —  | — | — | 7  | —  | —  | —  | —  | —  | —  | —  |
|    | 10 | 〃  | —  | — | — | 10 | —  | —  | —  | —  | —  | —  | —  |
|    | 20 | 〃  | —  | — | — | 5  | —  | —  | —  | —  | —  | —  | —  |
| 30 | 〃  | —  | —  | — | 2 | —  | —  | —  | —  | —  | —  | —  |    |
| 個  | 人  | 持  | 26 | 7 | 3 | 36 | 1  | 40 | 9  | 48 | 50 | 38 | 11 |
| 仲  | 間  | 持  | —  | — | — | —  | 10 | 3  | 29 | —  | —  | —  | —  |
| 借金 | あ  | り  | 4  | — | — | —  | 6  | 1  | —  | —  | 1  | 1  | 1  |
|    | な  | し  | 5  | 3 | 2 | 13 | 1  | 15 | 14 | 17 | 19 | 15 | 4  |
|    | 無  | 答  | 17 | 4 | 1 | 23 | 4  | 17 | 24 | 31 | 30 | 2  | 6  |

(カ) 作 業 場

第42表

|       |    |   |     |     |     |
|-------|----|---|-----|-----|-----|
|       | 有  | 無 | 独 立 | 附 属 | 無 答 |
| 作 業 場 | 43 | 6 | 25  | 16  | 4   |

(ク) 職 業 の 変 遷

ほとんどなし(商業から農業へ……3戸 農業に副業をもつたもの……2戸)  
出稼するものもない。

第43表

家族の労働時間及び睡眠時間

|         |                  |      |      |      |      |      |      |
|---------|------------------|------|------|------|------|------|------|
|         | 老 人<br>(61以上)    | 主 人  | 主 婦  | 長 男  | 嫁    | 未婚男  | 未婚女  |
| 農繁期労働時間 | 7.2 <sup>時</sup> | 10.4 | 12.1 | 12.0 | 12.4 | 11.8 | 11.8 |
| 農閑期労働時間 | 6.0              | 6.3  | 7.4  | 8.5  | 8.6  | 8.0  | 7.4  |
| 普通睡眠時間  | 8.8              | 8.1  | 7.8  | 8.1  | 7.8  | 8.3  | 8.4  |

註:-第三次調査のたしかめの結果

田植え、早場米供出時の3週間~4週間は最高18時間、普通15時間は働くとい  
う。また農閑期労働時間に主婦、嫁の場合は家事裁縫が入っていないから、実  
働時間はこれより2~3時間は上廻る。

(就寝時間)

(起床時間)

(起床順位)

主 人 9時~11時頃

6時~7時

(嫁→作→姑→妹→主人→弟)

主 婦 8〃~9〃

5時~6〃

## 経 済 面

### 部落の村万雑費

|        |     |        |
|--------|-----|--------|
| ・大原字費  | 反 当 | 800円   |
| ・水利組合費 | 〃   | 700〃   |
| ・耕地整理費 | 〃   | 1,500〃 |
| ・公 課   | 〃   | 2,500〃 |
| ・農業保険  | 〃   | 500〃   |

### 生 産 費

|        |      |                |
|--------|------|----------------|
| ・肥料代金  | 反 当  | 2,000円~1,500円  |
| ・農機具費  | 〃    | 2,000〃         |
| ・牛馬飼育費 | 一頭年間 | 20,000~30,000円 |
| ・年 雇 人 | 年 間  | 30,000~50,000円 |

### (3) 社会的活動に関する面

#### (4) 家族構成員

第44表

| 世帯主          | 配偶者       | 子(男) | 子(女) | 長<br>の<br>男<br>嫁 | 二男以<br>下の嫁 | 孫(男)       | 孫(女)       | 父 母 |     |
|--------------|-----------|------|------|------------------|------------|------------|------------|-----|-----|
| 79<br>(内女 2) | 72        | 138  | 117  | 19               | 5          | 32         | 25         | 26  |     |
| 祖父母          | 伯叔<br>父 母 | 弟    | 妹    | 弟の嫁              | 孫の嫁        | 弟の子<br>(男) | 弟の子<br>(女) | 同居人 | 使用人 |
| 1            | 1         | 7    | 6    | 2                | 1          | 2          | 2          | 1   | 11  |

#### (5) 家族類型

第45表

|      | 小 家 族         | 中 〃           | 大 〃           | 計  |
|------|---------------|---------------|---------------|----|
| 数    | 30<br>(38.5%) | 37<br>(47.4%) | 11<br>(14.1%) | 78 |
| 使用人持 | 4             | 3             | —             | 7  |

#### (6) 員数別家族構成

第46表

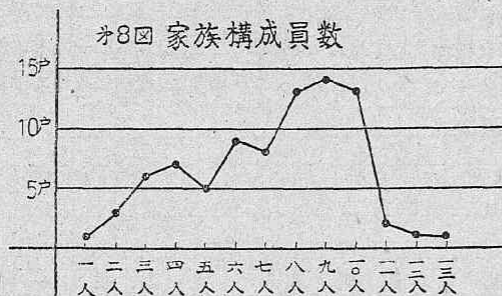
| 構成員 | 1人         | 2          | 3          | 4          | 5          | 6           | 7           | 8            | 9            | 10          | 11         | 12         | 13         | 計  |
|-----|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|-------------|--------------|--------------|-------------|------------|------------|------------|----|
| 戸 数 | 1<br>(1.3) | 3<br>(3.8) | 6<br>(7.7) | 7<br>(9.0) | 5<br>(6.4) | 9<br>(11.5) | 8<br>(10.3) | 13<br>(16.7) | 14<br>(17.8) | 8<br>(10.3) | 2<br>(2.6) | 1<br>(1.3) | 1<br>(1.3) | 78 |

平均1戸当り7.8人

(二) 家長年 齡

第47表

|   | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 90代 | 計  |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 男 | 5   | 12  | 28  | 14  | 14  | 3   | —   | —   | 76 |
| 女 | —   | 1   | —   | —   | —   | 1   | —   | —   | 2  |



(ホ) 通婚・分家範囲

(a) 入 婚 者

第48表

|       | 部落内          | 村 内         | 隣 村          | 他郡市         | 他 県 | 計  |
|-------|--------------|-------------|--------------|-------------|-----|----|
| 上 大 原 | 21<br>(52.5) | 3<br>(7.5)  | 12<br>(30.0) | 4<br>(10.0) | —   | 40 |
| 下 大 原 | 16<br>(42.1) | 4<br>(10.4) | 15<br>(39.5) | 3<br>(7.0)  | —   | 38 |
| 計     | 37<br>(47.4) | 7<br>(9.0)  | 27<br>(34.6) | 7<br>(9.0)  | —   | 78 |

(b) 当代の分家及び娘の婚縁先 (出婚状況)

第49表

|       | 無 答          | 部落内          | 村 内        | 隣 村        | 郡 内        | 郡 外          | 県 外        | 計  |
|-------|--------------|--------------|------------|------------|------------|--------------|------------|----|
| 分 家 先 | 39<br>(66.1) | 18<br>(30.5) | —          | —          | —          | 2<br>(3.4)   | —          | 59 |
| 出 婚 先 | 32<br>(44.4) | 15<br>(20.8) | 3<br>(4.2) | 5<br>(6.9) | 3<br>(4.2) | 11<br>(15.3) | 3<br>(4.2) | 72 |



## (c) 縁 ぎ め

親がきめた 132 自由結婚 1

## (v) 夫 婦 年 齢

第50表

| 夫が年上       | 同 年        | 一つ目増し      | 目 増      |
|------------|------------|------------|----------|
| 65 (67.7%) | 12 (12.5%) | 10 (10.4%) | 9 (9.4%) |

註：同年または目増夫婦の多い理由は、補正調査の結果によると、早く嫁をもらつて家族労働力を増そうとするため、早婚になり、いきおい一人前の嫁となると夫と年齢的に開かなくなるか、目増しとなる。別に因習的なものではないとのこと。

## (i) 家庭の生活様式

(a) 財布は誰がにぎるか

第51表

| 主 人          | 主 婦        | その他        | 無 答        |
|--------------|------------|------------|------------|
| 47<br>(85.4) | 3<br>(5.5) | 1<br>(1.8) | 4<br>(7.3) |

(b) 家の客に対して

第52表

| 主 人          | 主 婦          | 年 寄        | 無 答          |
|--------------|--------------|------------|--------------|
| 38<br>(56.7) | 16<br>(23.9) | 3<br>(4.5) | 10<br>(14.4) |

## (c) 家 の 座 席

第53表

| 定まつている    | 定まつているが守られない | 定まつていない  | 無 答      |
|-----------|--------------|----------|----------|
| 32 (68.2) | 3 (6.4)      | 5 (10.6) | 7 (14.8) |

## (d) 風呂の順序

第54表

| 定まつている | 男 が 先 | 定まつていない | 無 答 |
|--------|-------|---------|-----|
| 7      | 21    | 21      | 7   |

## (e) 食物の内容

第55表

| 主人は別のものをたべる | みんないつしよに同じもの | 無 答 |
|-------------|--------------|-----|
| —           | 49           | 4   |

第56表

| 順 | 位          | (数) | 順 | 位               | (数) |
|---|------------|-----|---|-----------------|-----|
| 無 | 答          | 8   | 主 | 弟 主婦 弟嫁 子供      | 1   |
| 主 | 妻 長男 次男 長女 | 18  | 主 | 主婦 長男 次男 弟嫁 次男嫁 | 1   |
| 主 | 長男 主婦 嫁 孫  | 4   | 主 | 娘 主嫁            | 1   |
| 主 | 老人 主婦 長男   | 4   | 主 | 弟 長男 主婦 長女 老人   | 1   |
| 主 | 主婦 老人 子供 嫁 | 4   | 主 | 長男 孫 主婦 嫁 弟嫁    | 1   |
| 主 | 長男 主婦 次男 嫁 | 3   | 主 | 主婦 長女 婿         | 1   |
| 主 | 老人 件 主婦 嫁  | 2   | 主 | 次男 老人 主婦 老婆 弟嫁  | 1   |
| 主 | 主婦 長男 嫁 孫  | 2   | 主 | 主婦 子供 老人        | 1   |
| 件 | 次男 主人 主婦 嫁 | 2   |   |                 |     |

| 順位 | 主人 | 主婦 | 長男 | 次男 | 嫁  | 弟嫁 | 子供 | 老人 | 孫 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 1  | 45 | 2  |    |    |    |    |    |    |   |
| 2  |    | 27 | 8  | 5  |    |    | 1  | 6  |   |
| 3  | 2  | 13 | 24 |    |    |    | 1  |    |   |
| 4  |    | 7  | 4  | 4  | 7  | 1  | 22 | 1  |   |
| 5  |    |    |    |    | 13 | 1  | 20 | 1  | 6 |

(f) 夫婦二人で外出する

第57表

| 仕事する時以外ない | 年に一二回町にでる | 時々でかける | 無 | 答  |
|-----------|-----------|--------|---|----|
| 27        | 7         | 4      |   | 15 |

(g) 一日の中で二人きりで話し合う時間

第58表

| ほとんどない | 一時間ぐらい(夜) | 夕食後は二人の時間がいつでももてる | 無 | 答  |
|--------|-----------|-------------------|---|----|
| 16     | 12        | 16                |   | 12 |

(h) 親子がたのしく話し合う

第59表

| 夕食後は何時もそうだ | 公休日は何時もそうする | 正月や盆の時くらいだ | 無 | 答 |
|------------|-------------|------------|---|---|
| 33         | 14          | 10         |   | 9 |

(i) 朝起の順序

第60表

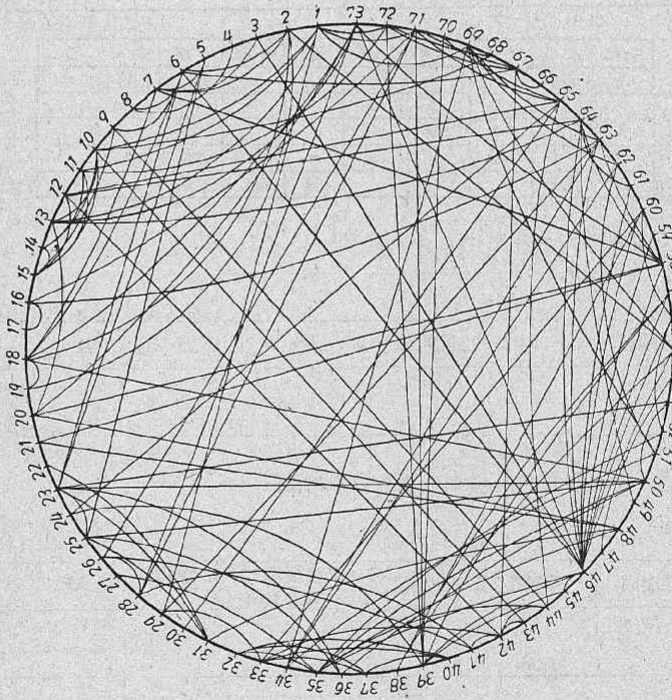
| 嫁が一番早く起きる    | 女が早くおきる      | みんな一緒      | 無 | 答           |
|--------------|--------------|------------|---|-------------|
| 13<br>(22.8) | 31<br>(54.4) | 5<br>(8.8) |   | 8<br>(14.0) |

註：(1)～(4)家族の労働時間及び睡眠時間の項参照のこと。女子が男子に較べて労働時間が多くなっている。

(4) 各世帯のつながり (調査票未提出世帯の分が不明であった)

(a) 部落一門的つながり

第9図

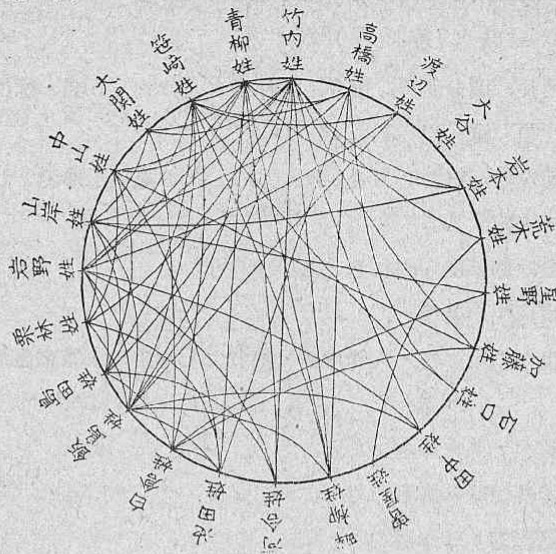


(b) 同姓戸数

|    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 竹内 | 9戸 | 岩野 | 5戸 | 河合 | 2戸 | 星野 | 1戸 |
| 青柳 | 8戸 | 栗林 | 5戸 | 畔柳 | 2戸 | 荒木 | 1戸 |
| 笹崎 | 7戸 | 島田 | 4戸 | 曾屋 | 2戸 | 宮本 | 1戸 |
| 大関 | 5戸 | 飯島 | 3戸 | 田中 | 2戸 | 大谷 | 1戸 |
| 中山 | 5戸 | 白倉 | 3戸 | 石口 | 1戸 | 渡辺 | 1戸 |
| 山岸 | 5戸 | 池田 | 3戸 | 加藤 | 1戸 | 高橋 | 1戸 |

(c) 同姓のつながり

第10図



(d) 講組的結合関係

講組は調査票の上からも、實際たしかめても、全くといつてよいくない。冠婚葬祭は字内の者と、隣組的なまとまりで手伝う。無常休みは家の死ごとで全部落が休む。

(x) 各種社会集団

(a) 婦人会

・会長・副会長・理事（各部落3名）書記二名（但し村婦人会組織）

・支部としては組織なし。

・事業

いなごとり、映画、視察、運動会、生活改善。

・傾向

近頃若い婦人が参加する傾向あり。

台所改善は昨年村の補助を得て37戸改良かまどにした。

積極性がないので、事業をやつてもその成果に大して期待するほどでない。

冠婚葬祭のことなどきめても全くだめ。

(活潑な動きは見えず、発言力等も大したことなし)

### (b) 消 防 団

・分団長，副分団長，伝令，操作係（ポンプ）6名，総員42名。

・役 員 選 出

前役員が村の有力者とはかつて，その意見を参考としてきめ，総会で決定する。

・総会は毎年ひらかれるとはかぎらない。

・役員選出の基準

現在の家の格・人物才幹・出費にたえるか・軍隊生活の経験。

・事 業

防火・消火が主である。

幹部だけの講習にでる。

・部落に対する影響力

なし。

器具購入の時，連絡する程度。

### (c) 青 年 団

・組 織

団長・副団長・会計・文化部・体育部・産業部……村団との関係で組織する。

・役 員 選 出

総会できめるが，その前に顧問が相談して候補をあげる。

役員になり手がいない場合が多いので，その時は顧問にお願いする。

・事 業

夜学・弁論大会・卓球大会・剣道・資金獲得の村民慰安興行・資金獲得作業・花見・競技会・試作畑・公休日設定。

・団員のあつまり

7割位，意見は散発的でまとまりなく，建設的・積極的な意欲なし。むしろ計画の相談のときは改善意見は引込んでしまう。

・経 費

|     |      |          |        |           |
|-----|------|----------|--------|-----------|
| 会 費 | 100円 | 団 費      | 3,500  | } 80,500円 |
|     |      | 字 補 助 金  | 12,000 |           |
|     |      | 興業・作業の収入 | 65,000 |           |

支出としては主として競技大会で研究的なものへの支出なし。

・発 言 力

大したことなく村としても重視していない。

青年団も引込思案である。

(d) 部 落 会

・部落組合組織

組合長・副組合長・評議員。

・事 業

農業改良事業を計画し実行する。

部落会の村ぎめはよく守る。部落会役員は部落の顔役としていろいろの面に顔をだしている。とにかく部落の行動の中心となる。

・役 員

役員は人物・才幹・家の手間や経済事情できめるが、大ききまつている。他のいろいろの役員は分に応じて重ならないように適当に分ける。

(e) 農 家 組 合

・組 織

組合長・生産部長・斡旋部長・評議員・作業班長。

・事 業

農地改良・生産増強の指導・畜産増植・生活改善。

・組 合 員

個人の経済に直接影響するので、一生けんめい部落に対する発言も大きい。

(f) P・T・A

・組 織

会長・副会長（校長と男子1名）・会計2名・役員（男4名・女4名）  
・書記1名。

- ・全面的協力……積極性なく学校の云う通りに動く。
- ・部落に対する発言は大きい。
- ・P・T・Aは役員にまかせておく。

#### (g) 宗教団体

##### ・神社関係

上、下面部落の神社として諏訪神社あり、部落全部が氏子であるから、氏子講はない。氏子総代……区長重立ち三名、経費は祭典費として部落民（氏子）に賦課する。

神社を通しての部落の団結はない。

##### ・寺院関係

お引上・寺お講は村こぞつて休みにしてお詣りし、初嫁は母に伴われて（式当日の晴れ姿で）参詣し、住職にあいさつして下降する等は特筆して宜しい。

部落民はよく帰依している。

#### (4) 部落内の格付

- ・地主級の家が部落に2軒あるが、今はほとんど区別していない。
- ・階級差による呼称はほとんどない。

“あねさ”といわれる家が二、三あるが、古くからの言いならわしで、格付けなどに厳格な区別なし。

全部“……どん”と呼んでいる。

- ・また新入居者に対して特別排他的な差別はつけない。

「村入りの酒」などということもない。

#### (4) 文化的活動に関する面

##### (1) 経済生活

（この経済面は本来生産的活動に包含されるべきものであるが、特に文化的な生活活動に関連があるのでここに記載した）

## (a) 農協預貯金状況 (平均……昭和27年分)

第61表

| 年 間   | 25反以上   | 20反以上   | 15反以上   | 10反以上   | 5反以上    |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 預貯金総額 | 547,820 | 489,789 | 372,134 | 240,175 | 102,815 |
| 払出し総額 | 519,388 | 461,051 | 338,669 | 223,177 | 99,667  |
| 農業手形  | 49,621  | 45,039  | 36,947  | 25,259  | 13,928  |

(一戸当り)

## (b) 戸別にみた収入支出状況

第62表

|       | 17.5反<br>(2石8斗)     | 20反<br>(3石)          | 14反<br>(2石4斗)       | 8反<br>(2石4斗)      | 26.6反<br>(2石7斗)     | 4.3反<br>(2石8斗)     |
|-------|---------------------|----------------------|---------------------|-------------------|---------------------|--------------------|
| 年間総収入 | 310,000             | 500,000<br>(副12,000) | 390,000             | 78,000            | 462,903             | 58,520             |
| 生産費   | 170,000             | 220,000              | 319,060             | 24,400            | 287,732             | 32,501             |
| 生活費   | 140,000<br>(20,000) | 280,000<br>(31,000)  | 130,940<br>(26,128) | 53,600<br>(7,657) | 180,171<br>(22,534) | 26,019<br>(13,009) |
| 差引残   | —                   | —                    | -60,000             | —                 | —                   | 90                 |

|       | 25反<br>(2石8斗)       | 25.8反<br>(2石5斗)     | 10.7反<br>(2石8斗)     |                   |                   |
|-------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------------|-------------------|
| 年間総収入 | 500,000             | 415,200             | 183,000             |                   |                   |
| 生産費   | 300,000             | 241,600             | 48,600              |                   |                   |
| 生活費   | 200,000<br>(25,000) | 258,400<br>(25,840) | 134,400<br>(27,200) | (一人平均)<br>24,263円 | (月一人平均)<br>2,022円 |
| 差引残   | —                   | -84,800             | —                   |                   |                   |

## (四) 教育関係

## (a) 学歴及び進学状況

第63表

|     | 尋小卒          | 高小卒          | 中等卒        |            | 高専卒        |   | 新中卒          | 中<br>以<br>上<br>退 | 高 校<br>在 学 中 | 無 答          |
|-----|--------------|--------------|------------|------------|------------|---|--------------|------------------|--------------|--------------|
|     |              |              | 男          | 女          | 男          | 女 |              |                  |              |              |
| 上大原 | 63<br>(46.5) | 27<br>(20.0) | 1<br>(0.8) | 4<br>(3.0) | 1<br>(0.8) | — | 14<br>(10.4) | 5<br>(3.7)       | 2<br>(1.5)   | 18<br>(13.3) |
| 下大原 | 48<br>(47.8) | 21<br>(20.8) | —          | 1<br>(0.9) | —          | — | 9<br>(8.9)   | 3<br>(5.0)       | 2<br>(1.8)   | 17<br>(16.8) |



## (b) 取っている新聞

第64表

| 毎日新聞 | 朝日新聞 | 経済新聞 | 読売新聞 | 新潟日報 | スポーツ新聞 | 無 | 答 |
|------|------|------|------|------|--------|---|---|
| 5    | 8    | 1    | —    | 34   | —      |   | 6 |

## (c) 購読している雑誌 (子供のものも含む)

第65表

|       | 雑 誌 |    | 無  | 答 |
|-------|-----|----|----|---|
|       | 有   | 無  |    |   |
| 上 大 原 |     | 13 | 17 | — |
| 下 大 原 |     | 9  | 15 | — |

## ・雑誌の種類と購読数

| 家の光 | 農業          | 小供誌 | 農業と文化  | 農朝日  | 婦人界   | 少年  | 弁論 | 小学生 | 週刊日 |
|-----|-------------|-----|--------|------|-------|-----|----|-----|-----|
| 7   | 2           | 2   | 4      | 2    | 1     | 1   | 1  | 1   | 1   |
| 平凡  | リーダーズダイジェスト |     | 蒲原タイムス | 少女の友 | 主婦と生活 | 教育術 | 道  | 富民  | 無答  |
| 1   |             | 1   | 1      | 1    | 1     | 1   | 1  | 1   | 1   |

※補正調査で無答は雑誌未購者であることがわかった。

## (d) 文化教養講座の出席有無

第66表

|       | 講 座     |         | 無  | 答 |
|-------|---------|---------|----|---|
|       | 出席したこと有 | 出席したこと無 |    |   |
| 上 大 原 |         | 10      | 4  | — |
| 下 大 原 |         | 20      | 20 | — |

## ・教養講座の種類

| 農業講習 | 文化講座 | 料理講習 | いけ花講習 | 婦人講座 | 無 | 答  |
|------|------|------|-------|------|---|----|
| 10   | 1    | 2    | 1     | 1    |   | 41 |

※無答41については補正調査をした。その結果半数位は講座に出席しなかつたものの、他は忘れていたものであつた。

そしてその時の態度や応答で、甚だ無関心、薄い関心度しかないことがよみとれた。

## (e) 家庭内の電灯数

第67表

|     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11以上 | 無答 |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|------|----|
| 上大原 | — | 3 | 1 | 1 | 3 | 2 | 4 | 3 | 2 | —  | 7    | 4  |
| 下大原 | — | 2 | 3 | 2 | 5 | 3 | 1 | 1 | 3 | —  | 1    | 3  |

## (f) 農業指導者との接触

農協指導者や改良普及員は年四～五回の出張巡回指導する。農事講習もあり出席率よし。しかし影響力は有るとは言われない。(青年団では余りにも影響力がなさすぎるといつている)

## (g) 子供の教育について

第68表

## ・学 習 室

## ・学 習 机

| あり | なし | 無答 |
|----|----|----|
| 21 | 20 | 12 |

| あり | なし | なかま<br>で使う | なんでも出<br>して使う | 無答 |
|----|----|------------|---------------|----|
| 34 | 4  | 5          | 1             | 13 |

## ・学 習 用 具

| 子供のいう物はなんでも買ってやる | 親がよく見て買ってやる | なかなか買ってやれない | どうしているかわからない | 無答 |
|------------------|-------------|-------------|--------------|----|
| 12               | 28          | 3           | —            | 11 |

## ・学 習 時 間

| きまつている | きまつていない | 無答 |
|--------|---------|----|
| 8      | 29      | 14 |

## ・いつさせるか

| 自由に | 学校から帰るとすぐ | 夜させる | 朝させる | 無答 |
|-----|-----------|------|------|----|
| 31  | 7         | 3    | 1    | 13 |

## ・指導するもの

| いな い | 親が教える | 年上のものが教える | 無答 |
|------|-------|-----------|----|
| 5    | 11    | 30        | 13 |

(イ) 衛生関係

第69表

(a) 水の使用

|        | のみ水          | ふる水          | 野菜食物を洗う水     | せんたく         | 無答          |
|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|
| 川水     | 1<br>(0.9)   | 38<br>(36.6) | 26<br>(25.0) | 32<br>(30.8) | 7<br>(6.7)  |
| 井戸水    | 42<br>(49.4) | 11<br>(12.9) | 19<br>(32.4) | 6<br>(7.1)   | 7<br>(8.2)  |
| わかしごまし | 14<br>(53.9) | —            | 1<br>(3.8)   | 7<br>(15.4)  | 7<br>(26.9) |

(d) 肉や卵を食べる

第70表

| 週一回以上 | 月二、三回 | 月一回 | まれに | 無答 |
|-------|-------|-----|-----|----|
| 12    | 16    | 3   | 15  | 6  |

(c) 万年床

第71表

| あり | 忙しい時だけ | なし | 無答 |
|----|--------|----|----|
| 4  | 18     | 19 | 12 |

(d) 部屋の清掃

第72表

| 毎日朝晩 | 毎日一回 | 時々 | 大掃除の時 | 無答 |
|------|------|----|-------|----|
| 14   | 20   | 6  | 2     | 11 |

(e) 衛生関係の事業

村に保健婦がいて必要に応じてまわる……児童の洗眼等(結膜炎, 軽トラ15名位)村で計画する時に協力する。部落としての検査的な事業なし。

(ニ) 宗教関係

(a) あなたのお寺は

第73表

| 村内 | 村外 | 無答 |
|----|----|----|
| 16 | 32 | 3  |

(d) 精進日

第74表

| 定まっている | 定まつていない | 無答 |
|--------|---------|----|
| 41     | 3       | 9  |

## (c) 祭にはどうしますか

第75表

| 仕事をやすんで<br>おまいりする | うちでごちそう<br>をする | 代表がおまいり<br>する | 金や品物をあ<br>げる | 無 | 答 |
|-------------------|----------------|---------------|--------------|---|---|
| 42                | 37             | 11            | 22           |   | 7 |

## (d) 氏子調べ

第76表

|   | 上<br>大<br>原 | 諏<br>訪<br>様 | 諏<br>訪<br>様 | 下<br>大<br>原 | 村 | 氏 | 神 | な | し | 無 | 答 |
|---|-------------|-------------|-------------|-------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 上 | 18          | 3           | —           | —           | — | — | — | — | — | — | 9 |
| 下 | 1           | 5           | 3           | 7           | 1 | 1 |   |   |   |   | 7 |

## (4) 娯楽・慰安

## (a) ラジオ聴取番組（・ラジオ聴取 87%）

第77表

|         | ニ<br>ユ<br>1<br>ス | 浪<br>花<br>節 | の<br>ど<br>じ<br>ま<br>ん | 話<br>の<br>泉 | 講<br>座<br>の | 放<br>送<br>劇 | 演<br>芸 | 歌<br>謡<br>曲 | ス<br>ポ<br>1<br>ツ | 音<br>楽 | 講<br>談 | ク<br>イ<br>ズ | 漫<br>才 | 子<br>ど<br>も<br>の<br>時<br>間 | なん<br>でも<br>き<br>く | 時<br>報 | 無<br>答   |
|---------|------------------|-------------|-----------------------|-------------|-------------|-------------|--------|-------------|------------------|--------|--------|-------------|--------|----------------------------|--------------------|--------|----------|
| 61才以上   | 6<br>2           | 11<br>8     | 1<br>1                | —<br>—      | 1<br>—      | —<br>—      | —<br>3 | —<br>—      | 1<br>—           | —<br>— | 1<br>— | —<br>—      | —<br>— | —<br>—                     | 2<br>—             | —<br>— | 3<br>5   |
| 51 ~ 60 | 8<br>2           | 9<br>6      | —<br>5                | —<br>—      | 1<br>1      | —<br>—      | 2<br>— | —<br>—      | —<br>—           | —<br>— | —<br>— | —<br>—      | —<br>— | —<br>—                     | —<br>—             | —<br>— | —<br>4   |
| 36 ~ 50 | 20<br>6          | 13<br>10    | —<br>6                | 1<br>—      | 2<br>2      | 1<br>2      | 2<br>1 | 1<br>1      | —<br>—           | —<br>— | —<br>— | —<br>1      | —<br>— | —<br>—                     | 3<br>—             | —<br>3 | 5<br>11  |
| 26 ~ 35 | 11<br>1          | 8<br>2      | 4<br>5                | —<br>1      | 1<br>3      | —<br>—      | 3<br>2 | 1<br>—      | —<br>—           | —<br>— | —<br>— | —<br>—      | —<br>— | —<br>—                     | —<br>—             | —<br>— | 3<br>8   |
| 21 ~ 25 | 6<br>5           | 6<br>1      | 6<br>5                | —<br>—      | —<br>—      | —<br>1      | 2<br>— | 3<br>5      | 1<br>1           | —<br>2 | —<br>— | —<br>—      | —<br>— | 1<br>—                     | 2<br>—             | —<br>— | 4<br>3   |
| 13 ~ 20 | 4<br>4           | 3<br>—      | 4<br>6                | 1<br>1      | 1<br>1      | 2<br>3      | —<br>— | 7<br>2      | —<br>2           | —<br>— | —<br>— | 1<br>1      | —<br>— | 1<br>1                     | 2<br>—             | —<br>— | 20<br>15 |

## (d) 部落民の慰安

第78表

|      | 老人 | 主人 | 主婦 | 長男 | 嫁 | 二三男 | その嫁 | 弟  | 妹  |
|------|----|----|----|----|---|-----|-----|----|----|
| 映画   | 2  | 2  | 5  | 4  | 5 | 1   | 1   | 7  | 12 |
| 温泉   | 2  | 9  | 4  | 1  | — | —   | —   | 1  | 1  |
| 寺おこう | 2  | 2  | 7  | —  | — | —   | —   | —  | —  |
| 宴会   | —  | 5  | 2  | 4  | — | —   | —   | 2  | —  |
| 読書   | —  | 3  | —  | 2  | — | —   | —   | —  | 1  |
| 旅行   | —  | 4  | 4  | 1  | 1 | —   | —   | 2  | 2  |
| 銅育   | —  | 1  | —  | —  | — | —   | —   | —  | —  |
| 学芸会  | —  | —  | 7  | —  | 3 | —   | —   | —  | —  |
| 畑つくり | —  | —  | 1  | —  | — | —   | —   | —  | —  |
| ラジオ  | 1  | —  | —  | —  | — | —   | —   | 1  | —  |
| 夜酒   | 1  | —  | —  | —  | — | —   | —   | —  | —  |
| 浪曲   | 2  | 3  | —  | 1  | — | 1   | —   | —  | —  |
| 休み   | —  | 2  | 1  | 1  | 1 | —   | —   | 2  | 2  |
| 実家行  | —  | —  | —  | —  | 1 | —   | —   | —  | —  |
| パチンコ | —  | —  | —  | —  | — | —   | —   | 2  | —  |
| お祭り  | —  | 1  | —  | —  | — | —   | —   | —  | —  |
| 運動会  | —  | —  | 3  | —  | — | —   | —   | —  | —  |
| 演芸   | —  | —  | —  | —  | 2 | —   | 1   | 1  | 1  |
| 増産   | —  | 1  | —  | 1  | — | —   | —   | —  | —  |
| 就寝   | —  | 1  | —  | —  | — | —   | —   | —  | —  |
| スポーツ | —  | —  | —  | —  | — | —   | —   | 1  | —  |
| 庭木   | 1  | —  | —  | —  | — | —   | —   | —  | —  |
| 夕食   | —  | 1  | —  | —  | — | —   | —   | —  | —  |
| 無答   | 15 | 24 | 26 | 4  | 9 | 2   | 2   | 16 | 21 |

以上が第三次調査の結果であるが、紙の増幅が不可能なため、一つ一つについての説明や解釈はこれを省略せざるを得なかつたことは遺憾である。しかしこの資料を通覧することで、凡その部落のようすは把握されると思う。われわれが、この結果を第二次調査で把えた体活体制と結びつけ、さらに基本的立場より解釈して、いかなる問題の行動・態度をつかんだかは、次章「8.教育課題の設定」における問題の行動・態度を見ていただければ了解してもらえらると思う。

ただここで附言しておかなければならないことは、第三次調査の結果が第二次の生活体制で把握した結果と粗齟しているものもでてきたので、これについて

ては、さらに補正の意味で部落の幹部に（個々の点では直接その世帯にきいた）面接して真偽のほどをたしかめたということである。その結果補正されたものは前述の項目毎に（註）として説明しておいた。

### 7.1.3.3 子供の生活環境

これについては子供の生活行動圏その他今まで子供の生活行動・態度を把握してきたことについて、さらにこれを確証づけるものを補足的に見ることにした。補足的という意味は、成人と共に生活する子供の環境は、ほとんどそのまま7.1.3.2の結果から解釈してよいのであつて、成人と異なる子供の世界をこれに附加していけばよいという考えに立っているのである。

#### (1) 生活行動圏

生活行動圏については、日常はほとんど部落内に限られ、しかも学校の運動場が主たる遊びの広場である。隣部落へは特殊な用の時に出かける位であり、しかもその場合は他部落の子供の集団にいじめられる場合が多く、相当の覚悟と決断をもつてでかけるのである。

その他は白根・巻に親につれられて出かける場合もあるが、年に何度という限られた回数であり、新潟市へでかけるのは余程の特殊な場合か、また限られた子供（親類があるというような）である。しかしバスが部落をとおつて白根一巻間を往復し、電車が白根から新潟・燕に通ずるようになって、陸の弧島的大原部落もその生活圏を急速に広げ、子供らの行動圏も広がつたことは事実である。

#### (2) ラジオ聴取・新聞閲読状況

新聞ラジオの普及率は決して低くはないが利用の内容は

- ・スポーツ放送や記事に関する男児の関心
- ・音楽、のど自慢、ドラマ、クイズ、三つの歌、漫画には、男女ともに関心を示している。

新聞ラジオは、娯楽的なコミュニケーションの役割を果しているにすぎない。

第79表

## ラジオ聴取状況

| 学 年     | 9  | 8  | 7  | 6  | 5  | 4  | 3  | 2  | 1 | 計   |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|---|-----|
| A 公共放送  | {男 | 7  | 4  | 1  | 2  | 1  | 1  | —  | — | 17  |
|         | {女 | 5  | 1  | 3  | —  | 3  | 3  | —  | — | 15  |
| ニュース    | {男 | 7  | 4  | 1  | 1  | —  | 1  | 1  | — | 15  |
|         | {女 | 5  | 1  | 3  | —  | —  | 3  | —  | — | 12  |
| 予報, 体操他 | {男 | —  | —  | —  | 1  | 1  | —  | —  | — | 2   |
|         | {女 | —  | —  | —  | —  | 3  | —  | —  | — | 3   |
| B 教養放送  | {男 | —  | —  | —  | 1  | —  | 2  | —  | — | 3   |
|         | {女 | 1  | 4  | 2  | 1  | 3  | 1  | —  | — | 12  |
| こども音楽会  | {男 | —  | —  | —  | —  | —  | —  | —  | — | —   |
|         | {女 | 1  | 2  | 1  | 1  | 3  | —  | —  | — | 8   |
| なぞの旅 他  | {男 | —  | —  | —  | 1  | —  | 2  | —  | — | 3   |
|         | {女 | —  | 2  | 1  | —  | —  | 1  | —  | — | 4   |
| C 娯楽放送  | {男 | 27 | 19 | 25 | 40 | 26 | 31 | 25 | 8 | 202 |
|         | {女 | 33 | 35 | 17 | 1  | 7  | 20 | 5  | 6 | 125 |
| ・スポーツ   | {男 | 12 | 3  | 9  | 9  | 8  | 3  | 4  | 3 | 51  |
|         | {女 | —  | —  | —  | —  | —  | —  | 1  | — | 1   |
| ・音楽     | {男 | 7  | 12 | 4  | 7  | 5  | 5  | 4  | 3 | 47  |
|         | {女 | 12 | 11 | 5  | —  | —  | 7  | 1  | 2 | 38  |
| のど自漫等   | {男 | 3  | 5  | 1  | 5  | 3  | 2  | 4  | 3 | 26  |
|         | {女 | 5  | 6  | 2  | —  | —  | 4  | 1  | 2 | 20  |
| 浪 曲     | {男 | 2  | 2  | —  | —  | 2  | 3  | —  | — | 9   |
|         | {女 | 1  | —  | 1  | —  | —  | 1  | —  | — | 3   |
| 他       | {男 | 2  | 5  | 3  | 2  | —  | —  | —  | — | 12  |
|         | {女 | 6  | 5  | 2  | —  | —  | 2  | —  | 1 | 16  |
| ・ドラマ    | {男 | 2  | 1  | 1  | 8  | 6  | 17 | 8  | 1 | 44  |
|         | {女 | 9  | 15 | 4  | —  | 2  | 5  | 1  | — | 36  |
| ・クイズ    | {男 | 6  | 1  | 10 | 15 | 7  | 6  | 9  | 1 | 36  |
|         | {女 | 12 | 8  | 5  | 1  | 5  | 7  | 3  | 3 | 44  |
| 三つの歌    | {男 | 3  | —  | 3  | 6  | 4  | 4  | 5  | 1 | 27  |
|         | {女 | 4  | 7  | 3  | 1  | 4  | 4  | 2  | 3 | 28  |
| 二十の扉    | {男 | 1  | —  | 3  | 6  | 3  | —  | —  | — | 13  |
|         | {女 | 5  | —  | 2  | —  | 1  | 1  | —  | — | 9   |
| とんち教室   | {男 | 1  | 1  | 2  | 2  | —  | 1  | 2  | — | 9   |
|         | {女 | 3  | 1  | —  | —  | —  | 1  | 1  | — | 6   |
| 他       | {男 | 1  | —  | 2  | 1  | —  | 1  | 2  | — | 7   |
|         | {女 | —  | —  | —  | —  | —  | 1  | —  | — | 1   |
| ・落語万才等  | {男 | —  | 2  | 1  | 1  | —  | —  | —  | — | 4   |
|         | {女 | —  | 1  | 3  | —  | —  | 1  | —  | — | 5   |
| ラジオがない  | {男 | —  | —  | 1  | —  | —  | 1  | —  | — | 2   |
|         | {女 | 3  | —  | 1  | —  | —  | —  | 1  | — | 6   |
| あるがきかない | {男 | —  | —  | 1  | —  | 3  | —  | 1  | — | 5   |
|         | {女 | —  | —  | —  | —  | —  | —  | —  | 1 | 1   |

第80表

## 新聞の閲読状況

| 学 年       | 9 | 8  | 7  | 6  | 5  | 4 | 3  | 2 | 1 | 計  |
|-----------|---|----|----|----|----|---|----|---|---|----|
| A 政治欄     | 男 | 2  | 1  | —  | 1  | 1 | 1  | 1 | — | 8  |
|           | 女 | 4  | 4  | 1  | —  | — | 2  | — | — | 11 |
|           |   |    |    |    |    |   |    |   |   |    |
| ビックニュース   | 男 | 2  | —  | —  | 1  | 1 | 1  | 1 | — | 7  |
|           | 女 | 4  | 3  | 1  | —  | — | 2  | — | — | 10 |
| 社説・その他    | 男 | —  | 1  | —  | —  | — | —  | — | — | 1  |
|           | 女 | —  | 1  | —  | —  | — | —  | — | — | 1  |
| B 社会欄     | 男 | 6  | 10 | 12 | 11 | 9 | 16 | 7 | 3 | 75 |
|           | 女 | 16 | 8  | 8  | 1  | 2 | 12 | 1 | 1 | 49 |
| 社会雑ニュース   | 男 | 5  | 1  | 3  | —  | — | 3  | — | — | 12 |
|           | 女 | 4  | 1  | 2  | —  | — | 1  | — | — | 8  |
| 天気予報      | 男 | 2  | —  | 1  | —  | — | —  | — | — | 3  |
|           | 女 | 3  | 2  | 1  | —  | — | —  | — | — | 6  |
| ラジオ番組     | 男 | 3  | 5  | 5  | 2  | 1 | 2  | — | — | 18 |
|           | 女 | 6  | 4  | 4  | —  | 1 | 3  | — | — | 18 |
| スポーツ欄     | 男 | 1  | 1  | 2  | 8  | 6 | 2  | — | — | 20 |
|           | 女 | —  | —  | —  | —  | — | 1  | — | — | 1  |
| 漫 画       | 男 | —  | 3  | 1  | 1  | 2 | 7  | 7 | 3 | 25 |
|           | 女 | 3  | 1  | 1  | 1  | 1 | 7  | 1 | 1 | 16 |
| 他         | 男 | —  | —  | —  | —  | — | 2  | — | — | 2  |
|           | 女 | —  | —  | —  | —  | — | —  | — | — | —  |
| C 学芸欄     | 男 | —  | 2  | 1  | 2  | 2 | 4  | 2 | — | 13 |
|           | 女 | 3  | 4  | —  | —  | 1 | 1  | — | — | 9  |
| 小 説       | 男 | —  | 1  | —  | —  | — | —  | — | — | 1  |
|           | 女 | 3  | 4  | —  | —  | — | —  | — | — | 7  |
| 絵 物 話     | 男 | —  | 1  | 1  | 1  | 2 | 4  | 2 | — | 11 |
|           | 女 | —  | —  | —  | —  | 1 | 1  | — | — | 2  |
| 他         | 男 | —  | —  | —  | 1  | — | —  | — | — | 1  |
|           | 女 | —  | —  | —  | —  | — | —  | — | — | —  |
| 新聞をとっていない | 男 | —  | —  | 1  | —  | 2 | 1  | — | — | 4  |
|           | 女 | 2  | —  | 2  | —  | — | —  | 1 | — | 6  |
| とっているがみない | 男 | —  | —  | —  | 5  | 4 | —  | — | — | 9  |
|           | 女 | —  | 3  | —  | —  | 1 | —  | 1 | 2 | 9  |



## (3) 本の所有状況と雑誌のとり方

第81表

| 学 年          | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計 |    |
|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 本や参考書を持たない   | 男 | 1 | 6 | 3 | 6 | 7 | 5 | 6 | 2 | — | 36 |
|              | 女 | 8 | 6 | 5 | 1 | 3 | 5 | 3 | 2 | 1 | 34 |
| 雑誌を持たない      | 男 | 3 | 2 | 1 | 3 | 1 | 4 | 3 | — | 1 | 18 |
|              | 女 | 1 | 4 | 1 | — | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 12 |
| 辞典や参考書を持つ    | 男 | 5 | 2 | 3 | — | — | — | — | — | — | 10 |
|              | 女 | 2 | — | — | — | — | — | — | — | — | 2  |
| 毎月買ってもらう     | 男 | — | — | — | — | 1 | 1 | 2 | 1 | — | 5  |
|              | 女 | 2 | 2 | — | 1 | 1 | — | — | — | — | 6  |
| 時々買ってもらう     | 男 | 4 | 2 | 5 | 3 | 2 | 3 | — | 1 | — | 20 |
|              | 女 | 5 | 3 | 4 | — | 2 | 4 | 1 | 1 | 1 | 21 |
| 盆や正月等を買ってもらう | 男 | 1 | 1 | 1 | 3 | 6 | 1 | 2 | 1 | — | 16 |
|              | 女 | 3 | — | 1 | — | — | 3 | 2 | 2 | — | 11 |

本や参考書・雑誌を全く持たない子供が大半を占めおり、大部分の子供は稀れに雑誌や漫画本を買ってもらう程度で、余りめぐまれていないことが判る。

また第66表(p147)に換げてあるように、学習室、机・学習用具など不十分なものも相当数あり、学習時間も子供の自由に任せられて、父兄の中には関心を払っていないものが多い。指導する人は、親・兄・姉の年上者であるが、これとてその内容にふれてみると、積極的・計画的指導がなされているのではない。

## (4) 間食の状況及びその内容

第82表

## 1. 間食の状況

| 学 年     | 9         | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 計  |    |
|---------|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|
| 全くもらわない | 男         | 5 | 3 | 2 | — | — | — | — | — | 10 |    |
|         | 女         | — | — | 2 | — | — | — | — | — | 2  |    |
| 平日      | 帰宅するとすぐ貰う | 男 | 2 | 2 | 5 | 4 | 6 | 8 | 4 | 2  | 33 |
|         |           | 女 | 7 | 6 | 1 | 1 | 2 | 6 | 4 | 3  | 33 |
| 平日      | 夜ももらう     | 男 | — | — | — | — | — | — | — | —  | —  |
|         |           | 女 | 2 | 2 | — | — | — | — | — | —  | 4  |
| 平日      | その他       | 男 | — | — | — | — | — | 1 | — | —  | 1  |
|         |           | 女 | — | — | — | — | — | — | — | —  | 1  |
| 平日      | もらわない     | 男 | 6 | 3 | 2 | 5 | 4 | 1 | 2 | 1  | 25 |
|         |           | 女 | 2 | 1 | 5 | — | 2 | 1 | — | 1  | 12 |

|     |           |     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
|-----|-----------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 休 日 | 午前または午後1回 | {男女 | 1 | — | 1 | 2 | 2 | 2 | 4 | 2 | 1 | 15 |
|     |           | {男女 | 8 | 6 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 3 | 3 | 28 |
|     | 2回もろう     | {男女 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | — | — | — | 9  |
|     |           | {男女 | 3 | 1 | 1 | — | 2 | 3 | 3 | 1 | — | 14 |
|     | 仕事ですんだ時貰う | {男女 | 1 | 1 | 1 | 4 | 4 | 2 | — | — | — | 13 |
|     |           | {男女 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | —  |
|     | そ の 他     | {男女 | — | — | — | — | 1 | 1 | 3 | — | — | 5  |
|     |           | {男女 | — | — | — | — | 2 | — | — | — | — | 2  |
|     | も ら わ な い | {男女 | 5 | 3 | 4 | 1 | 1 | 2 | — | 1 | — | 17 |
|     |           | {男女 | — | 2 | — | 2 | 1 | 2 | 2 | — | — | 9  |

## 2. 間食の種類

| 学 年           | 9         | 8   | 7  | 6  | 5  | 4  | 3  | 2  | 1  | 計 |     |    |
|---------------|-----------|-----|----|----|----|----|----|----|----|---|-----|----|
| A 家で栽培加工したもの  | {男女       | —   | 2  | 3  | 17 | 22 | 2  | 2  | —  | 1 | 49  |    |
|               | {男女       | 16  | 6  | 3  | 1  | 10 | 1  | —  | 2  | 1 | 40  |    |
|               | 米 麦 加 工 品 | {男女 | —  | 2  | 3  | 3  | 9  | —  | 2  | — | 1   | 20 |
|               |           | {男女 | 14 | 6  | 3  | —  | 5  | —  | —  | 2 | —   | 30 |
|               | 野 菜 ・ 果 物 | {男女 | —  | —  | —  | 14 | 13 | 1  | —  | 1 | —   | 29 |
| {男女           |           | 1   | —  | —  | 1  | 5  | 1  | —  | —  | 1 | 9   |    |
| 他             | {男女       | —   | —  | —  | —  | —  | 1  | —  | —  | — | 1   |    |
| B 購 入 し た も の | {男女       | 5   | 3  | 10 | 20 | 12 | 36 | 23 | 6  | 1 | 116 |    |
|               | {男女       | 20  | 26 | 5  | 3  | 10 | 30 | 12 | 10 | 5 | 121 |    |
| 菓 子 類         | {男女       | 5   | 3  | 7  | 11 | 8  | 22 | 13 | 5  | 1 | 75  |    |
|               | {男女       | 15  | 15 | 5  | 1  | 7  | 14 | 7  | 7  | 4 | 75  |    |
| 果 物 類         | {男女       | —   | —  | 3  | 9  | 4  | 7  | 6  | 1  | — | 30  |    |
|               | {男女       | 4   | 11 | —  | 2  | 3  | 10 | 3  | 3  | 1 | 37  |    |
| 他             | {男女       | —   | —  | —  | —  | —  | 7  | 4  | —  | — | 11  |    |
|               | {男女       | 1   | —  | —  | —  | —  | 6  | 2  | —  | — | 9   |    |

間食をもらう時期は、平日では学校から帰宅した時、日曜日は午前にもらう時が圧倒的に多い。間食はエネルギーの補給と云うよりは、仕事に対する報酬の意味を持っている。またその種類は、農家で自家生産されている“いり米・いりまめ・かたもち・さつまいも・柿”などがその主なるものであるが、購入した菓子・果物類が自家生産より上まわっていることは注目される。

以上第一次、第二次、第三次と数回に亘る諸調査から、この大原部落の子供の生活の構えとして、次に示すような“問題をもたない”“自主性が乏しい”“争いを好まぬ”“よく働く”を指摘することができる。

